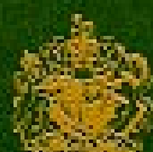





RANGE ROVER

Owner's Hand Book

取扱説明書



第１章　はじめに

目　次　ページ

はじめに

本書の適用モデル

このたびは、ランドローバー車をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書は、レンジローバーの4.0および4.6リッターV8ガソリン エンジンの最新モデルを対象にしています。初めて運転される前に必ず、この「はじめに」のセクションを熟読してください。特に「安全・快適ドライブの6ポイント」は重要ですので、必ずしっかりお読みください。次に、各セクションごとに各装置の使い方、計器類、ドライブテクニック、日常運転するうえでの注意事項などをご確認ください。

特にお知りになりたいことがあれば、まず目次と索引を見て、説明されているページを見つけてください。

レンジローバーの仕様はその国の事情によって異なる場合があり、また車両のモデルによっても異なります。従って、この取扱説明書に記載された内容はお客様の購入された車両に一致しない場合がありますことをあらかじめご了承ください。

ランドローバーは「絶えず製品の品質向上をめざす」というポリシーに沿って、予告なく仕様を変更する場合があります。本書の記載内容につきましては、その正確さに関して万全を期しておりますが、内容の不備ならびにそれが原因で発生した財産損失、物的損害および人身傷害に関しましては、販売店または製造業者の過失が原因で発生した人身傷害を除き、本書を提供した販売店または製造業者は、その責任を取りかねますのでご承知おきください。

本書中に採用しているイラストは必ずしも日本仕様と合致していない場合があります。

はじめに

新車を購入された時

全てのオーナーとドライバーに最適な運転をしていただくように、次の小冊子が車に添付されています。

1. 取扱説明書：いまお読みになっているこの取扱説明書には、レンジローバーの一般的な説明をはじめ、サービス上の注意事項、車両の保証、日常のメンテナンスの方法等、大切なことが書かれています。
2. クイックガイド: 最低限運転に必要な情報が記載されています。詳細については、必ず取扱説明書をご覧ください。
3. メンテナンス ノート：保証項目、必要な整備項目が示され、適切な期間ごとに整備点検が実施された場合、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場が署名し、スタンプを押して実施内容を証明します。

   ランドローバー特約販売店または指定サービス工場で実施される整備作業は現行の作業基準に従っておりますが、そのつど変更されることがあります。
4. セールス＆サービス ネットワーク：全国のローバー車を取り扱っている特約販売店および指定サービス工場が記載されています。旅先などでお困りの際は、最寄りのランドローバー特約販売店および指定サービス工場にご相談ください。
5. オーディオ システム取扱説明書：オーディオの機能および操作方法を説明しています。

新しくレンジローバーを購入された方へのお願い

● 取扱説明書を読みながら、新しい機能や車の最適な使い方を確認してください。



● レンジローバーは地上高が高めであり、従って通常の乗用車より高い位置に重心があります。これによって違ったハンドリングや特性がでます。
このような車両の運転経験のない方は特に注意をし、とりわけオフロードを運転する場合や路面抵抗の低い場所での急なステアリング操作には十分注意を払ってください。

● 車はランドローバー特約販売店または指定サービス工場で定期的に整備してください。

はじめに

車両の保証

ランドローバーは車両保証として、そのサービスに関する保証書を発行しています。保証書はメンテナンス ノートの中にあります。クレームを請求される場合、次の注意事項に従ってください。

1. レンジローバー車両本体またはその部品については、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場に請求してください。この時、できるだけお買い求めになった販売店で手続きされるようお願いします。
2. ランドローバー特約販売店または指定サービス工場は、車両本体または部品を点検のうえ、保証の対象と認められた場合に無償で修理作業をいたします。当社は修理作業を実施する前に、必要な場合、部品または材質を検査させていただきます。
3. クレームについては、その内容に関係なく、摩耗や破損の原因、保守を怠った場合または不法な改造等について調べさせていただきます。あらかじめご了承ください。
4. タイヤやステレオは別扱い保証ですのでご注意ください。当社が標準装備しているタイヤやステレオについては、各メーカーが対応します。詳しくはランドローバー特約販売店または指定サービス工場にお問い合わせください。

はじめに

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載してあります。

これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示に従わないと、死亡または重要な傷害に至るもの



指示に従わないと、死亡または重要な傷害を受ける可能性があるもの



指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

● その他の表示

車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

 アドバイス

車のために守っていただきたいこと
車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています

 知識

知っておいていただきたいこと/知っておくと便利なこと

はじめに

- 運転はルールを守り、マナーよく。
  - シートベルトを装着しましょう。
  - 法定速度を守りましょう。
  - 子供やお年寄りをいたわりましょう。
  - 駐車場は、ルールに従いましょう。
  - 迷惑運転はやめましょう。
  - 自然環境保護に気を配りましょう。
- 保証や点検整備に関することはメンテナンス ノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。
- 取扱説明書はメンテナンス ノートと共に、いつも車に保管してください。
- 車をゆずられる時は、次に所有される方のためにこの取扱説明書およびメンテナンス ノートを車につけておいてください。
- ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車両に貼ってある警告ラベル



取扱説明書の該当箇所を読む前に、車の構成部品に触ったり調整してはいけない場所を示しています。

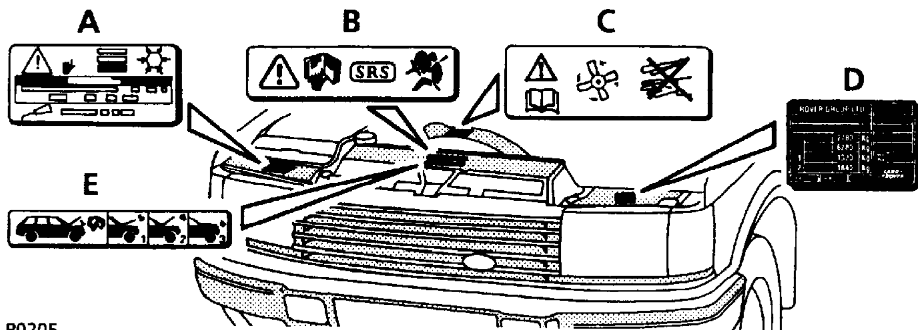


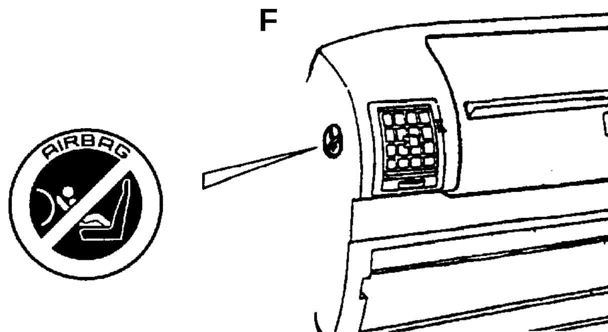
イグニッション システムに高電圧が使われていることを示しています。イグニッション スイッチが「ON」になっている間は、イグニッションの構成部品に一切触れないでください。

はじめに

車に取り付けられているラベル類

車両の各所には安全のための特別な情報について記載されたラベルが貼ってあります。重要なラベルを以下に示します。





A. エア コンディショナー
B. SRSエアバッグ警告ラベル
C. 回転部品には近寄らないでください
D. 車台番号（車両識別番号）
E. ボンネットの開閉方法について
F. 助手席後向きチャイルドシート設置禁止

SRSエアバッグについては、車両のサンバイザーなどに貼ってあるラベルに記載されている注意事項を参照してください。

はじめに

車台番号

車両に関してランドローバー特約販売店にご連絡いただく際、車台番号をお尋ねする場合があります。

車台番号と最大荷重は運転席から見て左側の前照灯の上に取り付けられているパネルに刻印されています。これはメンテナンス ノートに記録されている車台番号と同じです。

加えて、盗難を妨げ、盗難に遭った際の警察の活動を助けるために、車台番号は同様に左側のフロント ウィンドウから視認できるように刻印されています。

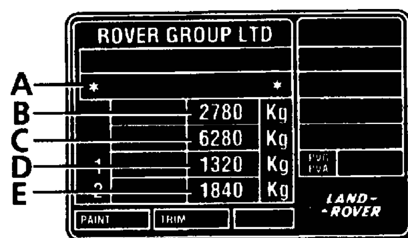
A. 車台番号（車両識別番号）

B. 最大けん引重量（必要な場合）

C. 車両総重量（必要な場合）

D. 最大前軸重量（必要な場合）

E. 最大後軸重量（必要な場合）




アドバイス

- 安全のために、最大積載重量、最大車両けん引重量、および車軸重量を決して超えないようにしてください。詳細については、「テクニカル データ」をお読みください。

はじめに

盗難防止についてのご注意

プロの「車泥棒」を阻止することは困難ですが、ほとんどの「車泥棒」は経験の少ない者の出来心から行われるようです。

従って、車の安全を守るためには、たとえ数分間車を離れる場合でも以下の3項目の注意点は必ず守るよう心がけてください。

1. 全ての窓とサンルーフを閉める。
2. 貴重品を車に置いたままにしないか、目につかない場所に隠す。
3. エンジン キーは必ず抜く。

犯罪者は、わずかな「スキ」につけこみます。

以上の3点の注意事項を守るように心がければ、お客様の車の安全を確実なものにすることができます。

後悔より、安全を選びましょう！

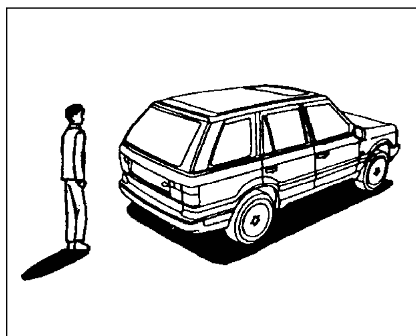
- 近所の人や通行人に目のつきやすい場所に駐車しましょう。
- 夜間駐車の場合は、なるべく明るい場所を選びましょう。
- 自宅ではなるべく車庫を利用して、必ずキーは抜くようにしましょう。
- スペアキーを車内に置かないようにしましょう。

Point 1　お出かけの前に

安全・快適ドライブの６ポイント

点検をわすれずに。〈メンテナンスノート参照〉

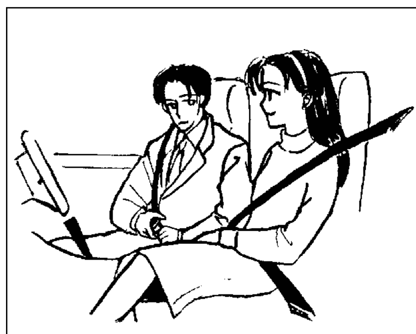
- 安全・快適にお使いいただくために、点検要領に従って必ず点検しましょう。
- 普段と違う点に気付いたら、ランドローバー特約販売店で点検を受けてください。（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時…）



- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく装着。〈69ページ参照〉

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも装着させましょう。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。

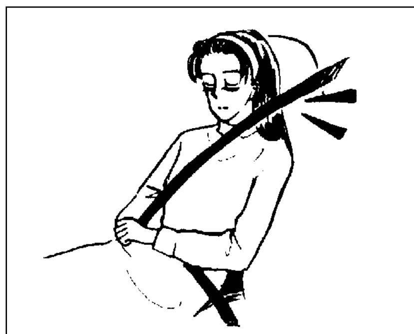


Point 1　お出かけの前に

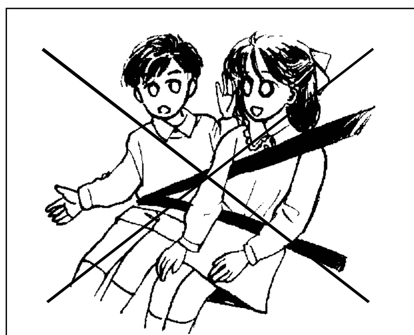
- 腰骨のできるだけ低い位置に装着してください。
- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトが首、あご、顔などに当たらないようにしてください。



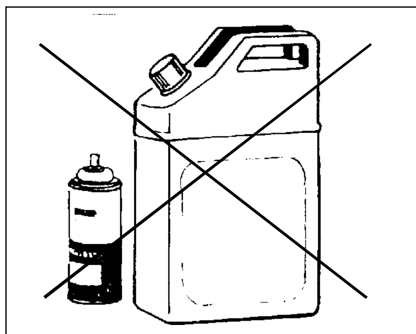
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



Point 1　お出かけの前に

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

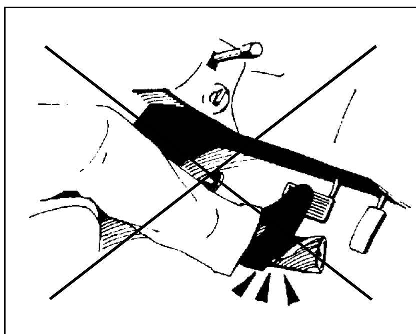
● 引火、爆発の恐れがあります。



運転のさまたげになるものには注意を。

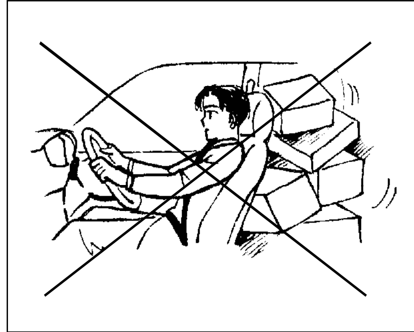
● 運転者の足もとに、物を置かないでください。

● フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。
  - ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできない恐れがあります。



Point 1　お出かけの前に

● 手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。
- 後方視界をさまたげたり、急ブレーキの時などに荷物が飛び出す恐れがあります。

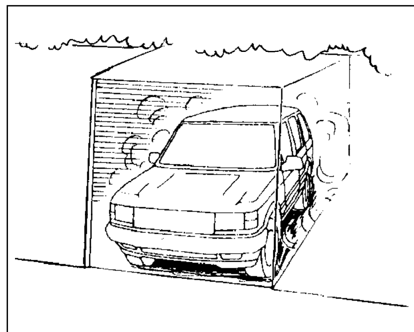


排気ガスには十分に気をつけて。

● 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒の恐れがあります。

● 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
- 車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒の恐れがあります。

● 排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気付いたらランドローバー特約販売店で点検を受けてください。
- 排気管の腐食による穴や損傷による亀裂があると車内に排気ガスが侵入する恐れがあります。



Point 2　お子様のために

ドア、ウィンドウ、サンルーフ、シートの操作は必ず大人が。

- 手、足、首などをはさまないよう、気をつけてください。
- パワーウィンドウのメインスイッチは、「OFF」にしておきましょう。
- 走行中、一時停止の時など、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。
  - 思わぬ障害物で事故の恐れがあります。

車から離れる時は、お子様も一緒に連れて。

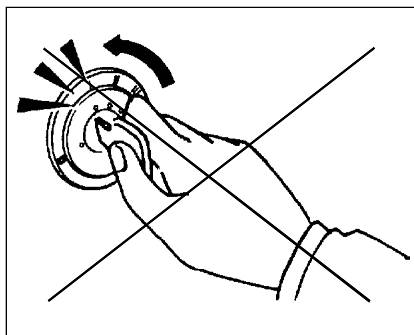
- お子様だけを車内に残さないでください。
  - 炎天下の車内は、高温になり死に至る恐れがあり危険です。
  - お子様のいたずらにより車の発進､火災などの思わぬ事故につながる恐れがあります。

お子様にもシートベルトを。〈71ページ参照〉

- お子様にもシートベルトを装着させるか､チャイルドシートなどをお使いください。
  お子様を抱いていても、衝突した時などに支えることができず危険です。
- お子様の首やあごにシートベルトがあたる場合や､腰骨にかからない場合はチャイルドシートなどを使用してください。
  シートベルトをそのまま使うと衝突の時に胸部などに強い圧迫を受ける恐れがあります。

Point 3　状況に適した運転を

- 走行中ステアリングホイールの中に手を入れて､スイッチを操作しないでください。
  - ステアリング操作の妨げになり大変危険です。
- 走行中はエンジンを止めないでください。
  - ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
  - パワー ステアリングのパワー装置が働かなくなり、ステアリング操作が重くなります。
- 走行中はキーをスイッチから外したり、「０」位置にしないでください。
  - ステアリングがロックされ、かじとり操作が出来ず大変危険です。

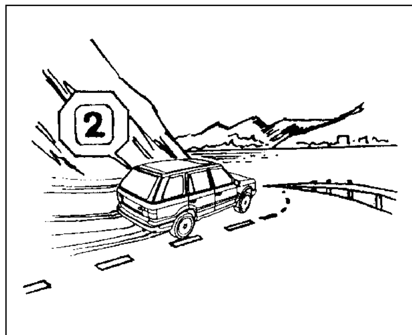


Point 3　状況に適した運転を

長い下り坂では * エンジンブレーキを。

- ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。
- 長い下り坂では走行速度に合わせ、「2」を使って、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを最大限にかける必要がある時には、「1」を使用してください。

＊ エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルを戻した時にかかるブレーキ力で、低速ギアほどよくききます。

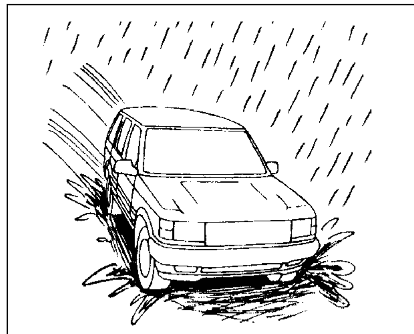


Point 3　状況に適した運転を

雨天時の走行には注意を。

● 雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。
  - 急加速、急ブレーキや急なステアリング操作を避け、スピードを落として安全に心がけてください。

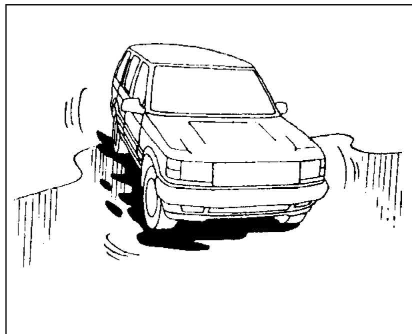
● わだちなどの水のたまりやすい場所では、*ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。
  ＊ ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとした時に、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。このような状態になると、ステアリング操作やブレーキがきかなくなり、非常に危険です。



Point 3　状況に適した運転を

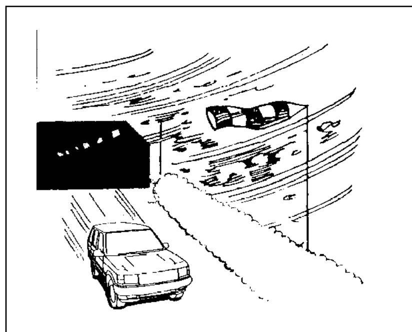
水たまりに入った後はブレーキのきき具合を確認。

- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。
  - ぬれたブレーキはききが悪かったり､ぬれていない片側だけがきいてステアリングをとられることがあります。
- ブレーキのききが悪い時は、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。



横風の強い日は。

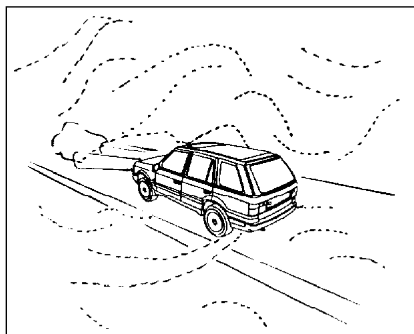
- 横風を受け、車が横に流されるような時は、ステアリングをしっかり握り、スピードを除々に下げて進路を立て直してください。
  - トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり､追い越されたりする時などには､特に横風が発生しやすいので十分注意してください。



Point 3　状況に適した運転を

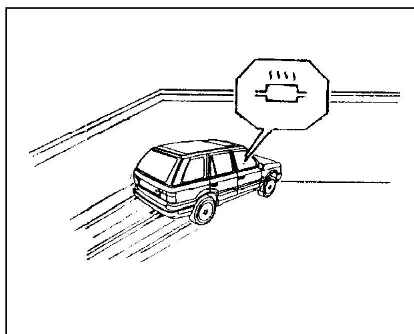
霧が出た時は。

● 霧が出た時は、視界が悪くなりますので、前照灯を早めに点灯します。前照灯は必ず下向きにし、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。



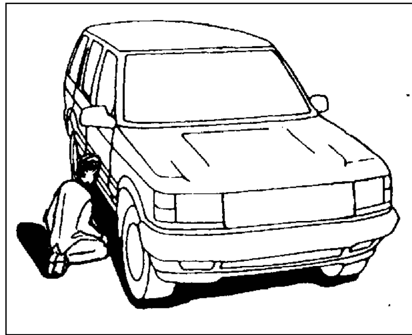
走行中異常があったら。

● 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し処置をしてください。
〈82〜86ページ参照〉
  • 点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷する恐れがあります。



Point 3　状況に適した運転を

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ステアリングをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  - 急ブレーキや急なステアリング操作は車のコントロールを失うことがあり危険です。
- 床下に強い衝撃を受けた時は、直ちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。
  - ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながる恐れがあります。



車両故障時における安全確保

- 可能な限り道路の安全と交通事情に合わせて、車両を路側等に車の流れから外してください。

  高速道路で故障が発生した場合、路側帯に止めてください。
- 非常点滅表示灯を点灯させてください。
- 可能ならば停止表示板または発煙筒で、故障車があることを他の車両に知らせるに十分な距離に置いてください。
- 他の車両がお客様の車両に衝突されても安全な距離に同乗者を避難させてください。その際、路片に最も近いドアから、降車するようにしてください。

Point 4　オートマチック車の扱いには

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。「オートマチック ギアボックス」の項もあわせてお読みください。〈130 ～137ページ参照〉

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっている時、シフトレバーが「P」、「N」以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

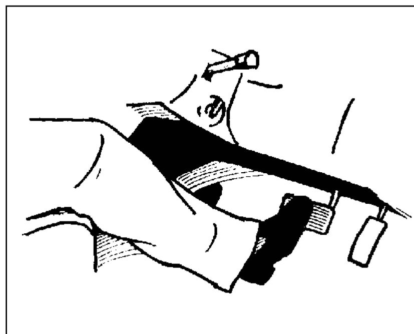
- 「D」で走行中にアクセルペダルを一杯に踏み込むと、自動的に低速ギアに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。これをキックダウンといいます。

ブレーキは右足で。

- ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
  - 不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

エンジンをかける前に。

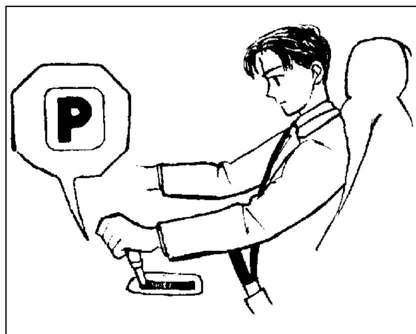
- ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



Point 4　オートマチック車の扱いには

エンジンをかける時。

● 安全のため、シフトレバーは駆動輪が固定される「P」でエンジンをかけましょう。

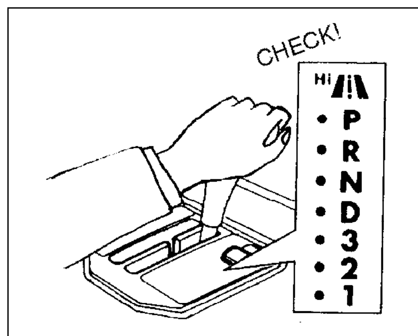


スタートする時。

● 思いちがいを防ぐため、シフトレバーの位置を目で確認しましょう。

● 発進時のシフトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。

● アクセルペダルを踏んだまま、シフトレバーを操作しないでください。
  - 急発進して思わぬ事故のもとになります。

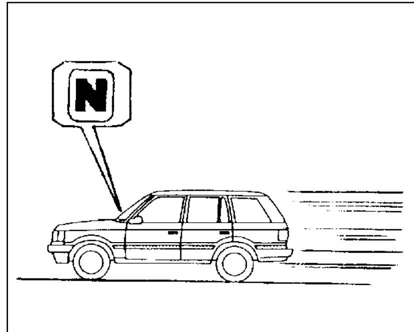


● エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
  - エアコン作動時も同じです。

Point 4　オートマチック車の扱いには

走行している時。

- 走行中は、シフトレバーを「N」にしないでください。
  - エンジンブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。



- 上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだ時、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。
  アクセルペダルは、慎重に操作してください。
  また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。
- 下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。
  - フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなる恐れがあります。

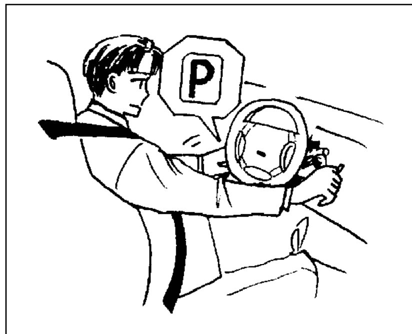
停車している時。

- 車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけましょう。
- 停車中の空ぶかしは、やめましょう。
  - 万一、シフトレバーが「P」、「N」以外の時、思わぬ急発進のもとになります。

Point 4　オートマチック車の扱いには

駐車する時。

- 駐車する時は、シフトレバーを「P」に入れ、エンジンを止めましょう。
  - 万一、シフトレバーを「P」、「N」以外に入れていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込む時に、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりする恐れがあります。



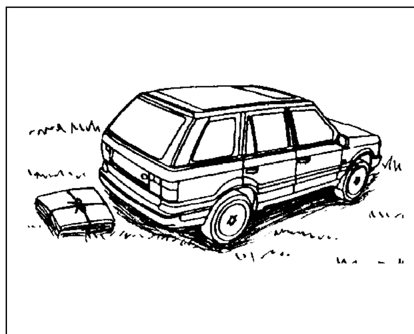
ほかに気をつけたいこと。

- 後退した後は、すぐ「R」から「N」にもどす習慣をつけましょう。
  - ちょっと後退した時など、「R」に入れたことを忘れてしまうことがあります。
- 前進から後退、後退から前進する時は車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを操作してください。
  - 車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損の恐れがあります。
- 車が完全に止まらないうちに、「P」に入れないでください。
  - 急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

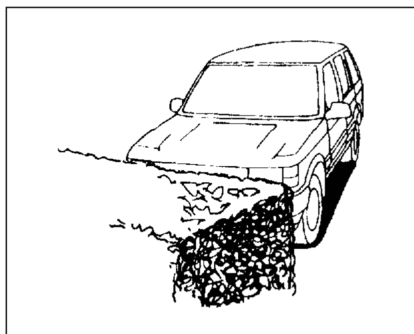
可燃物には注意を。

● 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。
  - 排気管や排気ガスの熱により、着火する恐れがあります。



植込みなどにも注意して。

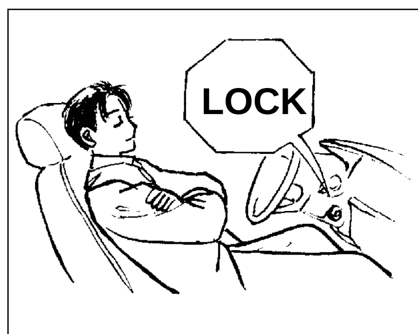
● 植込みなどの近くに駐停車する時には、排気ガスがあたらないように、車の向きを決めましょう。



Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

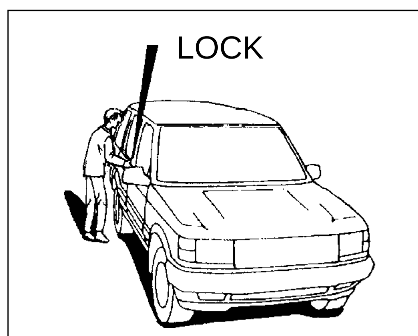
仮眠する時はエンジンを止める。

- エンジンを必ず止めてください。
  - 無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こす恐れがあります。
    また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生する恐れがあります。
    さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒の恐れもあります。



車から離れる時には施錠を。

- 必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。
- 車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- お子様も連れていきましょう。



Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

車の移動はエンジンをかけて。

- 車を移動する時は、必ずエンジンをかけてください。
  - 下り坂を利用した移動等は、思わぬ事故を招くことがあります。

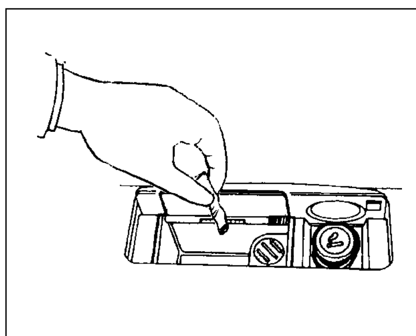
坂道での駐車は。

- 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを「P」に入れてください。
  さらに、タイヤに輪止めすると効果があります。長時間駐車する場合は、必ず輪止めをするようにしてください。

Point 6　こういうことにも気をつけて

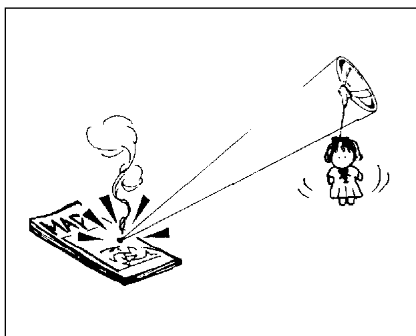
タバコの吸いがらは火を消して。

- タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。



アクセサリーの取り付けには注意を。

- ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。
  - 運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



Point 6　こういうことにも気をつけて

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

- 炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると､ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりする恐れがあります。

ラジエーターキャップに気をつけて。

● ラジエーターキャップが熱い時は、外さないでください。
  - 蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



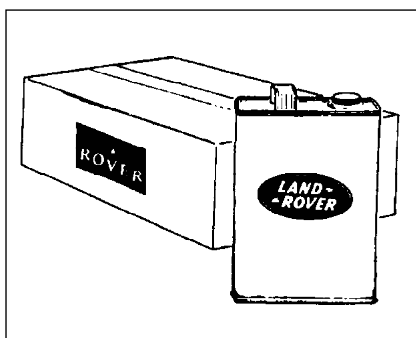
ステアリングホイールを一杯に回した状態をつづけない。

● ステアリングを一杯に回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。
  - パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良を起こし、損傷することがあります。

Point 6　こういうことにも気をつけて

改造はしない。

● ローバー純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。
  - 適正な性能や機能を発揮しなかったり､思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
  - ローバーが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると､違反になることがあります。



● ホイールは、ローバー専用品をご使用ください。
  - 専用品以外のホイールを使うと､走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
    ランドローバー特約販売店にご相談ください。

● 無線装置や自動車電話などの取り付けの際には､必ずランドローバー特約販売店にご相談ください。
  - 装置や取り付け方法が適切でない場合は､電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。



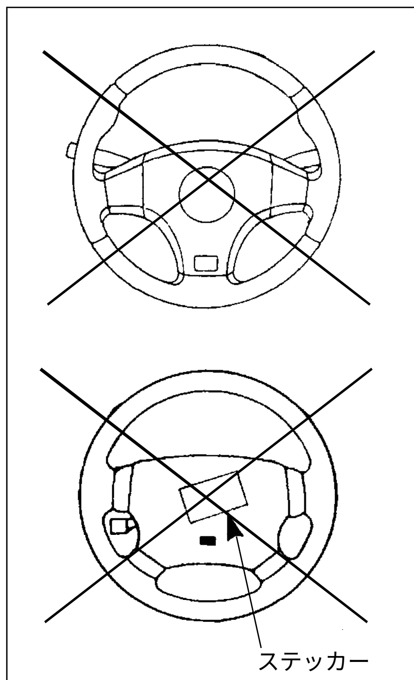
Point 6　こういうことにも気をつけて

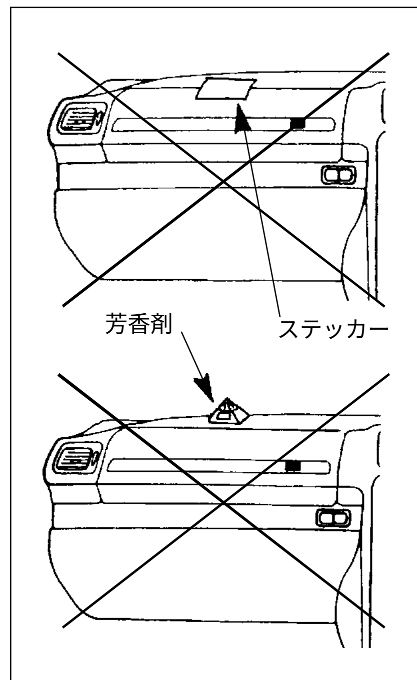
- SRSエアバッグ システム装着車は、ステアリングを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。

  計器パネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。

  また、前面ガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

  - SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
  - 作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
  - 次の場合は、必ずランドローバー特約販売店にご相談ください。
    ①ステアリングまわりの修理
    ②センターコンソール付近の修理
    ③カーステレオ等用品の修理
    ④フェイシア周辺の板金塗装および修理
    ⑤計器パネルまわりの修理



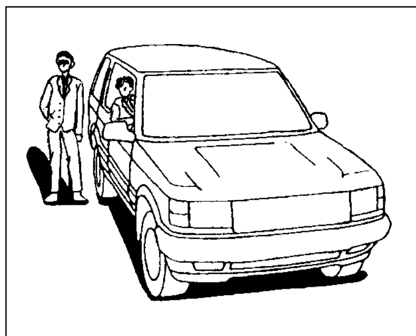


Point 6　こういうことにも気をつけて

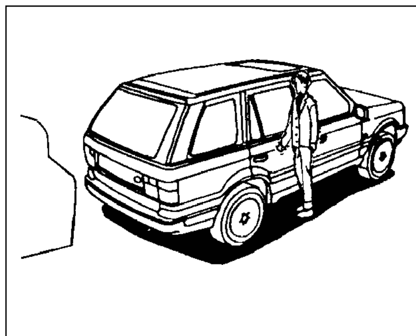
発進する時は、まわりの状況に十分注意して。

● 車のまわりには運転席から見えないところ（死角）があります。発進する時は子どもや障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

● 駐車後に発進する時は、車の安全確認を十分に行ってください。

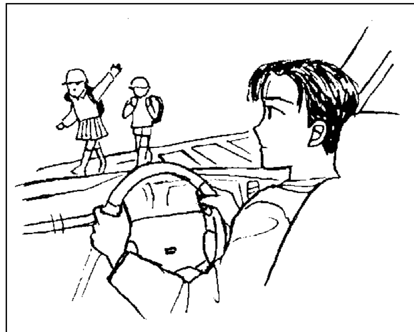


● 後退する時に十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  - バックミラーでは確認しきれない死角（車の直後など）があります。



Point 6　こういうことにも気をつけて

● 信号待ち等の停車後に発進する時は、常にまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。



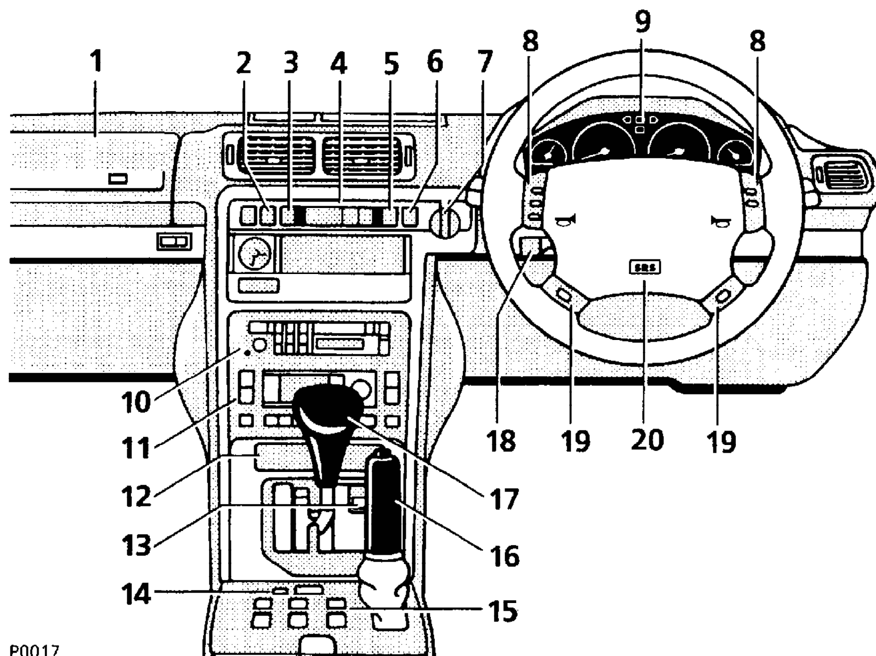
第 2 章　装置と計器類

目　次　ページ

この章ではレンジ ローバーの装置と計器類について説明致します。

安全運転のため、必ずこの章をよく読み、運転をされる前に必要な操作を理解しておいてください。

装置と計器類



1. 助手席SRSエアバッグ
2. クルーズ コントロール メイン スイッチ（装着車のみ）
3. 非常点滅表示灯
4. 電子制御エア サスペンション スイッチ
5. リア フォグ ランプ スイッチ
6. フロント フォグ ランプ スイッチ（装着車のみ）
7. ライトニング スイッチ
8. ラジオ カセット／CDプレーヤー リモート スイッチ（装着車のみ）
9. 計器パネル
10. ラジオ カセット、CDプレーヤー コントロール
11. ヒーター、エアコン スイッチ
12. 灰皿、シガー ライター
13. オートマチック ギアボックス モード スイッチ
14. ドア ミラー スイッチ
15. パワー ウィンドウ、電動サンルーフ スイッチ（装着車のみ）
16. 駐車ブレーキ
17. オートマチック ギア セレクター
18. ステアリング コラム調整レバー
19. クルーズ コントロール スイッチ（装着車のみ）
20. 運転席SRSエアバッグ

ロック

施錠（ロック）

お客様には2つのハンドセットに加え、単独のキーをお渡ししています。

知識

- このキーは、ハンドセットの一部であるキーと全く同じ機能を持ち、緊急時の使用のみを目的としていますので車内に保管しないでください。

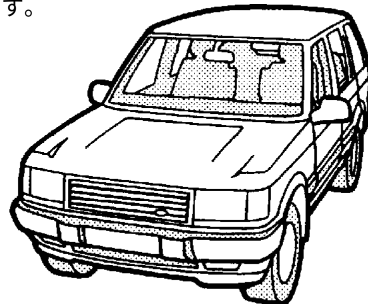
2つのハンドセットには、1、2と番号が付けられています。これらは操作そのものは全く同じですが、ある部分で異なる信号を送信します。（レイジー シートの項目を参照してください）ハンドセットの交換はランドローバー特約販売店によってのみ交換ができます。この場合、他の2セット（3と4）をご用意できます。

車の盗難防止の方法は4種類あります。

1. ハンドセットを使用して「スーパーロック」を行います。 （より高い安全性確保のためにお勧めします。）
2. キーを使用して「スーパーロック」を行います。
3. ハンドセットを使用して施錠を行います。
4. キーを使用して施錠を行います。

知識

- より高い安全性確保のために、常にハンドセットを使用して車両の「スーパーロック」を行うようにしてください。
（同乗者またはペットなどが乗車している場合はこの限りではありません。）





P0025

⚠ 注意

- エマージェンシー キー

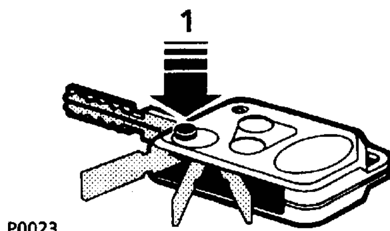
2つのハンドセットに加え、それとは別にキーをお渡ししてあります。これら2つのキーは、ハンドセットのキーとしての役割と同じ機能を持ち、緊急時のみでの使用を前提としています。これらのキーは車内には保管しないでください。

ロック

ハンドセット

無線式のリモート ハンドセットには3個のボタンがついています。用途に合ったボタンを押すことによって、リモート ハンドセットは通常のキーと同じように車の施錠や「スーパーロック」に使用することができます。

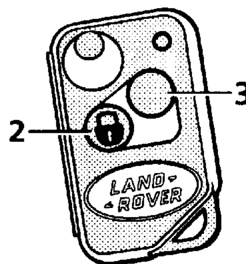
1. ハンドセットからキーを取り出す時はこのボタンを押します。これによってハンドセットは通常のキーのツマミの部分の役目をし、イグニッション スイッチ、グローブ ボックス、ドア ロックの操作ができます。



P0023

2. 施錠（ロック）ボタン

● 施錠の場合は1回押してください。
●「スーパーロック」を行う場合は2回押してください。
●「レイジー ロック」を行う場合は押し続けてください。
（「レイジー ロック」の項を参照してください。）



P0022

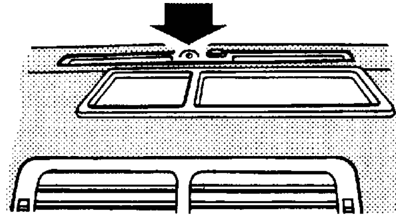
3. 解錠（アンロック）ボタン

● 解錠の場合は1回押してください。
● 押し続けることによって「レイジー シート機能」が働きます。（「レイジー シート」の項目を参照してください。）

ロック

盗難防止警告灯

車を施錠後、赤い警告灯（図矢印）が10秒間素早く点滅して車の施錠が正常にセットされたことを知らせます。10 秒経過した後、警告灯の点滅は遅くなり、システムが解除されるまでの間点滅を続けます。



P0166

ドア、ボンネット、テールゲートの何れかが正しく閉められていない場合、メッセージ センターにどの部分が閉まっていないかが表示されます。車両から離れた位置からハンドセットによる操作が可能な場合でも、施錠をした時は車の近くからロック ボタンが下がっていて警告灯が点滅していることを確認するようにしてください。メッセージ センターが「KEY BATTERY LOW」と表示した場合、ハンドセットの電池を交換する必要があります（「ハンドセットの電池交換」の項（P.45）を参照してください）。

知識

● 大気の状態によっては、ハンドセットの電波到達範囲が大幅に狭くなることがあります。この場合は、ハンドセットを車にさらに近づけて操作してください。極端な場合、リア サイド ウィンドウのラジオ アンテナにハンドセットを接触させなければならない時もあります。

ロック

スーパーロック

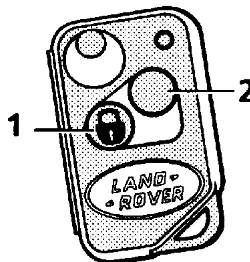
車にハンドセットまたはキーによって「スーパーロック」が施された場合、ドアが車内から解錠できないようになり、また開くこともできないようになります。

このため、車内に人が乗っている場合はスーパーロックを行わないようにしてください。

ハンドセットによる「スーパーロック」

ハンドセットの施錠ボタン(1)を（1.5 秒以内）に「2度押し」します。15秒後、「スーパーロック」が作動した音が聞こえます。

もし何れかのドア、ボンネットまたはテールゲートが開いたままになっていると、メッセージセンターはどの部分が開いているかを表示します。



P0200

解錠（アンロック）のしかた

ハンドセットの解錠ボタン(2)を1 度押し、放します。

ハンドセットが作動しない場合、車はキーを使用して解錠することができます。

キーによるスーパーロック

ハンドセットが使用できる場合、スーパーロックには必ずハンドセットを使用してください。但し、ハンドセットが使用できない場合は以下の手順によってキーを使用することができます。運転席側ドアのキーを0.5秒から1秒の間に車の後方に向かって「2度回し」して放します。

知識

- もし何れかのドア、ボンネットまたはテールゲートが開いたままになっているとメッセージセンターはどの部分が開いているかを表示します。

ロック

解錠のしかた

運転席ドアのキーシリンダーにキーを差し込み、時計方向に回します（またはハンドセットを使用してください）。

⚠ 注意

- 車内に人が残っている場合は、スーパーロックをかけないでください。車内に残っている人が、運転席のドア ロック ボタンを押して車内からロックするようにしてください。

同乗者が車内に残る場合には､運転席ドアのロックボタンによって車内から施錠を行うことをおすすめします。

付き添い者なしにお子様を車内に置き去りにしないでください。

知識

- ハンドセットのロックボタンまたはキーの「1度押し」によって施錠すると、集中ドアロックのみが作動します。解錠は車内から行うことができます。また車内からドアを開くこともできます。
  習慣的に「スーパーロック」を行うことをおすすめします。

車内からのロック

車内から集中ドアロックを作動させるには､全てのドアが閉まっている状態でどちらかのフロント ドアのロック ボタンを押してください。

アドバイス

- ロック ボタンによるロックは、車外からは行うことができません。

ロック

レイジー ロック

「レイジー ロック」機能によってハンドセットまたはキーによって施錠と同時に窓、サンルーフを閉じることができます。

レイジー ロックの操作

1. ドア、ボンネット、テールゲートが確実に閉まっていることを確認してください。
2. ハンドセットの施錠ボタンを押し続けます（2回押して、2回目を押し続けることによって「スーパーロック」ができます）。
   キーを使用する場合、施錠の位置にし続けます。

サンルーフが閉じた後、窓が閉まり、ドアとリアゲートが施錠されます。


知識

- 窓またはサンルーフに異物が挟まった場合、一連の動作が停止し、メッセージセンターが原因を表示します。この場合、異物を取り除いて操作をやり直してください。

レイジー シート

レイジー シート機能は運転席シート メモリーが装着されている車のみ使用できます。この機能によってハンドセットによる解錠の際に電動シート、ミラーの位置を記憶された位置に戻すことができます。2個のハンドセットはバッテリー カバーの色が黒と灰色に分けられていますので容易に識別することができます 。キー1は運転席シート メモリー番号1に対応しており、キー2はシート メモリー2に対応しています（「シート」の項を参照してください）。


注意

- ハンドセットまたはキーを追加した(キー 3 およびキー4)場合は、それらのキーはシート メモリー システムには対応していません。

ハンドセットの解錠ボタンを1.5秒間押し続け、（ハンドセットの表示灯が早く点滅します）放します。運転席と両側のドア ミラーがキーに対応したシート メモリーによって記憶された位置に変更します。


知識

- 「レイジー シート」はハンドセットにより「スーパーロック」され、さらに全ての窓とサンルーフが完全に閉じている場合のみ作動します。ドアを開けたり、車を再施錠するとキャンセルされます。

ロック

自動再施錠

自動再施錠機能は何らかの理由（故障等）で車の解錠が行われた場合、その60秒後に自動的に再施錠（リロック）されます。

ハンドセットの解錠ボタンを押すと、システムは車を60秒間監視します。この60秒以内に以下に記す行為、動作があった場合は、再施錠（リロック）は行われません。解錠（アンロック）されたままの状態となります。

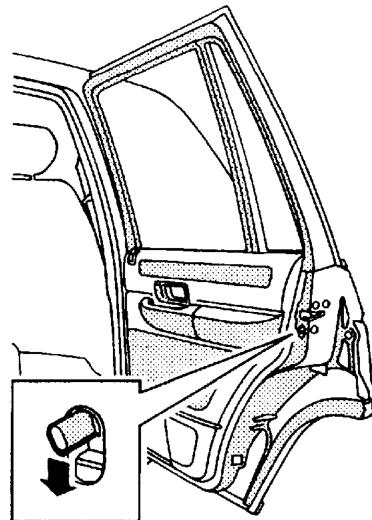
- ドアまたはテールゲートを開いた。
- キーがイグニッション スイッチに差し込まれている。またはスイッチの位置が「I」にある。

60秒間上記の様な状態にない場合、車は自動的にそれ以前の施錠（ロック）された状態に戻ります。

チャイルドプルーフ ロック（後席ドア）

後ドアのアパーチャ（ドアを開いた時に見える部分）にあるレバーを矢印の方向に動かすと作動します。

チャイルド プルーフ ロックが作動すると、後席のドアは車内から開けることができなくなり、これによって走行中に突然ドアが開くことによる危険を避けることが出来ます（車外からは通常通り開けられます）。



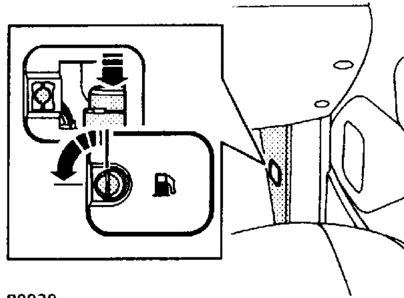
ドアの開き方

車外からドアを開ける場合は、ハンドルの可動部分を指で支えてハンドルを手で持ちながら固定部分を親指で押すとドアが開きます。

ロック

燃料カットオフ スイッチ
(イナーシャ スイッチ)

このスイッチは安全装置で、事故または突然の衝撃の際に自動的にドアロックを解除します(イグニッション スイッチが「ON」になっている必要があります)。加えて、燃料ポンプ、ヒーター エアコンのファンへの電源を遮断し、イグニッション スイッチが「OFF」になるか、室内スイッチがリセットされるまで非常点滅表示灯を点灯させます。



P0020

スイッチは右前フット スペースのボンネット オープナー周辺の垂直パネルの裏に取り付けられています。コインを使用して取付けネジを反時計方向に回すことによってカバーを取り外します。スイッチが作動した場合、メッセージ センターには「REFER HANDBOOK」と「INERTIA SWITCH」というメッセージを交互に表示します。

スイッチをリセットするには、図の矢印で示す位置のスイッチ上部のラバー部を押し込みます。

知識

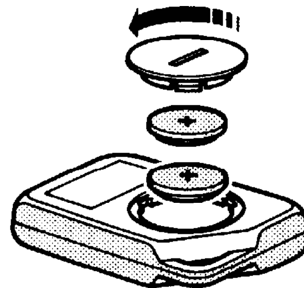
- イナーシャ スイッチが作動している時でも車の施錠は可能です。イグニッション キーを抜き、何れかのフロント ドアを開閉してから、施錠を行ってください。

⚠ 注意

- イナーシャ スイッチをリセットする前に、燃料が漏れていないことを必ず確認してください。

ハンドセットの電池交換

電池交換の必要がある場合は、メッセージ センターに「KEY BATTERY LOW」とメッセージが表示されます。



P0024

交換方法

- カバーをコイン等で反時計回りに回して取り外します。
- 回路基盤に手を触れないようにして電池を取り外し、+ 側がカバーに合うようにして新品の電池を取り付け、カバーを取り付けます。

新しい電池は古い電池を取り外してから1分以内に取り付けるようにしてください（1分以上経過するとハンドセットの再同調が必要となります。ハンドセットの再同調の項目を参照してください）。新しい電池はランドローバー特約販売店で入手することができます。

 アドバイス

- 指紋は電池の寿命を縮めます。取り付ける時は、電池をきれいに拭き、電池の平らな面には触れないようにしてください。

ハンドセットの再同調

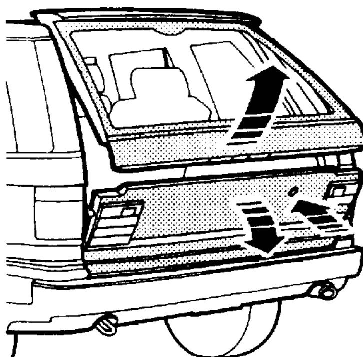
 知識

- ハンドセットは、コード化されたメッセージを送ります。メッセージはボタンを押すたびに変わり、ハンドセットを車から電波の届く範囲外で操作したり、ハンドセットの電池を1分間以上取り外した場合には、一連のコード化されたメッセージの送り順が受け側と合わなくなります。その際は、ハンドセットを再同調する必要があります。

再同調を行うためには

- 車が施錠されていない状態で、車に向けてハンドセットの施錠（ロック）ボタンを押しながら、キーを使用して施錠します。

テールゲート



テールゲートの開き方

車を解錠した後、リリース ボタンを一度押すと上側のテール ゲートが開きます。

 知識

● 開閉をしやすくするため、上側のテールゲートの下側にはハンドルが取り付けられています。

上側のテールゲートを開いて、リリース ボタンをもう一度押すと下側のテールゲートが水平の位置まで開きます。

 知識

● 車のバッテリーが上がっていたり、接続を外しているとテールゲートを開けることはできません。こうした場合に荷室から物を出す場合は、後席シートを畳んで車内から取り出してください(「シート」を参照してください)。

テールゲートの閉め方

はじめに下側のテールゲートを確実に閉じてください。

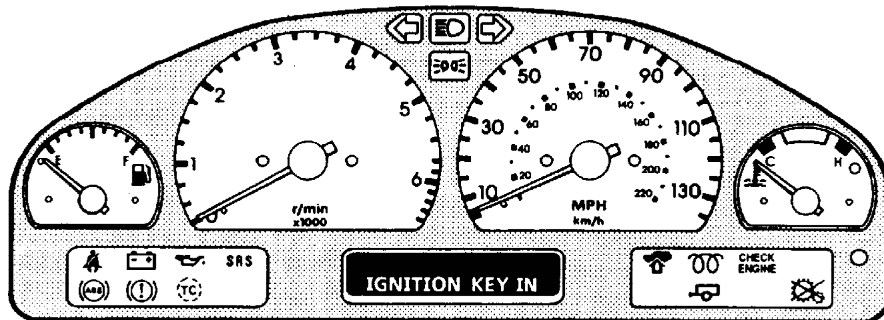
次に上側のテールゲートを引き下げて閉じます。

 注意

● テールゲートを開いたまま走行しないでください。有害な一酸化炭素が車内に入る恐れがあります。

● 運転をする前または車から離れる前にはテールゲートが閉まっていることを確認してください。

メッセージ センター



P0275B

ドライバーへの警告とインフォメーションのメッセージが計器パネルの中央下部にあるメッセージ センターに表示されます。メッセージにはそれぞれ優先順位があり、以下のカテゴリーに分類されています。

重大警告メッセージ

重大な警告メッセージは3回のブザー音とともに表示されます。メッセージはイグニッション スイッチを「ON」にした後、続けて表示され、故障が起きている間は表示し続けます。

 アドバイス

- これらの警告は無視しないで、早急に修理を行ってください。

重大な警告は継続的に、通常はメッセージ センターの下の行に表示されますが、複数のメッセージを表示する場合は上の行に表示されます。

警告メッセージ

重大ではありませんが、緊急に整備を行わなければならない場合のメッセージは同様にメッセージが表示されるたびに3回のブザー音が鳴り、表示が行われます。

 アドバイス

- これらの警告は無視しないで、早急に修理を行ってください。

警告メッセージはおよそ4秒間表示されます。その他のメッセージが保留されている場合は、表示時間はおよそ2秒間に短縮されます。

メッセージ センター

インフォメーション メッセージ

一般情報

全てのインフォメーション メッセージはおよそ4秒間表示されます。その他のメッセージが保留されている場合は、表示時間はおよそ2秒間に短縮されます。重大な警告と警告メッセージは常にインフォメーション メッセージより優先されます。

インフォメーション メッセージは3種類のカテゴリーに分類されます。

カテゴリー 1

このカテゴリーのメッセージは、はじめにメッセージが表示される際、およびイグニッション スイッチを「ON」または「OFF」にする際に、1回のブザー音が鳴ります。その他の時は、"TAKE CORRECTIVE ACTION AS SOON AS POSIBLE" 「できるだけ早く修理等を行ってください」のメッセージのみ表示されます。

カテゴリー 2

この種類のメッセージは "TAKE CORRECTIVE ACTION AS SOON AS POSIBLE"「できるだけ早く修理等を行ってください」のメッセージが表示されるごとに1回のブザー音が鳴ります。

カテゴリー 3

この種類のメッセージを表示する際にはブザーは鳴りません。"TAKE CORRECTIVE ACTION AS SOON AS POSIBLE" 「できるだけ早く修理等を行ってください」のメッセージだけが表示されます。

メッセージ センター

下記の重大な警告は優先順位に従って表記されています。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
MARKET NOT SET	メッセージ センターの言語が指定されていません。	メカニックによる点検を受けてください。
SEAT BELT PLEASE	シートベルトが装着されていません。	シートベルトを装着してください。
ELECTRICAL FAULT*	メッセージ センターの通信に故障があります。	できるだけ早くメカニックによる点検を受けてください。
INERTIA SWITCH*	燃料カット オフ スイッチが作動しました。	イナーシャ スイッチをリセットしてください。「ロック」の項を参照してください。
GEARBOX OVRHEAT*	オートマチック ギアボックス オイルの温度が高すぎます。	減速するか、1段低いギアを選択してください。メッセージが点灯し続ける場合は、車を止めてギアボックスを冷却し、その後も点灯を続ける場合はメカニックによる点検を受けてください。
TRANSFER OVRHEAT*	トランスファー ギアボックス オイルの温度が高すぎます。	減速するか、1段低いギアを選択してください。メッセージが点灯し続ける場合は、車を止めてギアボックスを冷却し、その後も点灯を続ける場合はメカニックによる点検を受けてください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
LOW COOLANT	エンジン冷却水の量が少なくなっています。	クーラントをリザーバーに補充し、メカニックによる点検を受けてください。
DOOR OPEN RH-R	右リア ドアが開いています。	ドアを閉めてください。
DOOR OPEN LH-R	左リア ドアが開いています。	ドアを閉めてください。
DOOR OPEN LH-F	左フロント ドアが開いています。	ドアを閉めてください。
DOOR OPEN RH-F	右フロント ドアが開いています。	ドアを閉めてください。
BONNET OPEN	ボンネットが開いています。	ボンネットを閉めてください。
IGNITION KEY IN	イグニッション スイッチにキーが差し込まれたままになっています。	キーを抜いてください。
LIGHTS ON	ライトが点灯しています。	ライトを消してください。
HEADLIGHT DELAY	前照灯遅延が選択されました。前照灯は自動的に消灯します。	特に作業の必要はありません。
SLOW:55 KPH MAX	エア サスペンションの故障です。	車速を55km/h未満に下げ、メカニックによる点検を受けてください。
ENG OIL OVERHEAT	エンジン オイルの温度が高すぎます。	停車してエンジンを冷却し、故障が解消しない場合は運転をやめてメカニックによる点検を受けてください。

* これらのメッセージは「REFER HANDBOOK」と交互に表示されます。表示された場合、取扱説明書の該当する項目を参照して詳細をご覧ください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
AIRBAG FAULT	エアバッグに問題があります。	メカニックによる点検を受けてください。
RH FRONT WINDOW LH FRONT WINDOW RH REAR WINDOW LH REAR WINDOW	以下の何れかと交互に表示されます。WINDOW NOT SET、WINDOW BLOCKED、ANTI-TRAP OFF、またはWINDOW OPEN	同時に表示されるメッセージの内容を参照してください。
SPEED LIMIT---	お客様がセットしたスピードリミットを超えています。	速度を下げるか、機能を「OFF」にしてください。
SPEED LIMIT OFF	お客様がセットしたスピードリミットはキャンセルされました。	必要な時に再セットしてください。
FUEL GAUGE FAULT	燃料計に不具合があります。	メカニックによる点検を受けてください。
TEMP GAUGE FAULT	水温計に不具合があります。	メカニックによる点検を受けてください。
LH SEAT HEATER	左シート ヒーターのヒューズが切れています。	新しいヒューズを取り付けてください。このメッセージには続いてヒューズ番号のメッセージが表示されます。
RH SEAT HEATER	右シート ヒーターのヒューズが切れています。	同上
SUNROOF NOT SET	「ワンタッチ機能」と「挟みこみ防止機能」が設定されていません。	「電動サンルーフ」を参照して、「ワンタッチ機能」と「挟みこみ防止機能」をセットしてください。
TRANSFER NEUTRAL	トランスファー ボックスがニュートラルの位置にされました。	トランスファーをニュートラルにする必要がない場合、ヒューズ11を取り外してください。

メッセージ センター

以下は警告メッセージです。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
TAILGATE OPEN	テールゲートが開いています。	テールゲートを閉じます。
WINDOW BLOCKED	ウィンドウを閉じる際に「アンチトラップ（挟まり防止）機能」が障害物を感知しました。	交互に表示されたメッセージが示す位置のウィンドウに挟まっている障害物を取り除きます。
SUNROOF BLOCKED	サンルーフを閉じる際に「アンチトラップ（挟まり防止）機能」が障害物を感知しました。	サンルーフを再び閉じる前に障害物を取り除きます。
ANTI-TRAP OFF	ウィンドウまたはサンルーフの何れかのアンチ トラップ（挟まり防止）機能が停止されました 。このメッセージは原因となる位置を示すメッセージと交互に表示され、どの位置に問題があるかを表示します。	開閉部に障害物がないことを確認します。
EAS FAULT	エア サスペンション システムに故障があります。	メカニックによる点検を受けてください。
ABS FAULT	アンチロック ブレーキ システムに故障があります。	メカニックによる点検を受けてください。
SLOW: 30 KPH MAX	現在の車高では車速が高すぎます。	30km/h未満に車速を下げてください。
SLOW: 55 KPH MAX	現在の車高では車速が高すぎます。	55km/h未満に車速を下げてください。

ヒューズ故障メッセージ

下記のヒューズ故障メッセージはインフォメーション カテゴリー 1 に属します。
（ヒューズの交換については「ヒューズ」の項目を参照してください。）

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
FUSE 2 TO 22 FAILED ヒューズ2から22の故障	ヒューズ切れ	新しいヒューズを取り付けてください。

知識

1. ヒューズ10から20の故障メッセージが表示される場合、「RH SEAT HEATER（右側シート ヒーター）」または「LH SEAT HEATER（左側シート ヒーター）」の表示が同時に行われる場合があります。この場合はヒューズが切れたことによって関連するシート ヒーターの故障とみなされていることが考えられます。
2. ヒューズ12の故障メッセージが表示される場合、「HEATED REAR WINDOW（リア デフロスター）の表示が同時に行われる場合があります。この場合はヒューズ12が切れたことによって関連するリア デフロスターの故障とみなされていることが考えられます。
3. 全ての場合で、ヒューズの故障メッセージは関連するメッセージに付随する場合があります。例：「RH SEAT HEATER（右側シート ヒーター）」の後に「FUSE 10 FAILED（ヒューズ10の故障）」が表示されます。
4. ヒューズ1は計器パネル用のものです。このヒューズに不具合が生じた場合、ヒューズを交換してください（メッセージ センターは計器パネルの機能に含まれるため、この場合のメッセージは表示できません）。
5. 複数のヒューズに故障が起きた場合、メッセージは各ヒューズ個別に表示されます。

メッセージ センター

電球についての故障メッセージ

以下のメッセージはインフォメーション カテゴリー1に属します。(「電球の交換」の項目を参照してください。)

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
RH DIP BEAM (右下向きビーム)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH DIP BEAM (左下向きビーム)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH MAIN BEAM (右上向きビーム)	1つまたは両方の電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH MAIN BEAM (左上向きビーム)	1つまたは両方の電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH SIDE LIGHT (右車幅灯)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH SIDE LIGHT (左車幅灯)	1つまたは両方の電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
FRONT INDICATOR (前方向指示灯)	1つまたは両方の電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH FRONT FOG (右フロント フォグランプ)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH FRONT FOG (左フロント フォグランプ)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH TAIL LIGHT (右尾灯)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH TAIL LIGHT (左尾灯)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH BRAKE LIGHT (右制動灯)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH BRAKE LIGHT (左制動灯)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
REAR INDICATOR (後方向指示灯)	1つまたは両方の電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
RH REAR FOG (右リア フォグランプ)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。
LH REAR FOG (左リア フォグランプ)	電球の故障(球切れ)	電球を交換します。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
RH REVERSE （右後退灯）	電球の故障（球切れ）	電球を交換します。
LH REVERSE （左後退灯）	電球の故障（球切れ）	電球を交換します。
NUMBER PLATE (ナンバープレートランプ)	電球の故障（球切れ）	電球を交換します。

複数の電球に故障が起きた場合、メッセージは個別に表示されます。

電球の故障のメッセージはイグニッション スイッチを「ON」または「OFF」にした時または操作を行った部分の電球が故障している時に表示されます。「BULB FAILURE（電球の故障）」メッセージは関連する部品のメッセージとあわせて表示されます。

例：「RH REAR FOG」の後に「BULB FAILURE」が表示されます。

メッセージ センター

その他の故障メッセージ

以下のメッセージはインフォメーション カテゴリー1に属します。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
LOW SCREEN WASH	ウィンドウ ウォッシャーの液量低下	ウィンドウ ウォッシャー液をリザーバーに補充します。
GEARBOX FAULT	ギアボックスの故障	メカニックによる点検を受けてください。
TRACTION FAILURE	トラクション コントロールの故障	メカニックによる点検を受けてください。
LOW BRAKE FLUID	ブレーキ液の液量低下	リザーバーに液を補充し、メカニックによる点検を受けてください。
ODOMETER ERROR	距離計の故障	メカニックによる点検を受けてください。
KEY BATTERY LOW	ハンドセットの電池電圧低下	ハンドセットの電池を交換してください。

以下のメッセージはインフォメーション カテゴリー2に属します。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
CATALYST OVRHEAT*	触媒の過熱	「警告灯類」の項を参照してください。
REAR WINDOWS OFF	リア ウィンドウの操作スイッチは作動不可能です。	特に作業の必要はありません。
MEMORY 1 STORED	シートとミラーの位置をメモリー1に記憶しました。	特に作業の必要はありません。
MEMORY 2 STORED	シートとミラーの位置をメモリー2に記憶しました。	特に作業の必要はありません。
REAR WINDOWS ON	リア ウィンドウの操作スイッチは作動可能です。	特に作業の必要はありません。
MIRROR DIP STORE	ドア ミラーの後退時自動角度変更位置がメモリーに記憶されました。	特に作業の必要はありません。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
WINDOW NOT SET	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能がセットされていません。	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能をセットしてください（「パ ワーウィンドウ」の項を参照してください）。
SUNROOF NOT SET	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能がセットされていません。	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能をセットしてください（「サンルーフ」の項を参照してください）。
WINDOW SET	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能がセットされました。	特に作業の必要はありません。
SUNROOF SET	ワンタッチ機能とアンチ トラップ（挟まり防止）機能がセットされました。	特に作業の必要はありません。
TRACTION OVRHEAT	警告灯が点滅しています。トラクション コントロールはシステムのブレーキ機構のオーバーヒートを避けるために作動を停止しますが、ブレーキ機構が冷却された場合に再度作動を始めます。	アクセル ペダルを緩めてホイール スピンを抑えてください。
INT LIGHTS OFF	自動点灯機能が「OFF」にされました。	「室内装備」の項を参照してください。
INT LIGHTS ON	自動点灯機能が「ON」にされました。	「室内装備」の項を参照してください。
EAS MANUAL	エア サスペンションがアクセス位置にセットされました。	荒れた路面を走行する際にご注意ください。
ALTERNATOR FAULT	ダイナモ（発電機）不良	メカニックによる点検を受けてください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
MIRROR DIP ON	ドア ミラー後退時自動角度変更機能が「ON」になりました。	特に作業の必要はありません。
MIRROR DIP OFF	ドア ミラー後退時自動角度変更機能が「OFF」になりました。	特に作業の必要はありません。

* このメッセージは「REFER HANDBOOK」メッセージと交互に表示されます。表示された場合、取扱説明書の該当する項目を参照して詳細をご覧ください。

以下はインフォメーション カテゴリー3のメッセージです。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
SUNROOF OPEN	サンルーフが開いたままの状態でイグニッション キーを取り外し、運転席のドアを開けました。	車から離れる場合は、サンルーフを閉じてください。
RIGHT PARK LIGHT	右前後の車幅灯を駐車灯として点灯しました。	駐車灯の必要がない場合は消灯してください。
LEFT PARK LIGHT	左前後の車幅灯を駐車灯として点灯しました。	駐車灯の必要がない場合は消灯してください。
PARK LIGHTS	左右前後の車幅灯を駐車灯として点灯しました。	駐車灯の必要がない場合は消灯してください。
MOVEMENT DETECT	「スーパーロック」を行う際に超音波システムが車内の動きを検知しています。	動きの原因を取り除き、再度施錠します。車内に人やペットを残したまま「スーパーロック」による施錠を行わないようにしてください。
SELECT NEUTRAL	ギアボックスがニュートラルの位置でない時にはギア レンジの選択を行うことはできません。	ニュートラルを選択します。
SLOW DOWN	トランスファー ギアのレンジを変更するには車速が高すぎます。	レンジを変更するには車を停止します。

シート

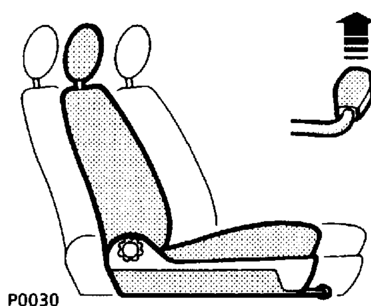
手動式前席シート（装着車のみ）

⚠ 警告

- 走行中は、シートを調整しないでください。または、助手席の乗客がシートを深く倒したままで走行しないようにしてください。

⚠ 注意

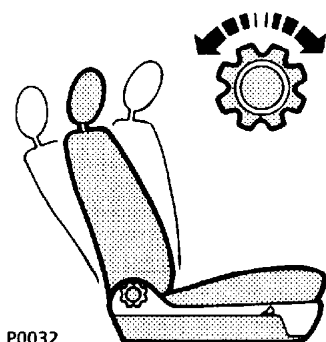
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されない恐れがあります。
- 同乗者が、背もたれを倒して横になったままの状態で走行することはしないでください。背もたれを直立(垂直)状態から15度倒すと、シートベルトの効果が最適になります。

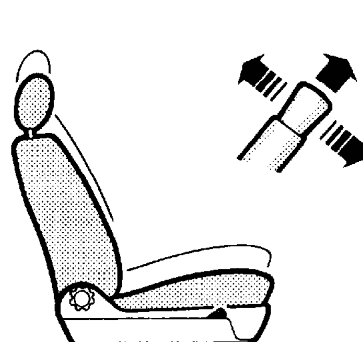


前後への移動

レバーを持ち上げてシートを前後に調整します。運転前にレバーから手を放した後、シートを前後させ、シートがラッチにロックされていることを確認してください。

シート



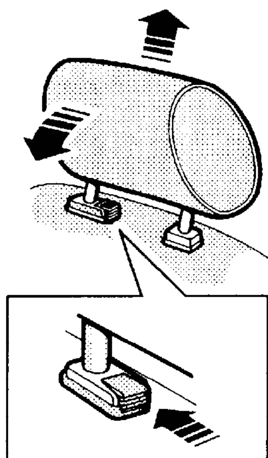


背もたれの調整

最適な角度になるまでダイヤルを回します。

高さの調整（運転席のみ）

レバーを伸ばしてシート座部が最適な高さになるまで押すか、引きます。



ヘッド レストの調整

ヘッド レストは衝突時の頭部の後方への動きを抑制するように設計されています。

ボタンを押して上下します。後頭部にできるだけ近くなるように前後に動かして調整します。

シート

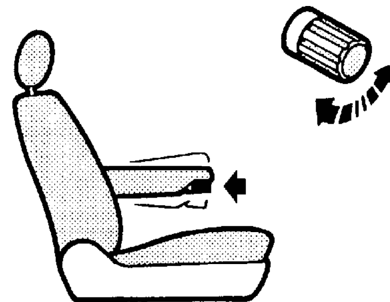
⚠ 警告
● ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。衝突の時等に重大な損傷を受ける恐れがあります。走行前に必ず正しい位置に調整してください。

⚠ 注意
● シートを完全に後ろに倒すためにヘッドレストを取り外した時は、必ず正しい方向に再度（頭部に対して前傾）取り付けてください。

折り畳み式アームレスト

前席の内側に折り畳み式のアームレストが取り付けられています。

水平になるまでアームレストを引き下げ、ノブを調整して最適な角度に合わせます。



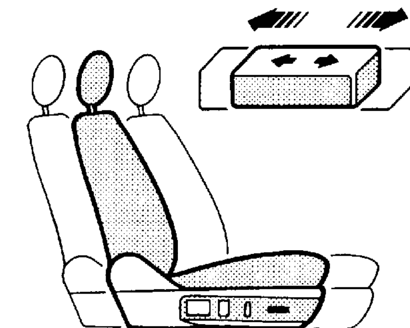
電動式前席シート（装着車のみ）

シートの調整はイグニッション スイッチが「I」または「「II」」の位置にある場合、もしくはイグニッション スイッチが「0」の時でフロントドアが開いている場合のみ可能です。

以下の機能を使用することが出来ます。

シートの前後調整

スイッチを前後に押してシートを最適な位置に合わせます。



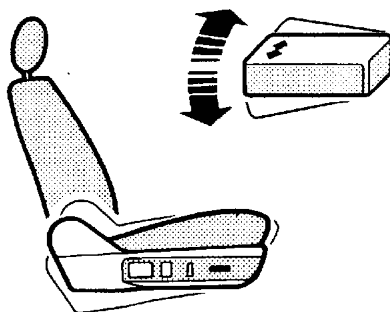
シート

⚠ 警告

- 走行中は、シートを調整しないでください。または、助手席の乗客がシートを深く倒したままで走行しないようにしてください。

⚠ 注意

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されない恐れがあります。

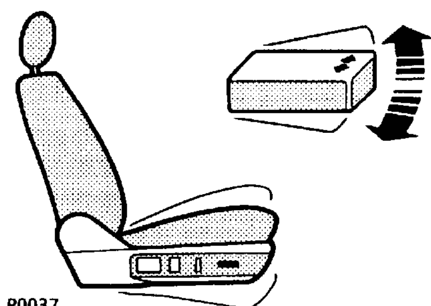


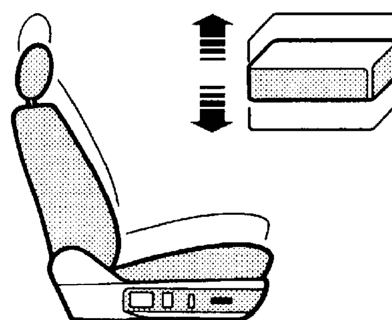
シート クッションの角度

スイッチを前後にひねってシート クッションを上下させて最適な位置に合わせます。

シート クッションの高さ

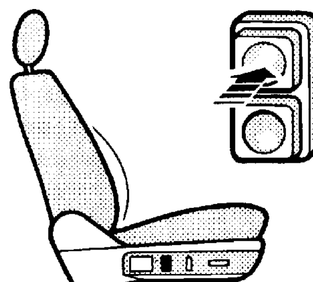
スイッチを上下させてクッションの高さを調整します。





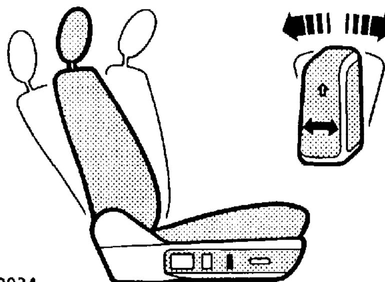
ランバー サポートの調整

上のスイッチを押すとランバー サポート量が増え、下のボタンを押すと減少します。



背もたれの調整

背もたれの角度が最適になるまでスイッチを前後にひねって調整します。

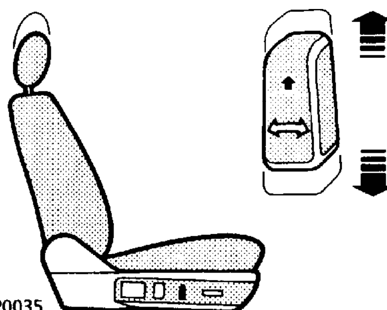


⚠ 注意

- 同乗者が、背もたれを倒して横になったままの状態で走行することはしないでください。背もたれを直立(垂直)状態から15度倒すと、シートベルトの効果が最適になります。

ヘッド レストの調整

ヘッド レストが後頭部の位置に合うまでスイッチを上下して調整します。



シート

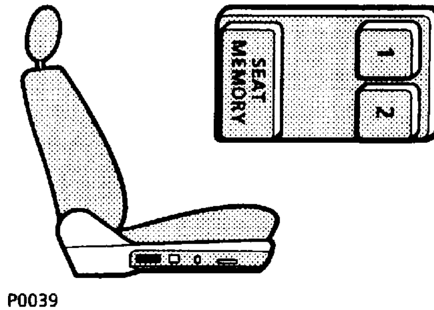
⚠ 警告

● ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。衝突の時等に重大な損傷を受ける恐れがあります。走行前に必ず正しい位置に調整してください。

⚠ 注意

● シートを完全に後ろに倒すためにヘッドレストを取り外した時は、必ず正しい方向に再度（頭部に対して前傾）取り付けてください。

シート



P0039

運転席シート／ミラー メモリー機能（装着車のみ）

 知識

- すべての電動シートに、シートとミラーのメモリー機能が付いているわけではありません。

 アドバイス

- シート／ミラー メモリーを作動させる前に、シートの周辺に障害物がないことを確認してください。

レンジ ローバーは2つの異なるシート／ミラー位置を記憶することができます。位置をメモリーに記憶させる為には、イグニッション スイッチが「I」または「II」の位置にセットされていて、トランスミッションが後退の位置にない必要があります。

運転席とドア ミラーを最適な位置に合わせ、シート メモリー ボタンと1または2のボタンを約2秒間押し続けます。位置がメモリーに記憶されるとメッセージ センターに「MEMORY 1 STORED」（メモリー1 が記憶されました）または「MEMORY 2 STORED」と表示されますので、確認することができます。

他のドライバーによってシートの位置が変更された後、記憶させた位置に戻すには、1または2のボタンを押すことによってシートとミラーの位置は各々の記憶された位置に戻ります。これらが記憶された位置に戻ると、警告音がなって一連の動作が終了したことを知らせます。

 知識

- 灯火類が点灯している時に位置を記憶させると、計器パネルの照明の明るさも同様にメモリーに記憶されます。

シート

運転席のワンタッチ操作

ワンタッチ機能は1または2のボタンを短時間押すことによって作動します。

シートは自動的に記憶された位置に戻ります。

ワンタッチ操作は他のメモリー スイッチを押すか、シート操作スイッチを押すことによっていつでも停止することができます。

何れかのシート メモリー スイッチを押すことによって全ての動作は即座に停止します。シート下部のスイッチのうち1つを押すと、記憶された位置への移動は停止しますが、シートは押されたボタンに対応する方向に移動します。

スイッチから手を放すと全ての動作が停止します。

- ワンタッチ機能はエンジンが掛かっている時は作動しません。またシフト レバーが「P」の位置以外にある時も作動しません。

レイジー シート

レイジー シート機能はハンドセットによってドアの解錠を行う際にシートとミラーの位置をメモリーから呼び出します。

車にハンドセットによるスーパーロックが施されている場合、ハンドセット1の解錠ボタンを1.5秒以上押すと運転席とミラーの位置はメモリー スイッチ1に記憶された位置にセットされます。ハンドセット2の解錠ボタンを1.5秒以上押すと運転席とミラーの位置はメモリー スイッチ2に記憶された位置にセットされます。

助手席シート メモリー（装着車のみ）

助手席シート メモリーの操作は以下の部分を除いて運転席と共通です。

- 通常のメモリー操作ができれば、常にワンタッチ機能は作動します。
- 助手席シートのメモリー機能には、ミラー位置や計器パネルの照度を記憶する機能はありません。
- メッセージ センターによるメモリー位置へのセット情報の表示は行われません。

後席シート

⚠ 警告

- 走行中に、シートを動かさないでください。

⚠ 注意

- 後席シートを折り畳む際には、指が挟まれないように注意してください。

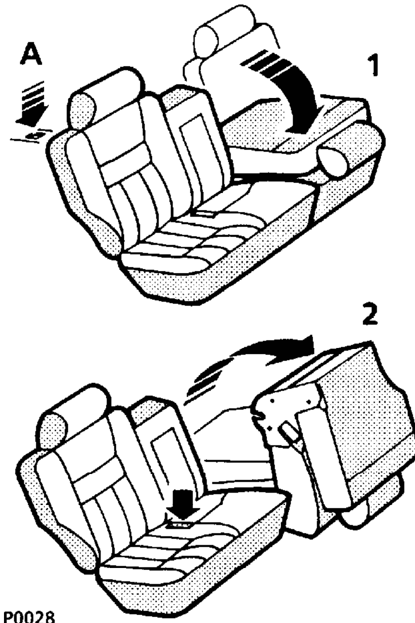
後席シートの折り畳み

分割式後席シートの片方または両方をそれぞれ独立して折り畳むことによって荷室面積を広げることができ、完全に折り畳むことによって更に広い荷室を確保することができます。

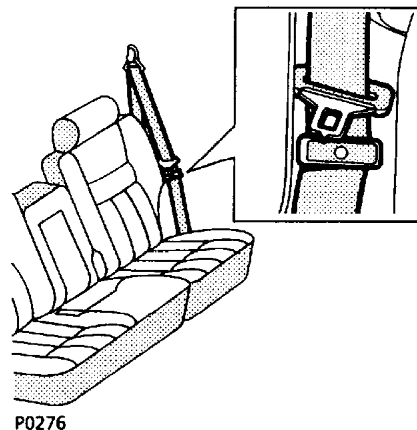
後席シートを折り畳む前に、後席シートベルトが確実に各シート ベルト クリップに取り付けられていることを確認してください（イラスト参照）。中央のシート ベルトの損傷を避けるために、ベルトをバックルに巻取り、後席シート中央の収納位置に格納してください。

後席シートのどちらかを折り畳む場合は、イラストの A の位置のボタンを押し、背もたれを1 の方向に折り畳みます。さらに広い荷室を確保するには、シート座部も2 の位置まで畳み込みます。

後席シートを通常の位置に戻したら、運転する前に背もたれが正しく固定されていることを確認してください。



P0028


P0276

シート

知識

- シート座部が完全に固定されていない場合、背もたれを上げることができない場合があります。

⚠ 注意

- シートを元の位置に直立させた時は、運転する前に必ずシート取付部の状態を確認し、背もたれを引くなどして確実に固定されていることを確認してください。

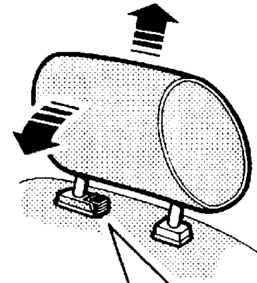
後席ヘッド レストの調整

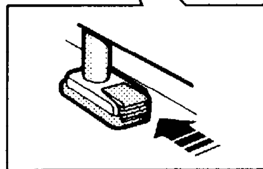
ヘッド レストは衝突時の頭部の後方への動きを抑制するように設計されています。ボタンを押してヘッドレストを持ち上げます。

後頭部にできるだけ近くなるように前後に動かして調整します。

⚠ 警告

- ヘッド レストは必ず首でなく後頭部を支えるように調整してください。ヘッド レストを取り外して同乗者を乗せないでください。

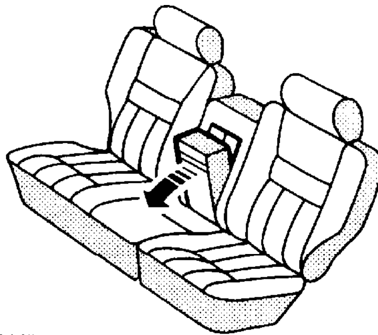




P0029

後席アームレスト

アームレスト最上部の「引き紐」を引き、水平の位置になるまでアームレストを引き下げます。



P0157

シート ベルト



シートベルトの安全な装着方法

お客様の車の各シートベルトは大人の方が一人で使用することを前提としています。シートベルトは人命を救う安全装備です。シートベルトを装着しないで衝突事故が発生すると、乗員が車内または時には車外に投げ出され、その人自身あるいは他の乗員にけがを負わせることになります。

● 常にすべての乗員がシートベルトを正しく装着するようにしてください。（たとえ、わずかな時間でも）正しく装着していないと、衝突の際に死亡事故や重体事故につながる危険性が高くなります。

● SRSエアバッグ システムは、シートベルトの効果を最大限に発揮するための補助装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは常に装着してください。

● シートベルトを装着する時は、必ずベルトを調整してたるみの無いようにしてください。シートベルトを余分に引き出してシートベルトをたるませないでください。シートベルトの効果を最大限に発揮させるためには、シートベルトをいかなる時も体にしっかりと密着させるようにしてください。

● 腰部のベルトは、必ず腰骨にかけ(腹部は絶対に止めてください)、肩掛けベルトは首にかからないように気を付けながら肩から胸に斜めにかけるようにしてください。

● 1つのシートベルトを2人で使用したり、シートベルトの円滑な動きを妨げたり、シートベルトをねじったまま使用しないでください。

● ペン、キー、メガネなどの固いものや壊れやすいものを身に付けたままでシートベルトを装着しないでください。

● 前席の同乗者が、背もたれを倒して横になったままの状態で走行しないようにしてください。背もたれを直立(垂直)状態から15度倒すと、シートベルトの効果が最大限発揮されます。

● 乳幼児を膝に乗せないようにしてください。衝突時の衝撃は体重の30倍に達するため、お子様を支え続けることは不可能です。安全のために、乳幼児は後席シートに座らせ、シートベルトを装着させるか、チャイルド シートなどをお使いください。

● シートベルト バックルには異物(特にお菓子や飲み物)が入らないようにしてください。それらはバックルの作動を不完全にする可能性があります。

● 車がひどい衝撃を受けた後やベルト表面にほつれが出てきた場合は、必ずシートベルトを交換してください。

● 妊娠中や疾患のある方は最も安全なシートベルト装着法について医師の助言を求めてください。

● 大きな荷物をシートに載せて運ぶ時は、シートベルトを使用して固定してください。万一の事故の場合には、その荷物が車内に飛散し、けがを負う恐れがあります。

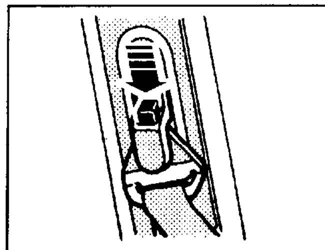
シート ベルト

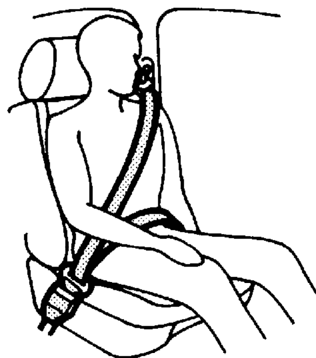
上部固定部の調整

快適性と安全性の為に、上部固定部（支点）の高さを調整することができます。イラストの矢印のボタンを押しながら上下に移動すると調整することができます。

最大の効果を得るため、シート ベルトは首と肩の端の中間を通るように掛けてください。

運転される前に固定部が確実にロックされていることを確認してください。



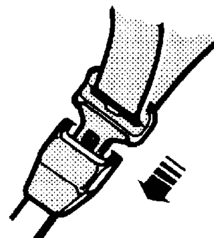


リールへのシートベルトの巻取り

ベルトを肩から胸にわたってかけ、バックルにカチッと音がするまでプレートを差し込みます。シートベルトは人体の骨格（骨盤、胸、肩）をもとに設計されており、またシートが通常使用時の角度に立っている状態でのみ効果を発揮します。



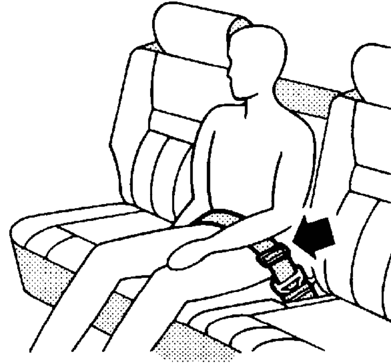
- 助手席を極端な角度に倒した状態で運転を続けないようにしてください。



P0041

シート ベルト

2点式シート ベルトの装着


P0156

後席中央のシート ベルトには2点式が採用されています。調整するには、快適な位置に締め付けられるようにスライダーを引いて長さを調整してください。プレートを最も近い中央部のバックルに差し込んでください。

チャイルド シート（乳幼児への装着）

全ての乳幼児用シートは2点式シートベルトか3点式の下部ベルトによって固定するように設計されています。

チャイルド シートを取り付ける場合は、各メーカーの取扱説明書に従うようにしてください。チャイルド シートが確実に取り付けられていないと衝突時または急停止時にお子様に大きな危険があるばかりでなく、他の乗員を負傷させる恐れがあります。

後席シート中央には2点式ベルトが取り付けられていて、手動で固定の締め付け具合を調整することができるのでチャイルド シートの取り付けには最適です。

大きなお子様は後席の左右シートのシートベルトをご利用ください。

⚠ 警告

- 保護者なしでお子様を車内に残さないでください。
  - 炎天下の車内は、高温になり死に至る恐れがあり危険です。
  - お子様のいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながる恐れがあります。

車のフェイシア パネルに貼ってある右記のシンボルは､助手席にSRSエアバッグが装着されているため、助手席で後ろ向きのタイプのチャイルド シートをお使いならないようにという警告です。このタイプのチャイルド シートは､エアバッグが膨張した場合に大変危険で､お子様にけがを負わせる恐れがあります。



シート ベルト

⚠ 注意

- 乳幼児はシートベルトを装着するには体格が未熟なため、チャイルド シートを使用するか体格にあった安全装備を行うようにしてください。その際は、必ずメーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 絶対に乳幼児を膝のうえに抱えないでください。衝突時の衝撃は体重の30倍に達するため、お子様を支え続けることができません。
- 安全性に問題があるので、背もたれにチャイルド シートを掛けることはしないでください。
- 事故統計によれば、お子様は前席よりも後席で正しくお乗せになるほうが安全であるという結果が出ています。ただし、お子様の体格に合った前向きのチャイルド シートを用意して、お子様を前席に乗せる必要がある場合は、シートをいっぱいまで後ろに下げた上で、必ず認定品の前向きのチャイルド シートを使用してください。後ろ向きのチャイルド シートは決して助手席に取り付けないでください。

シート ベルトの手入れ

定期的にベルトの布地を点検してください。ベルトの固定ポイントや長さの調節をする箇所については特に注意深く点検してください。衝撃を受けた場合または布地にほつれが見られる場合は必ずシート ベルトを交換してください。

布地の脱色や漂白をしないでください。布地の清掃は温水と漂白剤の含まれていない洗剤を使用し、自然乾燥をさせて完全に乾燥するまで巻取らないようにしてください。

巻取り式シート ベルトの点検

時々下記の点検を行ってください。

1. シートベルトを装着し、バックル付近のベルトを素早く上に引きます。バックルが確実に固定されていることを点検します。
2. シートベルトを装着し、シートに深く掛けて、緩みなくシートベルトが巻き込まれるかを確認します。上体を腰部から素早く前に動かしてロックが自動的にロックされてベルトが伸びないことを確認します。
3. シートベルトを外し、ベルトを一杯に引いてください。スムーズに引き出せることを確認してください。

シートベルトに不具合があった場合には、直ちにお近くのランドローバー特約販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 衝撃を受けた場合または布地にほつれが見られる場合は、必ずシートベルトを交換してください。

SRS エアバッグ

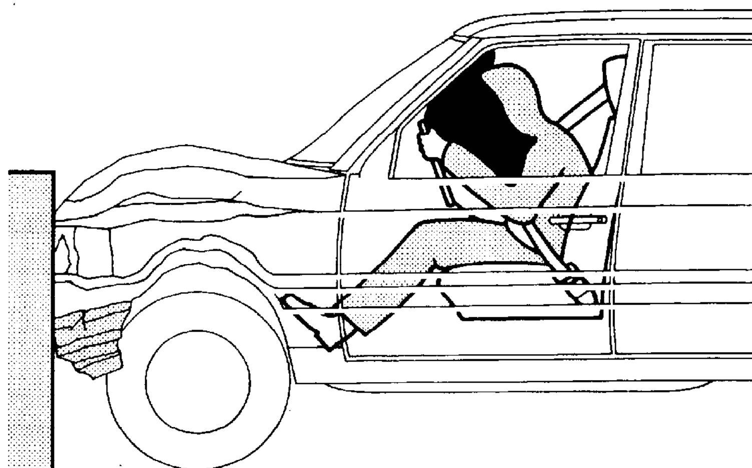


SRSエアバッグ システム

SRSエアバッグ システムは、正面からの衝撃に対してドライバーと助手席同乗者の安全性を向上させるための補助保護システムです。

⚠ 注意

- エアバッグは、正面からの衝撃に対してのみ、安全性を向上させる補助装置であり、シートベルトに代わるものではありません。あらゆる事故に際し、最大限の安全性を得るためにシートベルトは必ず装着してください。



P0043A

SRS エアバッグ

SRSエアバッグ システムの仕組み

SRSエアバッグ システムは、(下図のように) ツイン エアバッグが装備されており、運転席と助手席の乗員を保護します。正面から衝撃を受けて衝突した場合、エアバッグ コントロール ユニットのクラッシュ センサーが衝撃による減速を監視し、SRSエアバッグ システムを作動すべきかどうかの判断を行います。

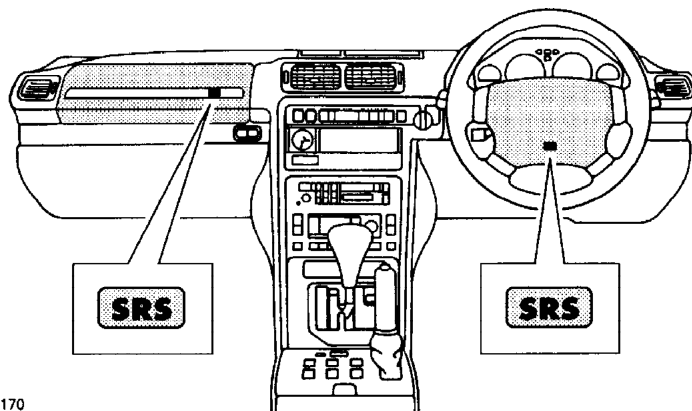
衝撃が大きい場合は、各エアバッグを作動させます。エアバッグは瞬間的に膨張し、その際大きな音がでます。同時に、煙や粉が舞うことがありますが、これはいずれも人体に無害なものでエアバッグの異常ではありません。急ブレーキをかけたり、小さな衝突を受けたり凹凸面を通過しても、エアバッグが膨張することはありません。エアバッグは、膨張した後すぐに収縮し、ドライバーの視認性に影響する心配はありません。

⚠ 注意

- 膨張した後のSRSエア バッグ部品は高温を伴うため、冷えるまでは絶対に触れないでください。
- エア バッグは、かなりの速度で膨張するため、顔に擦り傷などを作ることがあります。エア バッグの膨張が原因で起こるけがを最小限にするために、運転席、助手席ともに正しい着座姿勢を取り、シートを適度な範囲で後ろに下げ、シートベルトを正しく装着するようにしてください。
- エア バッグ モジュールのカバー(ステアリング ホイール センター パッドまたはフェイシア)に、エア バッグの膨張を妨げたり、膨張時に車内に散乱しけがの原因になりかねないアクセサリー部品を取り付けないでください。

知識

- エアバッグは、激しい正面衝突の場合にのみ膨張し、側面からの衝突や追突された場合、および横転事故や軽度な正面衝突の場合には、作動しません。



SRS エアバッグ

⚠ 注意

● SRSエアバッグ システムを装備していても、次のような状況が考えられるためシートベルトは必ず装着してください。

- エアバッグは、正面からの強い衝撃を受けた時にだけ膨らみます。側面や後方からの衝撃や、横転などの事故、正面からの小さな衝撃の際は、保護の効果をもたらしません。
- エアバッグは、瞬時に膨らみ、しぼむので、多重衝突の際に起こり得る二次衝撃からドライバーを守ることはできません。

● 安全のため、エアバッグの取り扱いは次の点に注意してください。

- 走行中は、エアバッグに触れたり、足を載せたりしないでください。エアバッグが開かなくなります。
- やむを得ず、助手席に小さいお子様を乗せる時は、後ろ向きのチャイルドシートは使用しないでください。必ず認定のある前向きチャイルド シートを助手席シートをいっぱいまで後ろに下げて使用してください。

⚠ 注意

● SRSエアバッグ システム警告灯

SRSエアバッグ システムの異常は、計器パネルの警告灯に表示されます。次の状態になった時は、必ずランドローバー特約販売店または指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

- イグニッション スイッチを「II」の位置に回しても警告灯が点灯しない。
- イグニッション スイッチを「II」の位置に回して、8秒たっても警告灯が消えない。
- 走行中、警告灯が点灯する。

知識

● イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの診断コントロールユニットはユニット内のメモリーと警告灯の電球の点検を行います。不具合があると、警告灯が点灯または点滅します。

SRS エアバッグ

整備情報

SRSエアバッグ システムについては、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場で定期検査を受け、10年使用した後は一部の構成部品を交換する必要があります(メンテナンス ノートに記載の「エアバッグ モジュールの交換」の項を参照)。安全性を確保するため、この作業は必ずランドローバー特約販売店または指定サービス工場にご依頼ください。ランドローバー特約販売店では作業完了時にメンテナンス ノートの該当ページに記録することになっています。

さらに、以下のような状態になった場合は、必ずランドローバー特約販売店にご相談ください。

- エアバッグが膨張した。
- 車両前部が損傷したにもかかわらず、エアバッグが膨張しなかった。
- エアバッグ モジュール カバー(ステアリング ホイール パッドと助手席フェイシア　パネル)に破損や亀裂(きれつ)が見られる。

⚠ 注意

- SRSエアバッグの部品は整備、修理、交換または改造をご自分でなさらないでください。エアバッグの部品およびその付近にあるハーネスに手を加えると、システムの誤作動の原因となり、けがをする可能性があります。

アドバイス

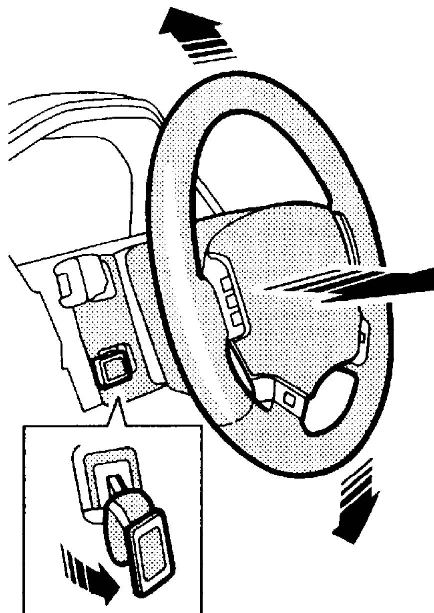
- SRSエアバッグの構成部品は電気的、物理的な干渉に敏感で、これらを受けると、簡単にシステムが損傷し、エアバッグが故障したり誤作動したりする原因となります。

  以下の作業は必ずランドローバー特約販売店にご依頼ください。

  - 以下の部品を含むSRSエアバッグの構成部品またはその周辺の配線(黄色のワイヤ ハーネス)の取り外し、修理。ステアリング ホイール、ステアリング コラム、計器パネル、フェイシア パネルを含む。
  - 自動車電話、2バンド ラジオ、カー オーディオなどの電装品の取り付け。
  - バンパーやシャシーを含む車の前面への改造、車両前部へのアクセサリー部品の装着。

- 車を売却される場合は、この車がSRSエアバッグ装着車であることを新しい所有者に伝え、エアバッグ モジュールの交換の日付がメンテナンス ノートに記載されていることを伝えてください。
- 膨らんでいないエアバッグを装着している車両を解体することは非常に危険です。車両を解体する前に安全な方法でエアバッグを膨張させるために必ずランドローバー特約販売店に相談してください。

ステアリング コラム



⚠ 注意
● 絶対に、走行中はステアリング ホイールの高さを調整しないようにしてください。思わぬ事故につながる恐れがあり非常に危険です。

ステアリング ホイールの調整

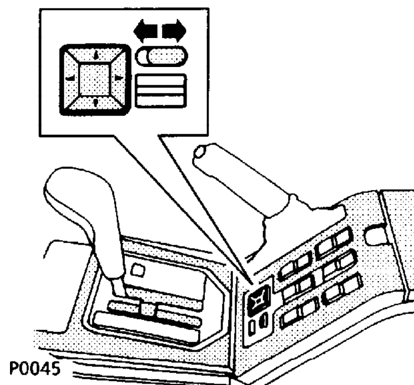
ステアリング ホイールの角度と高さを運転に最適な位置に調整することができます。

レバーをステアリング ホイールに向かって一杯に引きます。

レバーをこの位置にして、ステアリング コラムを上下させて角度を、またステアリングを前後に押し引きしてステアリングと体の間隔を最適な位置に調整します。

最適な位置に合ったらレバーを放し、ステアリング コラムをロックします。

ドア ミラー



電動ドア ミラー

1. スイッチをスライドさせて左右のミラーのどちらかを選択します。
2. イグニッション スイッチを「I」または「II」の位置に合わせ、ミラースイッチを合わせたい方向に押すとミラーのガラス面が前後左右に移動します。

知識

- 電動シート装着車の場合、ミラーの位置とシートの位置を連動して記憶することができます（「シート」の項を参照してください）。
- ドア ミラーはガラス面の曇りや霜を取り除くためのヒーターが内蔵されています。この機能はエンジンが掛かっている状態で使用することができます。

ドア ミラー後退時自動角度変更機能（装着車のみ）

運転席シート メモリー装着車の場合はリバース ギアが選択された場合にミラーが自動的に下向きになるようになっています。必要に応じてミラーの位置は以下の手順で調整できます。

1. イグニッション スイッチを「I」または「II」の位置にします（エンジンは始動しません）。
2. リバース ギアを選択します。
3. 最適な位置に左右のミラーを調整します。
4. シート メモリー スイッチと1または2ボタン（運転席シートメモリーと同調して入る方）を同時に2 秒間押します。メッセージ センターには「MIRROR DIP STORE」と表示されます。

ドア ミラー

後退時の自動角度変更機能を作動させないためには

イグニッション スイッチを「I」または「II」の位置にし（エンジンは始動しません）、ギア シフト レバーを「R」（後退）に入れます。

メモリー スイッチを2秒間押して、メッセージ センターに「MIRROR DIP OFF」と表示され、音が鳴ることを確認します。

後退時の自動角度変更機能を作動させる場合

イグニッション スイッチを「I」または「II」の位置にし（エンジンは始動しません）、ギア シフト レバーを「R」（後退）に入れます。

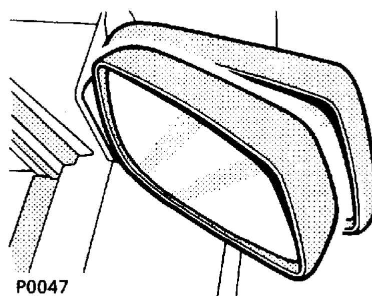
メモリー スイッチを2秒間押し続けてメッセージ センターに「MIRROR DIP ON」と表示されることを確認します（ミラーは工場出荷時の位置または事前にセットされた位置に戻ります）。

手動による調整

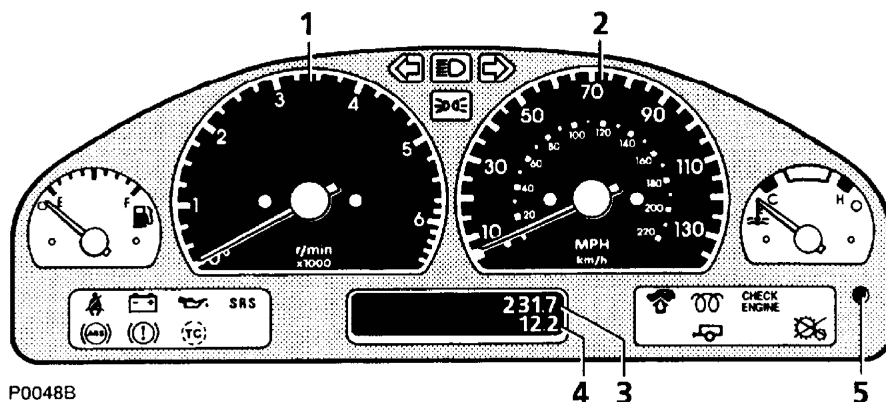
各ミラーは手動で4つの位置に調整することができます。

ミラー本体を前方または後方に完全に倒して車の側面にたたむことができるので、狭い道を通過する際に役立ちます。ミラー本体は2つの中間点にも調整することができ、運転席側、助手席側ミラーをそれぞれ希望の位置にあわせることができます。

運転席側は前方の中間位置に、助手席側は、後方の中間位置にそれぞれ合わせてください。



計器類



1. タコメーター

   エンジン スピードを1分間あたりの回転数で表示します。

   レンジ ローバーにはエンジンの最高回転数を下記の回転数に達した場合に制限する機能が取り付けられています。

   エンジン回転数の上限：5,500 rpm

2. スピード メーター

   1時間当たりのキロメートルの走行速度を示します。

3. オドメーター

   車の総走行距離数を表示します（イグニッション スイッチを「II」の位置にすると表示が点灯します）。

4. トリップ メーター(1)

   各走行ごとの距離数を表示します（「トリップ コンピューター」の項も参照してください。イグニッション スイッチを「II」の位置にすると表示が点灯します）。

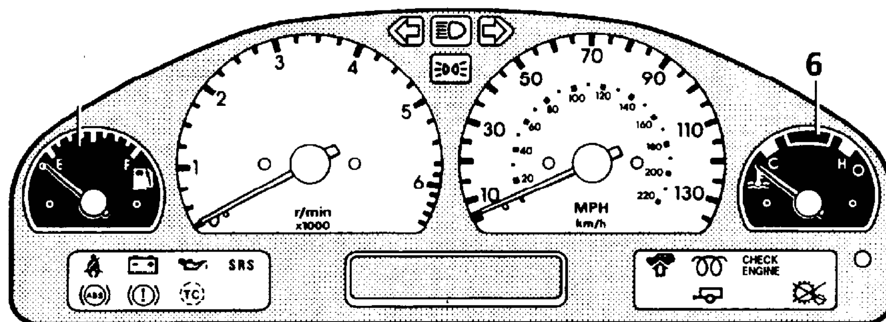
5. トリップ メーター リセット ボタン(1)

   このボタンを押すとトリップ メーターの距離数表示が0に戻ります。



警告

- 計器パネルを開いたり、電球を交換しないでください。これらの作業を行った場合、保証の対象外となる場合があります。



P0183B

6. 水温計

   エンジン冷却水の温度が通常の作動温度に達した場合、針はほぼ垂直の位置になります（外気温によって若干の変動があります）。針がゲージの赤い部分に達すると、水温計の赤の警告灯が点灯します。点灯した場合、車をできるだけ早く安全な位置に止め、運転を続けずにメカニックによる点検を受けてください。

7. 燃料計

   イグニッション スイッチを「OFF」にすると針は「0」の位置を指しますが、「II」の位置にすると素早く燃料のレベルを指します。燃料を入れた後は、その時のタンクの残量を素早く反映させます。

知識

- 針は燃料の残量が15リッター以下の場合、表示を行いません。

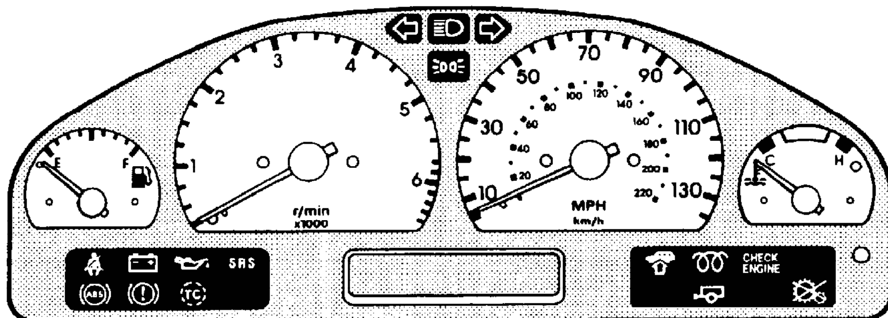
タンク内の燃料の残量が約9リッターになると、橙色の警告灯が点灯します。点灯した場合はできるだけ早く燃料を補給してください。

燃料タンクの容量：約100リッター

アドバイス

- ガソリン車の場合は、決して燃料を使い切らないようにしてください。ミスファイヤが起こると触媒コンバーターを傷めます。

警告灯



P0184B

警告灯の仕様はモデルと購入された国によって異なる場合があります。

警告灯によっては計器パネルのメッセージ センターに表示されるメッセージと同調しているものがあります（メッセージ センターの解説を参照してください）。

警告灯の色は以下のように分類されています。

緑または青の場合は正常に作動しています。

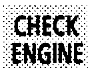
橙または黄色の場合、注意を促します。

赤の場合、警告を示します。

 アドバイス

- エンジンが回転している時、または走行中に赤いランプが点灯した時は、運転しないでください。

エンジン点検 ー 橙



イグニッション スイッチを「II」の位置にすると警告灯が点灯し、電球の点検を行ってエンジンが掛かると消灯します。その他の場合に点灯した時はエンジンの故障です。点灯した場合は減速して、すぐメカニックによる点検を受けてください。

駐車ブレーキ／ブレーキ液警告灯 ー 赤



イグニッション スイッチを「II」の位置にすると電球の点検のために約3秒間点灯し、また、同様にイグニッション スイッチが「II」の状態で駐車ブレーキを引くと点灯します。

警告灯は駐車ブレーキが完全に下ろされるか、電球の点検が終了すると消灯します。運転中に点灯した場合、故障であることを示します。

警告灯

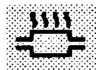


- ブレーキ警告灯が点灯したままで運転をしないでください。
- 走行中点灯した時や駐車ブレーキを解除しても消灯しない時は、ブレーキ液量を点検し、下限より下がっていたら補充してください。
- ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯する時や、駐車ブレーキをかけても点灯しない時は、お早めにランドローバー特約販売店で点検を受けてください。



- 車を始動させた際に、時々警告灯が消灯するまで約40秒間位要する場合があります（この場合、ABSまたはトラクション コントロール警告灯が点灯します）。

触媒 ー 赤



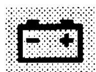
イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、電球の点検の為に約3秒間点灯し、触媒が過熱した際に点灯します。警告灯が消えないか、運転中に点灯を始めた場合は、減速してできるだけ早く安全な位置に停車します。運転を続ける前にメカニックによる点検を受けてください。

シートベルト ー 赤



イグニッション キーを「II」の位置にすると警告灯が6秒間点灯します。運転する前にシートベルトを締めるようにしてください。

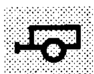
バッテリー充電 ー 赤



イグニッション スイッチを「II」の位置にすると電球の点検の為に点灯し、エンジンが始動すると消灯します。点灯し続けるか運転中に点灯した場合は、故障であることを示します。至急、メカニックによる点検を受けてください。

警告灯

トレーラー方向指示器 ー 緑



この警告灯はトレーラーが車のマルチ ピン ソケットに接続されている場合のみ点灯します。警告灯は方向指示器と連動し、トレーラーの方向指示器が作動していることを示します。トレーラーの方向指示器が故障している場合、警告灯は点灯しません。

油圧低下 ー 赤



イグニッション スイッチを「II」の位置にすると電球の点検の為に点灯し、エンジンが始動すると消灯します。エンジン始動後も点灯を続ける場合、または走行中に点灯した場合は、エンジンオイルの圧力が低下していることを示しています。

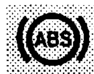
 アドバイス

- エンジン回転中に点灯した場合は、直ちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
  エンジンオイルが減っていないのに点灯している時や、エンジンオイルを補充しても点灯する時は、直ちにランドローバー特約販売店へご連絡ください。
- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが損傷する恐れがあります。

 知識

- 外気温が非常に低い場合、警告灯が消えるまで数秒間かかることがあります。

アンチロック ブレーキ システム（ABS） ー 黄色



イグニッション スイッチを「II」の位置にすると約1秒間警告灯が点灯し、すぐ消灯し再度点灯します。警告灯が消えず、再度点灯を続けた場合はABSに故障があるため、できるだけ早くランドローバー特約販売店で点検を受けてください。警告灯は車速が7km/hに達すると消灯します。

警告灯が点灯を続けるか、運転中に点灯を始めた場合は自己診断機能によって故障が発見されたことを示します。メッセージ センターには「ABS FAULT」のメッセージが表示され、ABSシステムが完全に作動しない可能性を示しますので、できるだけ早くメカニックによる点検を受けるようにしてください。

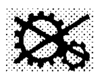
警告灯

SRSエアバッグ ー 赤



イグニッション キーを「II」の位置にすると警告灯が約8秒間点灯します。その他の場合に点灯した場合は故障であることを示します（「SRS エアバッグ」の項を参照してください）。至急、メカニックによる点検を受けてください。

トランスファー ギアボックス ー 燈色



シフト レバーを「Hゲート」に動かすとライトが点滅しはじめ、トランスファー ギアボックスがあるレンジからもう一方のレンジにシフトし終えるまで点滅し続けます。

このライトが点滅しなくなるまでブレーキ ペダルから足を放したり走行したりしないでください。

トラクション コントロール ー 橙



イグニッション スイッチを「ON」にすると約3 秒間点灯し、その間にABSとトラクション コントロールは自己診断を行います。

運転中にこの警告灯が最低2秒間点灯した時は、トラクション コントロールが作動していることを示します。トラクション コントロールが停止すると警告灯はすぐに消えます。警告灯が最低10秒間点滅した場合、システムの使い過ぎですので、その場合はシステムを冷却後、再度使用することができます。

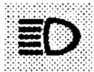
警告灯が点灯を続ける場合は、故障ですのでメカニックによる点検を受けてください。

方向指示器 ー 緑



方向指示器の動作に連動して右または左のライトが点滅します。警告灯が2 回点滅した場合は、方向指示器の電球が切れていることを示します（メッセージ センターには対応したメッセージが表示されます）。トレーラーをけん引していてその電球が切れている場合はメッセージは表示されません。非常点滅表示灯を点灯した場合、両側の警告灯が連動して点灯します。

前照灯上向きビーム ー 青



前照灯を上向きにすると点灯します。

灯火類点灯 ー 緑



車幅灯または前照灯が点灯している場合に点灯します。駐車灯が点灯している時または前照灯遅延消灯機能が作動している場合は点灯しません。

警告灯

エア サスペンション ー 橙

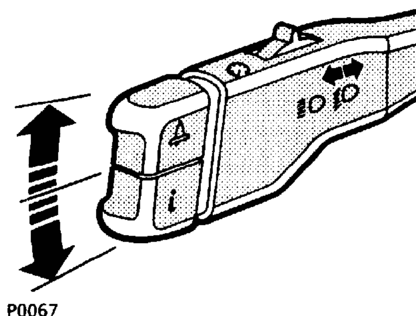


電球の点検の為にイグニッション スイッチが「ON」になった時に点灯し、2秒間点灯を続けます。加えて、走行中に「High」または「Extended」が選択された場合、または故障が起きた時に点灯します。

知識

- キー抜き忘れ警告：キーがイグニッション スイッチに差し込まれていて運転席のドアが開かれ、エンジンが回転していない場合に音による警告が行われます。キーを抜くか、ドアを締めると警告音は停止します。
  メッセージ センターには「IGNITION KEY IN」と表示されます。
- ライト オン警告：前照灯が点灯中、キーをイグニッション スイッチから抜きドアを開くと、音による警告が行われます。消灯するか、ドアを締めると警告音は停止します。メッセージ センターには「LIGHTS ON」と表示されます。
- 運転席シート ベルトの警告：約6秒間、もしくはシート ベルトが装着されるまで警告音が鳴り、メッセージ センターに「SEAT BELT PLEASE」と表示されます。
- ハイ/ロー レンジの切り替え時の警告：ハイ レンジとロー レンジを切り替えようとすると、警告音が鳴ります。切り替えを完了するまたはキャンセルすると警告音は止まります。

ランプと表示灯


P0067

方向指示器（ウインカー）

レバーを下げると左の、上げると右の方向指示灯を点灯します（該当する緑の警告灯が計器パネルに点灯します）。

車線変更の際にはスプリングの抵抗を感じる位置までレバーを上下させてください。

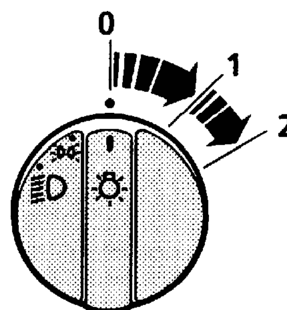
車幅灯、テールライト、計器パネル照明


イグニッション キーを挿してライトニング スイッチを「1」にします。

前照灯


ライトニング スイッチを「2」にします。

車から離れる時に進路を照らすには、以下の順序で前照灯と室内照明の遅延消灯機能を働かせることができます。

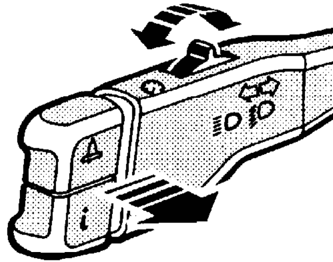


P0149

前照灯、室内照明の遅延消灯

1. ライトニング スイッチを「2」にし、イグニッション スイッチを「II」にします。
2. イグニッション スイッチを「0」に戻し、キーを取り外してライトニング スイッチを「2」から「0」にします。
3. 前照灯は約25秒間点灯を続けます。またメッセージ センターには「HEADLIGHT DELAY」と表示されます。

ランプと表示灯



前照灯の上向き、下向きビームの切り替え

ステアリング コラムに向かってレバーを一杯に引くと下向きビームから上向きビームへの切り替えが行われます（上向きビームの場合、青の警告灯が計器パネルに点灯します）。

前照灯を点滅させる場合は、ステアリング ホイールに向かって軽く引き、すぐに放してください。

駐車灯

ライトニング スイッチを1にし、イグニッション スイッチを抜いて方向指示器レバーを下げると左側の車幅灯と尾灯が点灯し、上げると右側の車幅灯と尾灯が点灯します（レバーが中央の位置にある場合は両方が点灯します）。消灯する場合は、ライトニング スイッチを「0」にします。

計器パネル照明

レバー上面のロッカー スイッチを何回か右または左に回すようにして（スイッチは1回ごとに戻りますが）計器パネル照明の光量を調整することができます。減光機能は同様にスイッチ類、エアコン液晶ディスプレイの光量も調整します。

また減光機能はメッセージ センターの明るさも調整しています。ただし、計器パネル照明の明るさを最大にセットしている時（スイッチを右に回したまま）、ロッカー スイッチを一瞬左に回すとメッセージ センターの表示だけが減光し、計器パネル照明の明るさは最大のままになります。

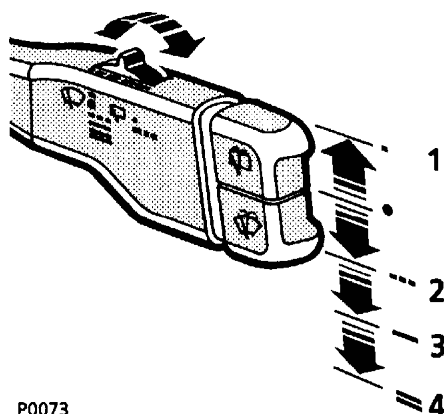
知識

- メモリー付き電動シート装着車では、車幅灯が点灯している際にシート ポジションを記憶させるとその時の計器パネルの光量も同時に記憶されます。

ワイパーとウォッシャー

前面ガラス ワイパー

前面ガラス ワイパーはイグニッション スイッチが「I」または「II」の位置にある時のみ使用することができます。



前面ガラス

前面ガラスのワイパーのみを作動させる場合は、レバーをステアリング ホイールから見て押し込むようにします。

１回作動

レバーを「1」に上げ、放します。

間欠作動

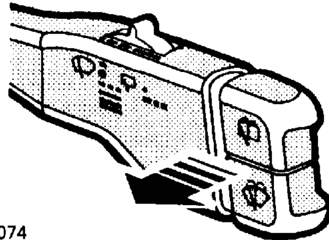
レバーを「2」の位置に下げると間欠的に作動します。ダイヤルを左か右に回すと拭き取りの間隔が増減します。

標準速度／高速作動

レバーを「3」の位置に下げると標準の速度で、「4」にすると続けて早く拭き取りを行います。

ワイパーとウォッシャー

後面ガラス


P0074

レバーをステアリング ホイールに向けて引くと後面ガラスのワイパーが間欠的に作動します。

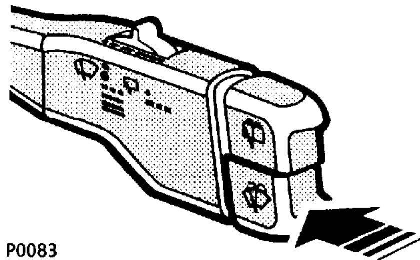
この位置では前面ガラス ワイパーの前ページに記してある4 種類の全ての機能を使用することができます。

前面ガラス ワイパーが間欠作動している場合は、前面ガラス ワイパーの動作と同時に作動します。前面ガラス ワイパーが連続で作動している場合は、ダイヤルによって間隔を調整することができます。

 アドバイス

- 水気のないウィンドウではワイパーを動かさないでください。ガラスを傷つけます。
- 厳寒や猛暑の日には、ブレードが凍っていたり、ガラスに張りついていないことを確認してください。
- 冬季には、アームとブレードのまわりや、前面ガラスのワイパーの通り道やヒーターのエア インテークから雪や氷を取り除いてください。

前面ガラス ウォッシャー


P0083

下側ボタンを押し続けると、フロント ウォッシャーが作動し、拭き取りを行います。ウォッシャーはボタンを押している間作動を続けます。

ボタンを放すと、ワイパーは3回完全に拭き取り動作を行った後に停止するか、選択されているワイパーの作動を続けます。

瞬間的に下側ボタンを押すと、事前に設定されたウォッシャーの動作を行います。ウォッシャーは瞬間的に作動し、ワイパーは3回完全に拭き取り動作を行った後に停止するか、選択されているワイパーの作動を続けます。レバーをフロント ワイパーの他の動作にセットすると、ウォッシャーの作動は停止されます。

ワイパーとウォッシャー

知識

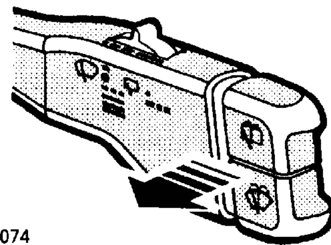
- ワイパー システムがウォッシャーの液量の低下を検知すると、ボタンを押し続けても事前設定の動作のみを行います。つまり短時間のウォッシャー作動のみが行われ、あとの3回の拭き取りは行いません。

ウォッシャー ノズル

前面ガラスのウォッシャーのノズルを調整するには、ノズルに針を差し込みウィンドウの中央の線にウォッシャーが吹き付けられるように調整します。

ノズルに異物が詰まった場合、針や細い線を使用して異物を取り除くことができます。

後面ガラス ウォッシャー


P0074

上側ボタンを押し続けると、リア ウォッシャーが作動し、拭き取りを行います。ウォッシャーはボタンを押している間作動を続けます。ボタンを放すと、ワイパーは3回完全に拭き取り動作を行った後に停止するか、選択されているワイパーの作動を続けます。

瞬間的に上側ボタンを押すと、事前に設定されたウォッシャーの作動を行います。ウォッシャーは瞬間的に作動し、ワイパーは3回完全に拭き取り動作を行った後に停止するか、選択されているワイパーの作動を続けます。レバーをリア ワイパーの他の動作にセットすると、ウォッシャーの作動は停止されます。

リア ワイパーは後退ギアが選択された際に自動的に作動し、同時にフロント ワイパーの連続、間欠作動が続けられます。

前照灯ウォッシャー、ワイパー

前照灯ウォッシャー、ワイパーはタイマーによって制御され、前照灯が点灯されている時に前面ガラス ウォッシャーを作動させると同時に作動します。

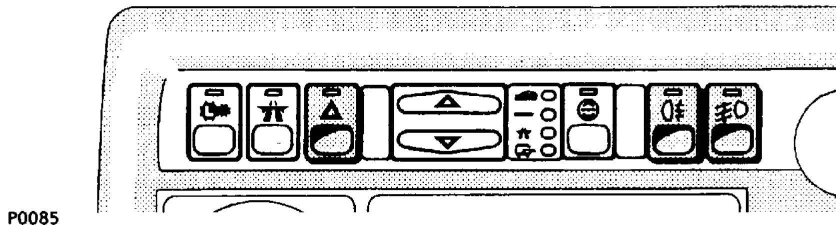
知識

- ワイパー システムがウォッシャーの液量の低下を検知した場合は、前照灯ウォッシャー、ワイパーは作動しません。

ワイパーとウォッシャー

前面ガラス ウォッシャーの液量の低下

ウォッシャー液の量が低下していると、メッセージ センターには「LOW SCREEN WASH」メッセージが表示されます。メッセージはイグニッション スイッチが「ON」になっているか、「II」の位置にある時にワイパーが作動した場合に表示されます。システムをリセットするにはリザーバーにウォッシャー液を注入し、イグニッション スイッチを「OFF」にします（「前面ガラス ウォッシャー液の点検と補充」（P.172）の項を参照してください）。


P0085

フェイシア センター コンソール スイッチ

以下のスイッチは運転席と助手席の間のセンター コンソールに取り付けられています。

フロント フォグ ランプ（装着車のみ）

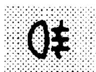


スイッチを押すと点灯または消灯をし、ランプが点灯している間はこの表示灯が点灯します。

フォグ ランプはイグニッション スイッチが「II」の位置にあり、前照灯または車幅灯が点灯している場合に表示灯が点灯します。フォグ ランプの点灯操作はライトニング スイッチまたはイグニッション スイッチが「OFF」にされた場合、再度操作する必要があります。

視界が確保されたらできるだけ早く消灯するようにしてください。

リア フォグ ランプ



スイッチを押すと点灯または消灯をし、ランプが点灯している間はこの表示灯が点灯します。リア フォグ ランプはイグニッション スイッチが「II」の位置になっているか、以下の場合のみに点灯します。

- 前照灯が点灯している場合
- 車幅灯とフロント フォグ ランプが点灯している場合

リア フォグ ランプの点灯操作はライトニング スイッチまたはイグニッション スイッチが「OFF」にされた場合、再度操作する必要があります。

 アドバイス

- 視界の良い時にこのランプを使用すると後続車がまぶしく感じ、運転に支障をきたします。視界が悪い時だけ使用してください。

スイッチ類

非常点滅表示灯



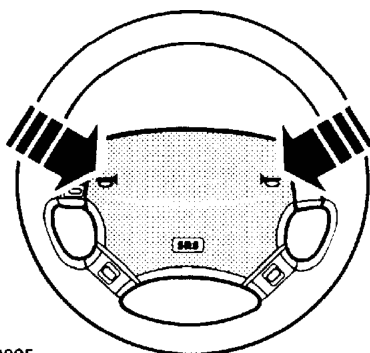
スイッチを押すと点灯します。トレーラーに取り付けられているものを含む全ての方向指示灯が全て連動して点灯します。非常時に他の車に対して非常停車をしていることによって通行の妨げになっている時、またはその他の非常事態の場合のみに点灯するようにしてください。再度走行する前には必ず消灯してください。

知識

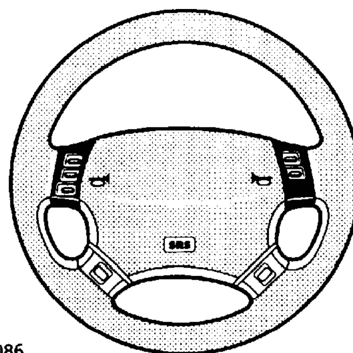
- 電子制御エア サスペンション スイッチについては「エア サスペンション」の項を参照してください。同様にクルーズ コントロール スイッチについては「クルーズ コントロール」の項を参照してください。

ステアリング ホイール スイッチ

装着車の場合、ステアリングホイールには以下のスイッチが取り付けられています。



P0095



P0086

クルーズ コントロール（図 P0095 下）（装着車のみ）

「クルーズ コントロール」の項に記載されている「SET+」スイッチと「RES」スイッチが取り付けられています（「クルーズ コントロール」の項参照）。

ホーン（図 P0095上）

警笛を鳴らす場合はステアリング パッドの端のホーンのマークが記された位置を押します。

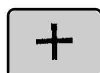
ラジオリモコン（図 P0086）（装着車のみ）

次ページ「ラジオリモコン」の項および別冊「オーディオ システム取扱説明書」を参照してください。

ラジオ リモコン（装着車のみ）

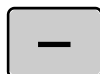
ラジオリモコン（装着車のみ）

スイッチはボタン式です。ボタンを押すと作動し、手を放すと停止します。装備されているラジオ／カセットプレーヤーをラジオリモコンと一緒に使用する時は、以下に説明する付加的な機能が含まれます。詳細については、「オーディオシステム取扱説明書」を参照してください。



ラジオ－音量大

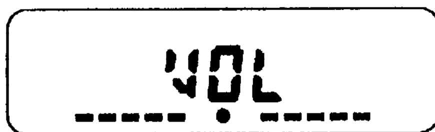
音量を上げる時に押します。



ラジオ－音量小

音量を下げる時に押します。

- ボリュームリモコンボタンを押すとラジオのディスプレイにリモコンのボリューム設定表示が約5秒間表示されます。この表示はリモコンの調整時のみ表示されます。
- ボリュームリモコンのボリュームを最小近くに設定した場合は、ラジオのボリュームを右に回しても十分なボリュームが得られません（ボリュームが上がらない）。この時はリモコンの+ボタンを押して設定値を上げてください。



ラジオのディスプレイ
（最小値の表示）



シーク／サーチ アップ

ラジオ時に押すと周波数が増加し、隣接した放送局を受信します。テープ時は次の曲の頭まで早送りされます。CDの次の曲を選択するのにも使用できます。



シーク／サーチ ダウン

ラジオ時に押すと周波数が減少し、隣接した放送局を受信します。テープ時は今聞いている曲の頭まで巻戻されます。また、CDの前の曲を選択するのにも使用できます。



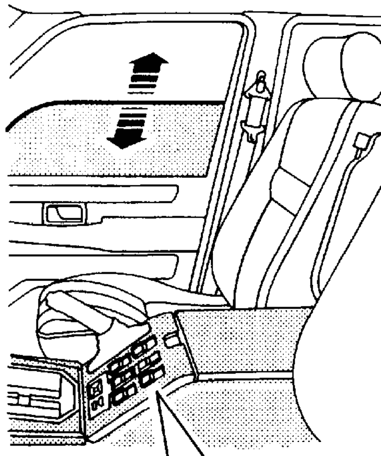
モード切り替え

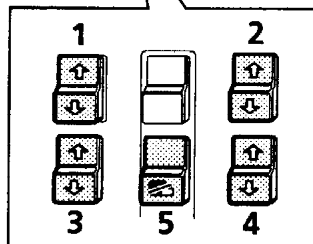
バンド(FM/AM)を切り替える時に押します。FMI→FMII→AM→CD の順でモードが切り替わります。

パワー ウィンドウ

センター コンソールのスイッチによって以下のウィンドウの操作ができます。

1. 右フロント ウィンドウ
2. 左フロント ウィンドウ
3. 右リア ウィンドウ
4. 左リア ウィンドウ
5. 後部ウィンドウ ロック スイッチ
   このスイッチはリア ドア ウィンドウの操作を停止します（お子様を乗せる際にお使いください）。





P0097

知識

- リア ウィンドウは各ドアに取り付けられているスイッチによっても操作することができますが、ロック スイッチの下側を押している時は操作できません。

パワー ウィンドウの操作

パワー ウィンドウはイグニッション スイッチが「I」または「II」になっているか、イグニッション スイッチを「OFF」にしてから45秒以内であれば作動します（運転席のドアが開かれていない場合）。運転席のドアが開くと、待機時間が更に45秒間延長されます。

知識

- 45秒間は、マニュアル モードによる開閉のみが可能であり、ワンタッチでの開閉はできません。

ウィンドウはスイッチを下に押すと開き、上に押すと閉じます。

ウィンドウはスイッチから指を放すとすぐに停止します。

パワー ウィンドウ



電動式なので、誤って指や手、身体の一部が挟まることがありますので十分に注意して操作してください。

以下の点にご注意ください。

- 小さいお子様を乗せる場合は、後部ウィンドウ スイッチをロックしてください。
- サイド ウィンドウを操作する時には、必ず小さいお子様に気をつけて行ってください。
- お子様だけを車内に残し、車から離れないようにしてください。
- 同乗者には、パワーウィンドウの操作とその危険性について話してください。
- アンチ トラップ機能が作動していることを確認してください。

ワンタッチ機能

スイッチを少しの間押し、0.5秒以内に放すと、ウィンドウはワンタッチで開閉することができます。ウィンドウガラスが上下に動いている間、いつでも反対方向へのスイッチを押すとウィンドウの動きは停止します。



- リア ウィンドウでは閉める場合にワンタッチ機能は作動しません。

アンチ トラップ（挟まり防止）機能

アンチ トラップ機能はウィンドウを閉める時に障害物が検知されると作動する安全装置です（メッセージ センターには「WINDOW BLOCKED」メッセージが表示されます）。閉まる途中のウィンドウに何かが挟まった時の抵抗を感知してウィンドウガラスが自動的に下降します。この機能はお子様を乗せた際に特に有効です。常に使用するようお勧めいたします。



- ワンタッチ機能またはアンチ トラップ機能がセットされていないと、ウィンドウを閉める時またはイグニッション スイッチが「ON」または「OFF」にされた際に警告音が鳴り、メッセージ センターには「WINDOW NOT SET」メッセージが表示されます。

パワー ウィンドウ

ワンタッチ機能、アンチ トラップ機能のセット

バッテリーが取り外された場合、下記の手順でワンタッチ機能、各ウィンドウにセットされているアンチ トラップ機能をリセットする必要があります。

1. 一度の操作で窓を完全に開閉します（ウィンドウを閉じる時に、警告音が鳴り、メッセージ センターに「WINDOW NOT SET」メッセージが表示されます）。
2. 一度ウィンドウが完全に開閉されると（フルに開き、フルに閉じる動作）、警告音が鳴り、メッセージ センターに「WINDOW SET」メッセージとセットされたウィンドウの位置が表示されます。

これでワンタッチ機能とアンチトラップ機能を使用することができます。

 知識

- 閉める場合のワンタッチ機能はフロント ウィンドウのみ使用することができます。

アンチトラップ機能の取り消し

一定の条件で、アンチトラップ機能を取り消すことができます。例えば、アンチトラップ機能が不正に作動したことによってウィンドウを閉じることができなくなった場合などが考えられます。(作動機構に過負荷がかからないように、必ずウィンドウから氷を取り除くようにしてください)。

アンチトラップ機能は以下のように取り消すことができます。

1. センター コンソールの該当する（アンチトラップ機能の作動したウィンドウの）ウィンドウスイッチで引っかかりを検知した位置まで閉め、なお約10秒以内押し続けます。
2. ウィンドウが閉じるか目的の位置までウィンドウが動くまでスイッチを押し続けます（ウィンドウが閉じて、メッセージ センターに「ANTI-TRAP OFF」メッセージが表示されます）。

 知識

- アンチトラップ機能はパワー ウィンドウ スイッチを放した後すぐに作動することができます。

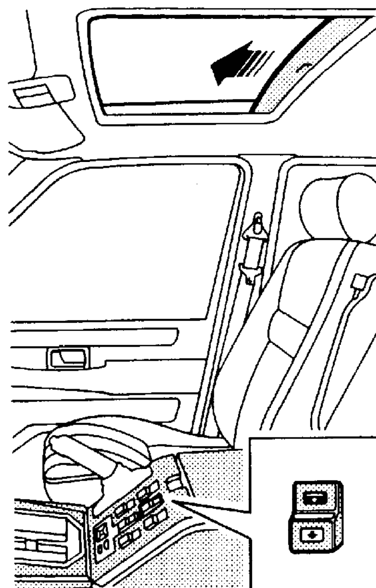
後部ウィンドウ ロック スイッチ

このスイッチの下部を押すと、リア ウィンドウの操作ができないようになり（警告音が鳴り、メッセージ センターには「REAR WINDOWS OFF」メッセージが表示されます）、スイッチの上部を押すと再度操作ができるようになります。

お子様を乗せる際は必ずリア ウィンドウを操作できないようにしてください。

電動サンルーフ（装着車のみ）

サンルーフはイグニッション スイッチが「I」または「II」になっているか、イグニッション スイッチを「OFF」にしてから45秒以内であれば作動します（運転席のドアを開いていない場合）。運転席のドアを開くと、待機時間が更に45秒間延長されます。


P0099

知識

- 45秒間は、マニュアル モードによる開閉のみが可能であり、ワンタッチの開閉はできません。
- サンルーフのブラインドは手動で開閉できますが、サンルーフを開いた際に同時に開きます。

サンルーフは以下の2段階で開閉します。

ルーフのチルト

サンルーフを閉め、スイッチの下側を押すとサンルーフ後部がチルトします。角度が最適になった時スイッチから指を放します。サンルーフを閉じるにはスイッチの上側を押します。

サンルーフを開く

スイッチの上側を押し、サンルーフが希望の位置になったらスイッチを放します。サンルーフを閉じるにはスイッチの下側を押し続けます。

ワンタッチ機能

スイッチの上側を押して、しばらくして(0.5 秒以内に)放してください。サンルーフは、車内への風の巻き込み（および騒音）が最も少ないあらかじめ設定された位置まで開きます。サンルーフをいっぱいまで開ける場合は、もう一度スイッチを押して放してください。

スイッチの下側を押して、放せば、そのまま押し続けなくても、ワンタッチでサンルーフは閉じます。反対方向へのスイッチを押すとサンルーフの動きは停止します。

知識

- サンルーフのチルトに対してはワンタッチ機能は働きません。

電動サンルーフ（装着車のみ）

アンチ トラップ（挟まり防止）機能

アンチ トラップ機能はサンルーフを閉める時に障害物が検知されると作動する（検知すると自動的にサンルーフが開く）安全装置です（メッセージ　センターには「SUNROOF BLOCKED」メッセージが表示されます）。この機能はお子様を乗せた際に特に有効です。常に使用するようお勧めいたします。

知識

- ワンタッチ機能またはアンチ トラップ機能がセットされていないと、サンルーフを閉める時、またはイグニッション スイッチが「ON」または「OFF」にされた際に警告音が鳴り、メッセージ センターには「SUNROOF NOT SET」メッセージが表示されます。

ワンタッチ機能、アンチ トラップ機能のセット

バッテリーが取り外された場合、下記の手順でワンタッチ機能、各ウィンドウにセットされているアンチ トラップ機能をリセットする必要があります。

1. 開閉動作の後、チルトを行ってサンルーフを一連の操作で閉じると、警告音が鳴りサンルーフが作動している際にメッセージ センターに「SUNROOF NOT SET」と表示されます。
2. 一度操作が成功すると、警告音が鳴り、「SUNROOF SET」メッセージがメッセージ センターに表示されます。これでワンタッチ機能とアンチトラップ機能を使用することができます。

⚠ 警告

電動式なので、誤って指や手、身体の一部が挟まることがありますので十分に注意して操作してください。

以下の点にご注意ください。

- サンルーフを閉じる時は、必ず同乗者に気をつけてください。
- お子様だけを車内に残し、車から離れないようにしてください。
- 同乗者には、電動サンルーフの操作とその危険性についてお話ください。
- 運転中は、絶対に同乗者がサンルーフから身体を乗り出さないように注意してください。
- アンチトラップ機能はできるだけ使用するようにしてください。

電動サンルーフ（装着車のみ）

アンチトラップ機能の取消し

一定の条件で、アンチトラップ機能を取り消すことができます。例えば、アンチトラップ機能が不正に作動したことによってサンルーフを閉じることができなくなった場合などが考えられます。

知識

- 機能の取り消しをできるだけ行わないように、取り消しを行う前に氷などの障害物を取り除いてみてください。

アンチトラップ機能は以下のように取り消すことができます。

1. アンチトラップ機能の作動したサンルーフをスイッチで引っかかりを検知した位置まで閉め、なお約10秒以内スイッチを押し続けます。
2. サンルーフが閉じるまでスイッチを押し続けます。警告音が鳴り、「ANTI-TRAP OFF」と「SUNROOF」がメッセージ センターに交互に表示されます。

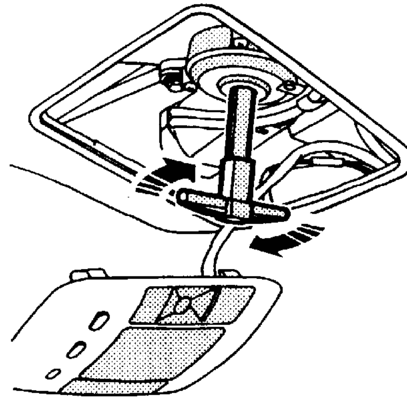
知識

- アンチトラップ機能はスイッチを放した後すぐに作動することができます。

車から離れる場合

サンルーフを開いたままで、運転席のドアを開き、イグニッション キーを取り外すと「SUNROOF OPEN」メッセージが表示されます。車から離れる場合は必ずサンルーフを閉じてください。

電動サンルーフ（装着車のみ）



緊急時の操作

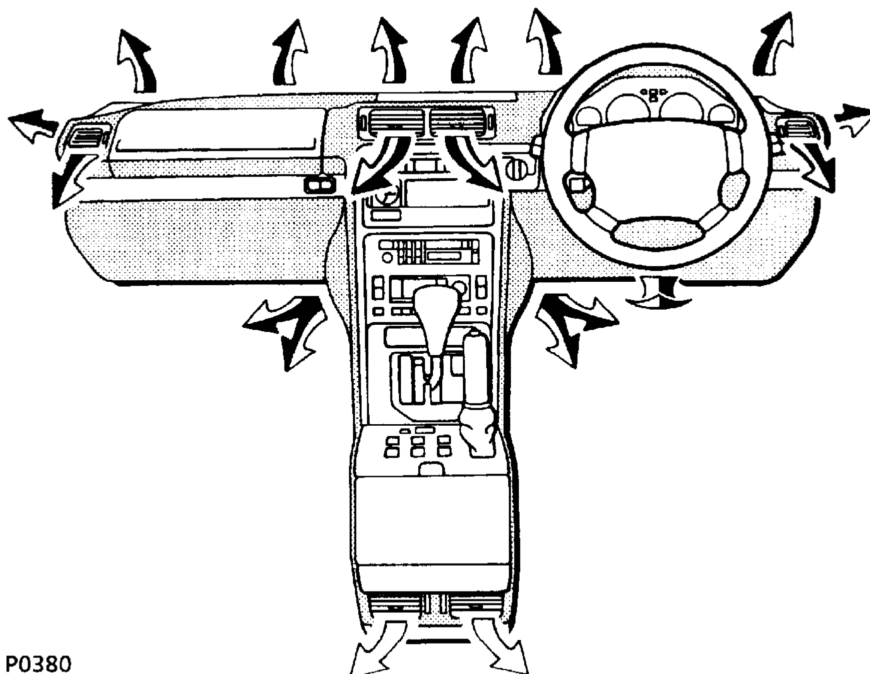
サンルーフが作動しなくなったら、はじめにヒューズを点検し、必要ならば交換をしてください。

必要に応じて、非常操作キー（グローブ ボックスに常備されています）をサンルーフモーター スピンドルに挿入して回すことによって手動でサンルーフを閉じることができます（図示）。

スピンドルは天井の室内照明の内部からアクセスすることができます。

手動による操作が終了したら、スピンドルを1/4回転戻して電動装置が復活できるようにしてください。

暖房、換気装置、エアコン

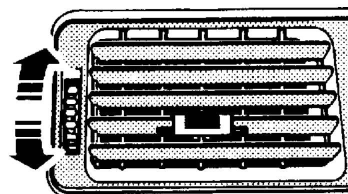

P0380

ヒーター、換気装置は外気または温風を車内に吹き込みます。吹出し口は、顔面と足元の両方および前面ガラスに向けて空気を出すように配置されており、またステアリングホイールの下には、膝に向けて空気を出す吹出し口が設けてあります。吹出し口の位置は、図のとおりです。

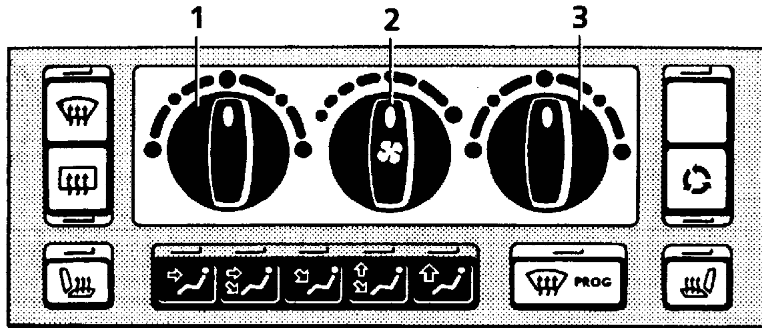
自動温度調整(ATC)が取り付けられている場合、後席用に除湿された空気を供給するための吹出し口が2カ所あります。

フェイス レベルへの吹出し口

ホイールによって上下方向の調節と開閉ができます。左右の風向きは吹出し口中央のスライダーによって調節できます。運転席の外気導入を行うと、膝への吹出し口も同時に開きます。


P0125

暖房、換気装置、エアコン



P0101

ヒーターの操作

1. 左側温度調整
2. ファン速度の調整
3. 右側温度調整

温度の調整

左右のノブを時計方向に回すと右側、左側の温度が独立して上昇します。反時計方向に回すと温度は下がります。

ファン速度の調整

風量は時計方向に回すと増え、反時計方向に回すと減少します。

エア配分

エアを吹き出したい方向のボタンを押します（対応する表示灯が点灯します）。

 フェイス レベルと膝へ

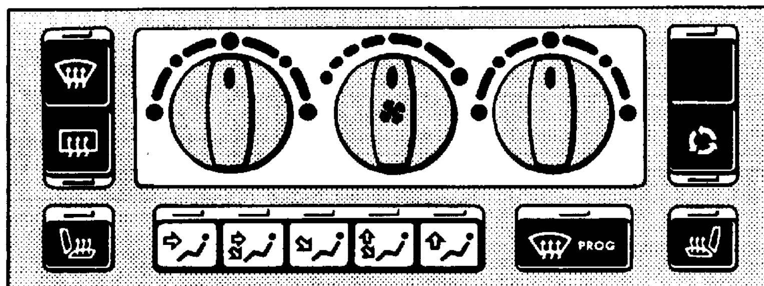
 フェイス レベル、足元へ

 足元へ

 足元と前面ガラスへ
（軽い曇り取り）

 前面ガラスとサイド ウィンドウへ
（強力な曇り止めに）

暖房、換気装置、エアコン



P0206

プログラムド デフロスター



エンジンが掛かっている状態で、「PROG」ボタンを押すと、走行を始めた早い段階で曇りを取り除くことができます(表示灯が点灯します)。

プログラムド デフロスターは以下の機能があります。

- 全てのガラスの曇りを取るために最も効果的な設定を行います。
- 後面ガラスの熱線を最大16分間作動させます。
- 前面ガラスの熱線を最大4分間作動させます。(フロント デフロスター装着車のみ)

「PROG」ボタンをもう一度押すとプログラムド デフロスターは停止して元の設定に戻ります。

内気循環



車内の空気を循環させる時に押します（表示灯が点灯します）。外気が汚れている際に車内への侵入を防ぐことができます。もう一度押すと内気循環を停止します。

知識

- 長い間内気循環を行うとガラスが曇ります。

リア デフロスター



後面ガラスの曇りを取る際に使用します。もう一度押すとスイッチが切れます。この機能は16分経過すると自動的に停止します。

フロント デフロスター（装着車のみ）



前面ガラスの曇りを取る際に使用します。もう一度押すとスイッチが切れます。この機能は4分経過すると自動的に停止します。

暖房、換気装置、エアコン

フロント シート ヒーター（装着車のみ）

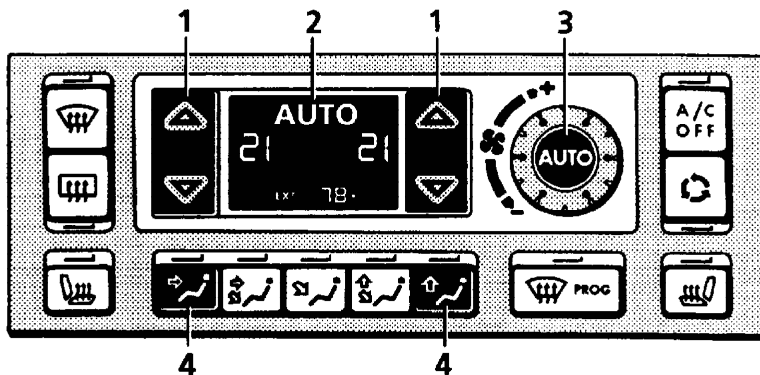


押すとシート ヒーターが作動します（表示灯が点灯します）。もう一度押すと停止します。



アドバイス

- ヒーターを確実に作動させるために、前面ガラス下部の空気取り入れ口が氷、雪またはその他のゴミに遮られていないことを確認してください。



自動温度調整(ATC)

自動温度調整機能はコンピューター制御のエアコン システムです。設定した温度まで自動的に調整し、達した後、外気温に関わらず車内を快適な温度に保ちます。

オートマチック コントロール

エンジンが掛かっていて、「AUTO」ボタン(3)(「AUTO」とディスプレイに表示されます）を押し、ディスプレイ両側のスイッチ(1)を押すと快適な温度になるように（約21℃を推奨します）車内の左右を独立させて温度を調整することができます。最高、最低温度を選択した場合は、ディスプレイに「HI」または「LO」と表示され、温度設定は自動的には行われません。

温度の単位を摂氏または華氏に変更するには、両側のボタン(4)を同時に約4秒間押します。



知識

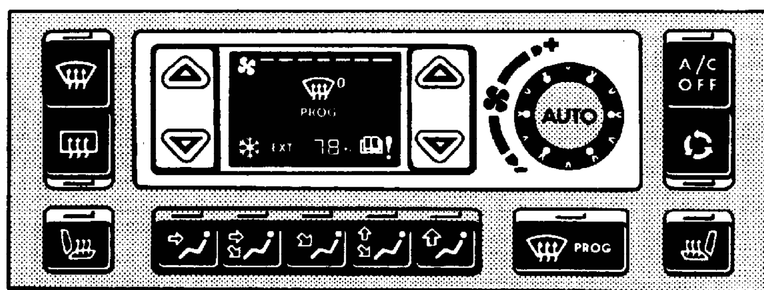
- 自動温度調整装置は助手席側の設定温度と運転席側の設定温度に6°C以上の差がある場合は作動しません。

暖房、換気装置、エアコン

快適に使用するには、リアを含めた全ての吹出し口を開いて、吹出し口中央のスライダーを中央にセットしてください。

 アドバイス

● 自動温度調整を正確に作動させるためには、全ての窓を閉め、空気取り入れ口が氷、雪またはその他の物によって遮られていないことを確認してください。



P0207



エンジンが掛かっている時, 走行を始める前に「PROG」ボタンを押して、プログラムド デフロスターを作動させることにより、曇りを取り除きます（表示灯が点灯し、ディスプレイに「PROG」と表示されます)。

プログラムド デフロスターは以下の機能を自動制御します。

● 全てのガラスの曇りを取るために最も効果的な設定を行います。

● 後面ガラスの熱線を最大16分間作動させます。

● 前面ガラスの熱線を最大4分間作動させます。(フロント デフロスター装着車のみ)

「PROG」ボタンをもう一度押すとプログラムド デフロスターは停止して元の設定に戻ります。

内気循環



車内の空気を循環させる時に押します（表示灯が点灯します)。外気が汚れている際に車内への侵入を防ぐことができます。もう一度押すと内気循環を停止します。

 知識

● 長い間内気循環を行うとガラスが曇ります。

暖房、換気装置、エアコン

エアコンの停止

A/C OFF スイッチを押すと、エアコンが停止します。エアコンを停止すると、自動温度調整は快適な温度になるように最小限の風量を供給します。エアコンが停止すると、快適な環境を維持できなくなるためにエアコン スイッチの表示灯が約10秒間点滅します。もう一度スイッチを押すと事前のエアコンの設定に戻ります。

セミオートマチック コントロール

エアコンはセミオートマチック モードで使用することができ、（ディスプレイから「AUTO」 の表示が消えます）手動によってエア配分と風量の調節を行うことができます。「AUTO」ボタンを押すことによってオートマチック コントロールに戻ることができます。

エア配分

エアを吹き出したい方向のボタンを押します（対応する表示灯が点灯します）。



フェイス レベルへ



フェイス レベル、足元へ



足元へ



足元、前面ガラスへ（「AUTO」モードになっている際に前面ガラスが軽く曇った際に使用）



前面ガラスとサイド ウィンドウへ（全てのガラスが激しく曇った場合に使用）

ファン速度の調節



風量は時計方向に回すと増え、反時計方向に回すと減少します。ディスプレイにバーが表示され、ファンの速度の増減をバーの数によって表示します。

暖房、換気装置、エアコン

その他の機能

フロント／リア デフロスター(フロント デフロスター非装着車はリアのみ)





プログラムド デフロスターと同様に、目的のボタンを押すことによって前・後面ガラスのヒーターを使用することができます（もう一度押すと停止します)。リア デフロスターは16分後に、フロント デフロスターは4分後に自動的に停止します。

フロント シート ヒーター(装着車のみ)



押すとシート ヒーターが作動します（表示灯が点灯します）。― もう一度押すと停止します。

低温による警告



外気温が約3°C以下で凍結の恐れがある場合は、雪結晶のマークが表示されます。

外気温

外気温がディスプレイに表示されます。

自己診断



エアコン システムは常に自己診断を行い、故障を発見します。故障が発見されると、ディスプレイにハンドブック マーク（本を開いた状態）を表示します。その場合は、ランドローバー特約販売店に連絡してください。

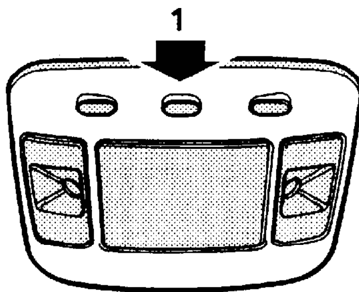
室内灯とマップ ライト

手動による操作

目的のボタンを押して点灯させせます。もう一度押すと消灯します。

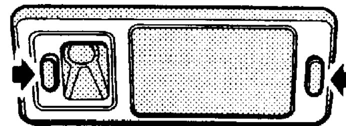
知識

- 前席用室内灯スイッチ1（図矢印）を操作すると、同時に後席用室内灯の操作も行われます。



（前席用）

1. 前席用室内灯スイッチ
2. マップライトスイッチ
3. 後席用室内灯スイッチ



（後席用）

自動操作

ドア、テールゲートを開くと、前後の室内灯が点灯し、ドアを閉じた後約15秒間経過するか、イグニッション スイッチが「ON」になるまで点灯を続けます。

ドアまたはテールゲートを10分以上開けたままにしていると、タイムアウト機能が作動して室内灯を消灯させてバッテリーあがりを防止します。

知識

- 手動操作によって室内灯またはマップ ライトを点灯した場合は、自動的に消灯は行われません。

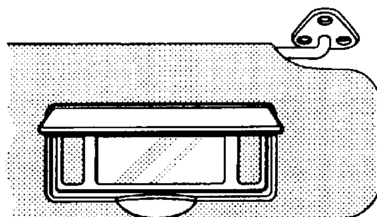
自動操作を停止するには

前席用室内灯のスイッチ(1)を警告音が鳴り、メッセージ センターに「INT LIGHTS OFF」メッセージが表示されるまで押し続けます。

同じ操作をもう一度行うと、自動操作を再度開始します（警告音が鳴り、メッセージ センターに「INT LIGHT ON」メッセージが表示されます）。

バニティ ミラー照明
（装着車のみ）

イグニッション スイッチを「II」の位置にしてサンバイザーを下げ、バニティ ミラーのカバーを開くとミラーの照明が点灯します。カバーを閉じると消灯します。

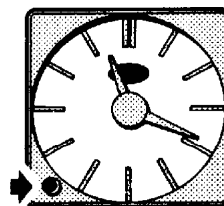

P0115

時計

時刻を調節するには、一回のボタンの押し放しで1分間進ませることができ、押し続けると早く進みます。

 アドバイス

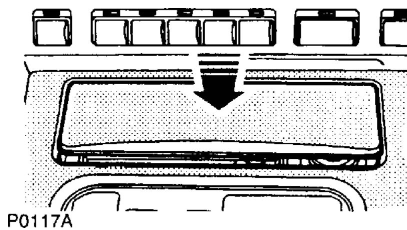
- バッテリーの接続を外した場合は時計を調節する必要があります。

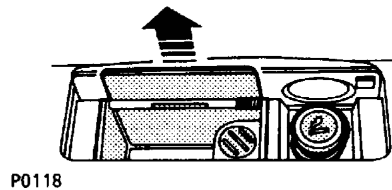

P0116

前席用灰皿

ふたを押して、灰皿を開けてください。中にはタバコ消し、灰皿とシガー ライターがあります。

> **⚠ 注意**
>
> - 火災が発生する恐れがありますので、灰皿には紙等の燃えやすい物を捨てないでください。


P0117A


P0118

シガー ライター

シガー ライターは前席用灰皿に取り付けられています。

イグニッション スイッチを「I」の位置にし、ライターを押し込むと加熱します。適切な温度になると、元の位置まで戻り、使用することができます。

> **⚠ 注意**
>
> - ヤケドをしないようにシガー ライターは必ずハンドル（つまみ部）を持つようにしてください。

知識

- シガーライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
  - ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
  - ライターのさし込み口からは、ローバー純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
- 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりする恐れがあります。
- ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らない時は故障の恐れがありますので手で引き出し、ランドローバー特約販売店で点検を受けてください。

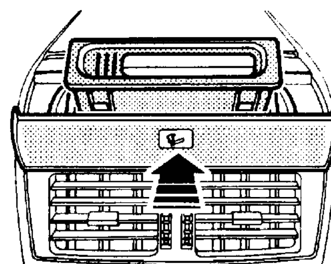
後席用灰皿

タバコのマークを押すと開きます。

灰皿を取り外すには、リッドを開き、中のトレーを取り外します。

⚠ 注意

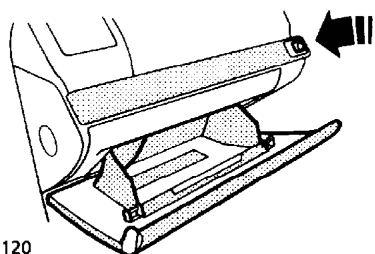
- 火災が発生する恐れがありますので、灰皿には紙等の燃えやすい物を捨てないでください。


P0119

グローブボックス

ボタンを押すと、ロックが外れ、リッドが下がります。

車幅灯が点灯している際にリッドを開くと、グローブ ボックス ライトが点灯し、リッドを閉じると自動的に消灯します。

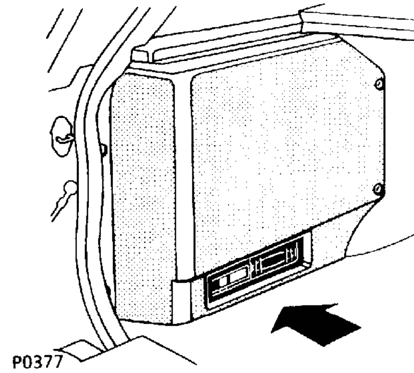

P0120

知識

- グローブ ボックスはイグニッション キーによって施錠することができます。キーを1/4回転回すとロックします。

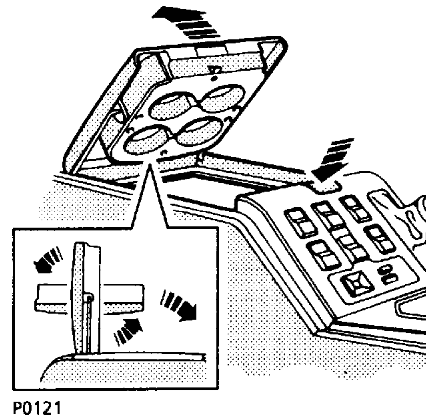
CD オートチェンジャー

CDオートチェンジャーは荷室の図示位置にあります。CDオートチェンジャーの作動については、「オーディオ システム取扱説明書」を参照してください。



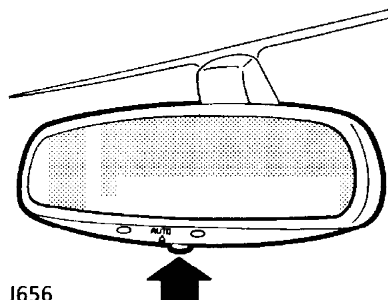
コンソール ボックス

ボタン（矢印）を押すとリッドが開きます。モデルによってはリッドを回転させるとカップ ホルダーとして使用することができます。カップ ホルダーとして使用する前には、リッドの前方をロックがかかるまで押し、確実に固定されていることを確認してください。



ルーム ミラー

自動防眩ミラー（装着車のみ）



ルーム ミラーには自動防眩装置が装着されており、ミラー底部の「AUTO」ボタンを押し、イグニッション スイッチを「ON」にすると作動します。

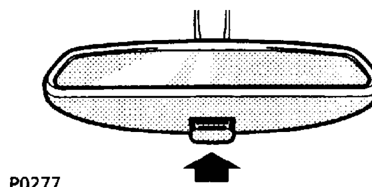
ボタン右側の緑の表示灯はスイッチが入っていると点灯します。電源が入った状態であれば、ミラーは夜間の後続車からのまぶしい光を軽減します。

「AUTO」ボタンをもう一度押すと、ミラーは通常の反射状態に戻ります。

知識

- 後退ギアを選択すると、ミラーはガレージや真っ暗な所からバックして出る際などに起こり得る逆行が反射しない位置に自動的に調整されます。

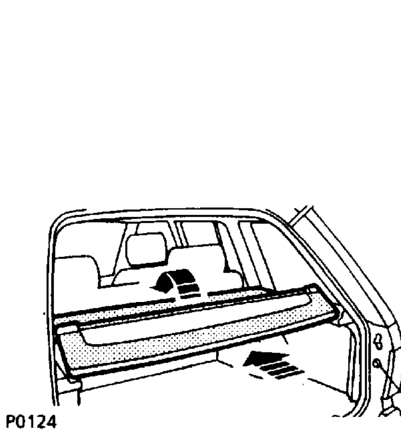
手動ミラー（装着車のみ）

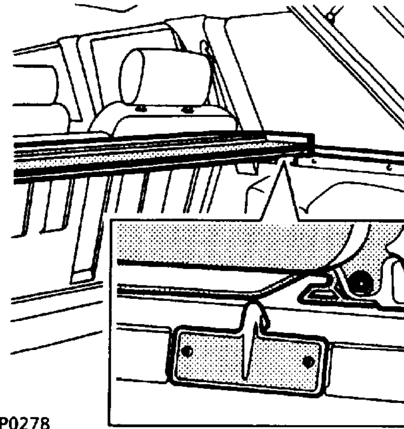


手動ルーム ミラーも後続車からのまぶしい光を低減することができます。夜間、ミラー底部のレバーを動かすと、防眩状態になります。レバーをもう一度引くと通常の視界に戻ります。

⚠ 警告

- 状況によっては、防眩ミラーを使用しているとドライバーは判断が乱れ、後方の車両との位置、距離を的確に把握できなくなる場合があります。普段以上に気をつけて運転することを心がけてください。


P0124


P0278

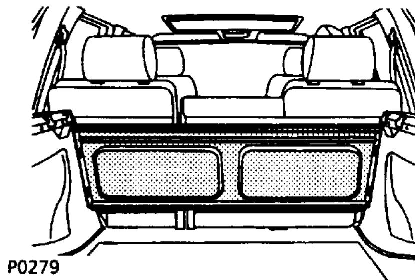
荷室カバー

カバーは室内に向けて上前方に折り畳むことができます。カバーの後部が前部の上に折り畳まれます。

荷室カバーは後部を引いて、横の止め金から取り外すことができ、荷室の前部に収納することができます。後席シートのすぐ後方の荷室両側のパネルに折り畳んだカバーを収納するスペースがあります。

⚠ 警告

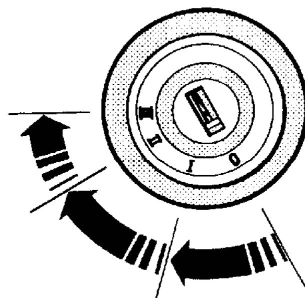
- 荷室カバーは荷物や不安定な品物を運ぶために設計されているものではなく、これらの物を上に置くと視界を妨げ、急ブレーキや衝突の際に前方に飛んでくる可能性があり危険です。
- 荷室に収納する装備品や荷物や工具は、事故や緊急事態の際に運転手や同乗者がけがをしないように固定してください。
- 荷室カバーを固定しない状態で車内に放置しないでください。


P0279

第 3 章　運転と操作

目　次　ページ

イグニッション スイッチとステアリング ロック



P0150

ステアリング ロック

ステアリング ロックを外すには

イグニッション キーを完全に挿入し、イグニッション スイッチを「I」の位置にします。

知識

- イグニッション スイッチが固くて「I」の位置へ動かせない場合は、ステアリング ホイールを左右に動かしながらスイッチを回してください。

ステアリング ロックするには

イグニッション スイッチを「0」の位置にしてイグニッション スイッチからキーを抜きます。

⚠ 注意

- いったんステアリング ロックがかみ合ったら、車を操作することはできません。走行中はキーを引き抜いたり、イグニッション スイッチを「0」のポジションにしないでください。

イグニッション スイッチとステアリング ロック

イグニッション スイッチ

イグニッション スイッチはステアリング コラム右側にあり、以下の順番でステアリング ロック、電気回路、スターター モーターが作動します。

「0」の位置

ステアリング ロック（キーを抜いた場合）

給油フラップを開けることができます。
以下の電装機器を使用することができます。駐車灯、前照灯、非常点滅表示灯、時計。

「I」の位置

ステアリング ロックの解除

ラジオ、カセット、CDプレーヤー、パワー ウィンドウ、ワイパーとウォッシャーを使用することができます。

「II」の位置

全ての計器、警告灯と電装品が使用できます。

「III」の位置

スターター モーターが回ります。（エンジンをクランクします）

エンジンが始動したら（かかったら）すぐにキーを放してください（キーは自動的に「II」の位置に戻ります）。

 知識

- 「I」の位置で作動する電装機器はエンジンをクランクしている間は作動しません。
- オートマチック車は、始動前に「P」または「N」を選択する必要があります。

始動と運転

始動



アドバイス

- レンジローバーには触媒コンバーターが装備されています。触媒コンバーターは、不正な使い方をすると容易に損傷します。間違った燃料が使われた場合、または、エンジン ミスファイヤが発生した場合は特に、重大な損傷が起きる可能性が高いので、その場合は、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場にご相談ください。

エンジンを始動して運転を始める前に、この章に記されている内容を読み、その働きを理解しておいてください。

エンジンが始動しなかった場合、イグニッションを使用し続けると（クランクし続けると）、燃焼していない燃料が送られ触媒コンバーターが損傷する場合があります。

1. 駐車ブレーキを引き、シフト レバーが「N」または「P」になっていることを確認してください。
2. 不必要な電装機器のスイッチを切ってください。
3. イグニッション キーを挿入し、スイッチを「II」の位置にして更に「III」の位置に回すとスターター モーターが作動します(エンジンがクランクされます)。クランク中はアクセル ペダルを踏まず、エンジンが始動したらすぐキーを放してください。



アドバイス

- 高温時にはスターターを5秒以上回さないでください。エンジンが始動しない時は、スイッチを切り10秒以上待機してからスターターを使用してください。スターターを回す（エンジンをクランクする）には大量の電力を必要とします。スターターの連続使用はバッテリーを消耗し、モーター本体を損傷させる原因にもなりますので注意してください。
  気候が温暖な場合、バッテリー警告灯と油圧警告灯は、エンジンが回転すると同時に消灯します。

寒冷気候

非常に気温が低い場合はバッテリー警告灯と油圧警告灯が消灯するのに数秒間かかることがあります。同時に、エンジンのクランキングの時間も伸びます。－30℃ではエンジンが始動するまでに約30秒近くスターター モーターを使用しなければならない時があります。従って、不必要な電装品はすべて切っておくようにしてください。なお、極寒時には、シリンダー ブロック ヒーターを使用すると、エンジンの始動性が向上します。シリンダー ブロック ヒーターの購入と使用方法については、ランドローバー特約販売店にお尋ねください。

始動と運転

暖機運転

燃料の消費量を抑制するため、エンジンを始動したらすぐに走行を始めることをお勧めしますが、エンジンが通常走行温度に達する前に、急加速をしたりエンジンを空ふかしたり、過度な負荷をかけたりするとエンジンに損傷を与える可能性がありますので注意してください。

オートマチック車の特性

エンジンの始動後は、シフト レバーを「P」または「N」から他のレンジに移動するまでの間、駐車ブレーキまたはフットブレーキを掛け、アクセル ペダルを踏んでいないことを確認してください。そうでない場合、シフト レバーを他のレンジに移動するとすぐに動き出すためたいへん危険です。エンジンが冷えている間はアイドリング回転数が通常より高くなっているため特にご注意ください。

⚠ 警告

排気ガスには有毒物質が含まれており、人体には非常に危険です。

以下のことに十分注意してください。

- 排気ガスを吸い込まないでください。
- 換気の悪い場所や後部ドアを開けた状態でエンジンを始動したり、エンジンをかけたままにしないでください。
- テールゲートを開けたままで走行しないでください。
- 排気システムを元の設計状態から改造しないでください。
- 排気システムや排気ガスの漏れは速やかに修理してください。
- 車内で排気ガスの臭いがする時は、すぐに原因を調べて適切な処置をしてください。

駐 車

車を駐車する場合は、駐車ブレーキを必ず掛けて、ギア ポジションを「P」にしてからフットブレーキを放してエンジンを切ります。

エンジンの停止

イグニッション スイッチを「I」の位置にした後で「0」の位置に回してキーを抜きます。



アドバイス

- キーを抜く前に「P」を選択してください。

始動と運転

慣らし運転

適切な慣らし運転はお客様の車の生涯に渡る信頼性を高め、車の運転をなめらかにします。

特に、エンジン、ギアボックス、ブレーキ、タイヤには日々の運転を通じての慣らしが必要です。従って、はじめの800kmは以下の条件に従って慣らし運転を行ってください。

- 最高速度は80-100km/hに押さえてください。はじめにアクセルをあまり踏み込まずに（軽い踏み込みで）運転し、慣らし運転が終了してから徐々にエンジン回転数を上げるようにしてください。
- アクセルは全開にせず、全てのギアでエンジンに負担を掛けないようにしてください。
- 非常時を除いて急発進、急ブレーキを行わないでください。

排気ガス浄化装置

ランドローバーの車両には地球環境を汚さないために排気ガス浄化装置が取り付けられています。多くの国で、法律に反して排気ガス浄化装置を取り外したり、チューニングショップ等で違法な部品に交換する人が存在します。このような場合には、車の所有者やメカニックは法によって罰せられます。非常に重要なこととして、排気ガス浄化装置の性能を維持するために、整備は必ずランドローバーの特約販売店にて行ってください。

燃費

燃費は以下の大きな要素によって影響されます。

- 車の維持の状態
- 車の運転方法

最適な燃費を得るために、メンテナンス ノートの整備スケジュールに沿って点検・整備を行ってください。オートマチック車は、「HIGH」レンジでギアを「D」（ただし、スポーツ モードではない状態）にして走行することによって良好な燃費を得ることができます。



エア クリーナー エレメント、タイヤの空気圧、ホイール アライメント等は燃費に対して多大な影響を与えます。しかし、何よりも運転のしかたがいちばん重要であり、次に述べる項目を順守されればさらに燃費を良くすることに役立ちます。

- 不要な短距離の運転、発進／停止の多い運転はできるだけ避けましょう。
- 急発進は避けて、ゆっくりと円滑な発進を心がけましょう。
- 必要以上に低いギアで走行しないようにしましょう。
- ゆっくりと減速するようにして、できるだけ急ブレーキは避けましょう。
- 充分事前に障害物などを予測し、前方の状況によって速度を調整しましょう。

重要な運転情報

計器類と警告灯

運転する前に、第2章に記した計器類と警告灯の働きについて理解しておいてください。



- 赤の警告灯は特に重要であり、故障が存在することを示します。赤い警告灯が点灯した場合は、必ず運転を停止して、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場による点検を受けてください。

車両の安定性

レンジローバーは最低地上高が高いため、通常の乗用車に比べて重心が高くなります。その結果、ハンドリング特性が異なります。経験の少ないドライバーの方はより一層の注意が必要です。特に、オフロードを運転する場合や、路面抵抗の低い場所では、予測できない挙動（運転、操作、判断、行動等）をする場合がありますので、速度やステアリング操作には十分注意してください。

始動と運転

レンジローバーの車高は通常の車より高くなっています（アクセス用の車高でも同様です）。高さの低い場所を走行する場合は必ず車高（ルーフ）との間隔が十分にあることを確認してください。特にサンルーフを開いているか、ルーフ ラックを取り付けている場合は注意してください。

パワー ステアリング

油圧パワー ステアリングは「センター フィール（CENTER FEEL)」特性を備え、高速時や横風を受けた際の直進安定性を向上させます。

パワー アシストはステアリングを切った量に比例して漸進的に与えられます。例えば、マニュアル ステアリングで最大の力が必要な時（低速時の据えきり時）、最大のパワー アシストが行われます。同様に、マニュアル ステアリングではほとんど力を必要としない時（高速時の直進時）、アシスト量は最小になり、そのためにドライバーにとって最適なフィーリングを得ることができます。

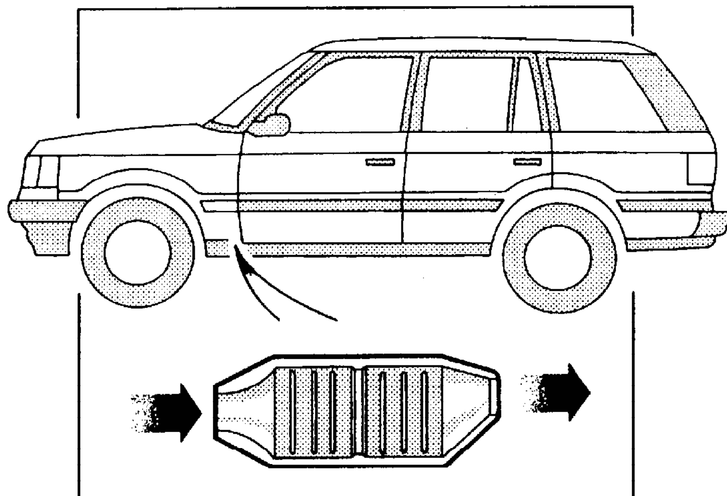
知識

- パワー アシストはエンジンが掛かっている時のみ作動します。エンジンが掛かっていない時は、ステアリング操作には大きな力が必要になります。

アドバイス

- 片側のタイヤ ホイールしか使われないフリーローラーのような補助装置は使用しないでください。ディファレンシャル ギアの故障の原因になります。損傷を防ごうとしてギアボックスのディファレンシャル ロックをかけると、車は発進してしまい危険です。

触媒コンバーター



P0177

触媒コンバーター

大気汚染の防止のため、排気システムには触媒コンバーターが装備されていて、エンジンの排気ガスから有毒物質を減少させて環境にできるかぎり害を与えないようにします。

 アドバイス

- 触媒コンバーターは誤った燃料を使用するなどの誤使用によって簡単に損傷します。推奨された燃料のみを使用するよう十分に注意を払ってください。

エンジンの始動

- エンジンが始動しなかった場合に続けて数回にわたってエンジンの始動を行わないようにしてください。燃焼していない燃料が排気装置に流れ込み、触媒に損傷を与えます。
- 寒冷時の始動の場合、ミスファイヤの疑いがある時は、運転を取りやめてランドローバー特約販売店による点検を受けてください。

触媒コンバーター

運転

- エンジンが通常の運転温度に達した際にミスファイヤの疑いがあり、運転中のエンジン パワーの低下を感じた場合は、低速で運転し（触媒の損傷を避けるため）ランドローバー特約販売店にご相談ください。
- エンジンの燃料切れを起こさないようにしてください（ミスファイヤによって触媒に損傷を与えます）。
- エンジン オイルが多すぎると、そのオイルが燃焼して排気管から青い煙が出ます。徐々に触媒コンバーターを痛め、性能が低下します。
- オフ ロード（凸凹道等）では、車の底部に強い衝撃を与えないようにして触媒の損傷を防いでください。
- エンジンに過負荷をかけ過ぎたり、または回転数を高くし過ぎないようにしてください。



- 排気システムの温度は非常に高くなっています。乾燥した草や葉が排気システムに接触するような場所では、車を操作したり駐車しないでください。乾燥している気候時には火事の原因になることがあります。

エンジンの停止

- 前進または後退ギアが選択されている時にエンジンを停止しないようにしてください。

メンテナンス

- エンジンのミスファイヤ、エンジンの性能低下またはエンジンの回転数の超過によって触媒に重大な損傷を与えることがあります。
  このような理由により、ランドローバー特約販売店のメカニック以外はエンジンの調整を行わないようにし、通常の定期点検整備を必ず受けるようにしてください。
- エンジンのスパーク プラグやプラグ コードを取り外したり、スパークプラグに他の装置を取り付けた状態でエンジンを始動しないでください。

燃料

燃料の条件

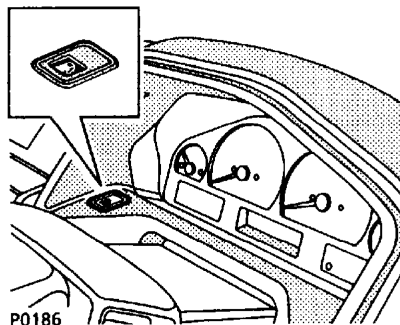
推奨された燃料のみを使用してください

一般にガソリン スタンドで知ることのできるガソリンのオクタン価（RON値）は、国によって様々に異なっています。推奨燃料のオクタン価は95RONで、無鉛ガソリンを使用してください。安全の為にはオクタン価が高い必要が有りますが、必要以上に高くてもそれによる（燃費や馬力等の）性能の向上はありません。

推奨されたオクタン価の燃料を使用してエンジンがひどくノッキングを起こす場合または、平坦地での通常の運転中にノッキングが続く場合はランドローバー特約販売店に相談してください。

 アドバイス

- 有鉛ガソリンを使用すると触媒コンバーターを損傷します。絶対に使用しないでください。
- 軽油等誤った燃料が補給された場合は、エンジンを始動する前にランドローバー特約販売店にご相談ください。



給油口カバー

給油口は車の右リア フェンダーにあります。図に示した給油口スイッチを押して、給油口フラップを開いてください。

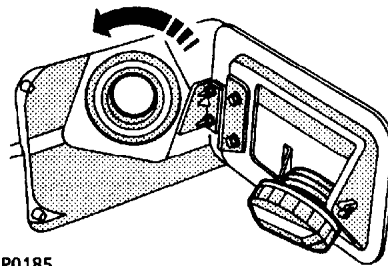
 知識

- 給油口スイッチはイグニッション スイッチが「0」または「I」の位置にある時のみ操作することができます。

燃料

⚠ 注意

- タンク内の空気圧が高すぎることによる燃料の吹きこぼれを避けるため、キャップは1回転半するように設計されています。圧力が抜けるまでキャップを完全には取り外さないでください。キャップを取り外したら、給油が終了するまでフラップ裏側のブラケットに置いてください。



給油

ガソリンスタンドの給油用のポンプには燃料の吹きこぼれを避けるために自動遮断センサーが装備されています。燃料の補充はノズルが自動的に燃料の供給を停止するところまでにして、追加は行わないようにしてください。追加しようとすると、タンクがあふれるか、吹きこぼれる場合があります。

ガソリン車は、無鉛ガソリンのみを使用するように設計されているため、燃料給油管は無鉛ガソリン専用の小径ノズルしか使用できないように設計されています。

⚠ 警告

- 外気温の高い時や直射日光の当たる場所で坂道に駐車するような場合、燃料をタンク一杯に補給しないようにしてください。膨張した燃料があふれ出す可能性があります。

燃料

空の燃料タンク

燃料が無くなるまで走行を続けないでください！

燃料タンクが空になることによってエンジンのミスファイヤが発生し、触媒コンバーターが損傷する場合があります。

万一燃料タンクが空になった後に燃料を補給する場合は、イグニッション スイッチを「II」の位置にしてください。4秒後、スイッチを切って再度スイッチを「II」の位置にして4秒以上経過した後にスターター モーターを始動してください。始動中はアクセルを踏まないようにして、エンジン始動後はすぐにキーを放してください。

⚠ 警告

● ガソリン スタンドでの安全

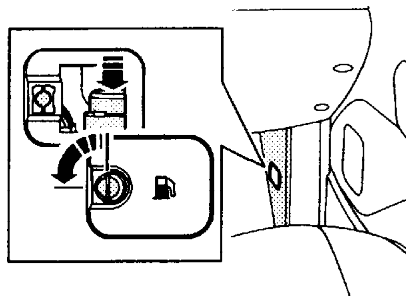
揮発したガソリンは引火しやすく、閉めきった所では爆発の危険さえあります。給油の時には必ず細心の予防措置をとってください。

- エンジンを止めてください。
- タバコを吸ったり、裸火やライトを使用しないでください。
- 燃料がこぼれないように気を付けてください。
- 燃料を入れすぎないように気を付けてください。

● 直射日光の当たる坂道や外気温が高い所に駐車する場合は、満タンにしないでください。燃料が膨張してあふれ出す恐れがあります。

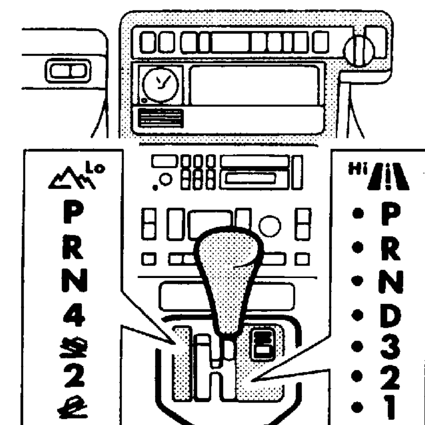
燃料カットオフ スイッチ

このスイッチの操作については「ロック」の項（P.44）を参照してください。

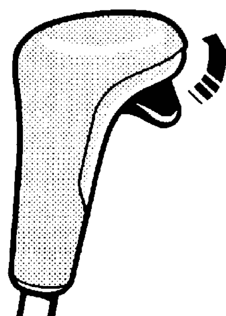


P0020

オートマチック ギアボックス



P0146


P0151

オートマチック ギアボックス

オートマチック ギアボックスにはHゲート シフトレバーが装備されています。これはメイン ギアボックスとトランスファー ギアボックスの働きを一体化したもので、左右に位置するハイ、ロー両方のギア シフトをすることができます。

ギア シフト レバー

ハイ レンジを選択する場合は、シフト レバーを「Hゲート」の運転席側に入れてください。同様に、ロー レンジを選択する場合は、レバーを「Hゲート」の助手席側に入れてください。「Hゲート」の照明は色によって2つのレンジを識別することができます。ハイ レンジが選択されている場合は緑、ロー レンジが選択されている場合は橙の照明が点灯します。

- 最初のスプリング圧力では、片側のレンジ内でのギア チェンジを可能にします。（ハイまたはロー レンジ）
- 2段目のスプリング圧力で、シフト レバーによってレンジの移動を行います（例：ハイからローへ）。

知識

- ハイレンジでの「D」から「3」へ、ローレンジでの「4」から「3」への選択はキャッチを押すことなく行うことができます。

オートマチック ギアボックス

ハイ レンジ

通常の路上走行またはオフロード走行の場合でも乾燥した平坦路を走行する場合は「HI」を使用してください。メッセージ センターは瞬間的に「HIGH」と表示し、すぐに選択されているギアを表示します（例：「3」）。



● 通常走行時は、ロー レンジにチェンジしないでください。

ロー レンジ

トレーラーけん引時の後退や河原の砂利道での走行の際に低速走行を行うためには、ロー レンジを選択してください。同様にオフロードでハイレンジによる走行が困難な場合もローレンジを使用することをお勧めします。

ロー レンジを選択すると、メッセージ センターは瞬間的に「LOW」と表示し、その後「L」に続いて選択されたギアを表示します（例：「L2」）。

ハイ /ロー レンジの切り替え時の警告

ハイ レンジとロー レンジを切り替えようとすると、警告音が鳴ります。切り替えを完了するまたはキャンセルすると警告音は止まります。

Hゲートの使用法



● ハイ、ローの間を相互に変更する際は、車を停止して行ってください。

● トランスファー ギアの切り替えは急激には行なわないでください。

● トランスファー ギアボックス警告灯の点滅が停止するまでシフト レバーを動かさないでください。

1. ブレーキを踏み、停車状態で「N」を選択します。
2. シフト レバーのハンドルに組み込まれたキャッチをいっぱいまで押して、レバーを「Hゲート」の中間に動かしてください。好みのレンジに達したら、「Hゲート」の照明およびトランスファー ギアボックス警告灯(計器パネル上)が点滅しはじめ、警告音が聞こえます。
3. 新しいレンジのギア シフト位置の照明が点灯し続け、トランスファー ギアボックス警告灯が消灯する(警告音が止まり、メッセージ センターにハイまたはローが表示される)まで待ってから、好みのレンジにシフトレバーを動かし、ブレーキを放してください。

オートマチック ギアボックス

トランスファー ギアの切り替えを行う時に車が動いている場合は、メッセージ センターに「SLOW DOWN」と表示され、警告音が鳴ります。

最初に「N」位置で照明の点滅と警告音が停止するのを待たずに、レンジを切り替えて、前進または後退ギアを選択すると、メッセージ センターに「SELECT NEUTRAL」と表示が出て、警告音が鳴ります。この場合は、もう一度「N」位置を選択して、レンジを切り替えてから好みのギアを選択してください。

知識

- けがやギアボックスへの損傷を防ぐためには、ブレーキ ペダルから足を放し運転を始める前にレンジの切り替えを完了しておくことが大切です。つまり、以下の条件を満足するまでは発進するのを待ってください。
  - ギア シフト位置の照明が連続して点灯している。
  - トランスファー ギアボックス警告灯が消灯した。
  - 警告音が止まった。
  - メッセージ センターが「HIGH」または「LOW」を表示した。

オートマチック ギアボックス

ギア ポジション（ハイ レンジ）

「P」パーク

このポジションが選択されると、トランスミッションがロックされて車の動きを停止します。駐車の時のみに選択してください。

「R」リバース

後退する時に選択します。車が停止している時のみ選択してください。



- 後退する場合は、エンジン速度はできるだけ低速にしてください。

「N」ニュートラル

このポジションは車が停止していて、エンジンがアイドリングしている時に短時間使用してください（例：信号待ち等）。

「D」ドライブ

良好な路面での通常の運転状況では「D」を選択します。車速とアクセルの位置に応じて自動的に適切なギアが選択されます。

「3」（1速、2速 、3速ギア）

1速から3速の間を自動変速します。

「2」（1速、2速ギア）

1速から2速の間を自動変速します。急勾配と狭い曲がりくねった道を走行する際に使用します。このポジションでは下り坂での強力なエンジン ブレーキをかけることができます。

「1」（1速ギアのみ）

非常に急な勾配と、けん引時、エンジン ブレーキを最大限に必要とする際に使用します。

オートマチック ギアボックス

知識

- 高速走行時にポジション「1」または「2」が「D」または「3」から選択された場合は、車速によって暫定的に3速ギアが採用されます。徐々に減速して車速が低くなると、2速または1速に自動的にシフトダウンします（高速走行下では「D」から急に2速または1速にダウンしません）。

⚠ 注意

- フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して、ききが悪くなる恐れがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。
- 駐車して車両から離れる場合には常に「P」の位置にしてください。
- ギアを「D」に入れたまま車両を止めている時には、必ずフットブレーキと駐車ブレーキをかけることを忘れないでください。

始動と発進

オートマチック ギアボックスの性能特性に不慣れな場合は、走行前に以下の説明事項をよく読んでください。

- エンジンを始動する前に、正しい運転姿勢をとり、右足でアクセル ペダルとブレーキ ペダルが確実に踏めることを確認します。
- フットブレーキと駐車ブレーキの両方が作動していること、ギアが「P」に入っていることを確認してからエンジンを始動してください。
- エンジンを始動させた後、シフトレバーを適切なドライブ ポジションに移動させる前および移動させている間は、両方のブレーキをかけたままにしておいてください。

知識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させる時にもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

オートマチック ギアボックス

- 発進準備ができるまで、ブレーキをかけておいてください。いったんドライブ ポジションを選択したら、オートマチック車は、前進あるいは後退（シフトが「R」の時）する特性（クリーピング）がありますのでご注意ください。
- 前進または後退のギアを選んでいる間、あるいは、すでにギアを選んで車を停止させている間、決してエンジンを吹かさないでください。「オートマチック車」は、アクセル ペダルを踏み込むと直ちに動き出しますのでご注意ください。

⚠ 注意

- アクセルペダルを踏んだまま、シフトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因となります。



アドバイス

- 前進している時にギアを「R」に入れないでください。逆に、後退している時に前進ギアに入れないでください。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。

急な坂道での発進

シフトレバーの位置を目で確認し、

- 駐車ブレーキをかけたままフット ブレーキペダルを放し、
- アクセルペダルをゆっくり踏んで、
- 車が動き出す感触を確認しながら、
- 駐車ブレーキを戻して発進してください。

走行

「D」で走行します。

加速方法

アクセルを踏み込みます。オートマチックギアボックスは、加速度を最大限にするために最適な比率に調整します。アクセルを放すと、走行速度に関係なく、エンジン回転が落ちます。

オートマチック ギアボックス

ハイ レンジでのギア チェンジ

車速とアクセルの位置に応じて適切なギアを選択します。アクセルを軽く踏んでいる場合は低速でギア チェンジをし、スロットルの開きを大きくすると高速になるまでギアチェンジを遅らせます（これによって加速性能が向上します）。

ギア チェンジは車速とアクセルの踏み方によって幅広い速度の範囲で行われます。

知識

● 勾配が長く続くと、ギアボックスがギア間を頻繁に動くというようなことが時々起こります。これは、特定の勾配や特定の積載環境にぴったりあったギア比がないためで、これは正常なことです。しかし、このような過度のギアチェンジは車の勢いを減少させ、燃料を浪費することにもなります。これは、低いギア比に制限する「3」または「2」のポジションを選ぶことによって防ぐことができます。

キックダウン

追い越しの為の加速を行うには、アクセル ペダルをいっぱいまで踏み込むとキックダウンが行われて素早い加速ができます。適切な速度まで加速を行うため、適切なギアへのシフトダウンが即座に行われて、素早い加速が行われます。ペダルを緩めると、車速とアクセル位置に見合った通常のギア チェンジが再び行われます。

オートマチック ギアボックス

モード スイッチ

ハイ レンジでは、モード スイッチを使用してスポーツ モードが選択できます。

ロー レンジでは、同じスイッチによってマニュアル モードが選択できます。

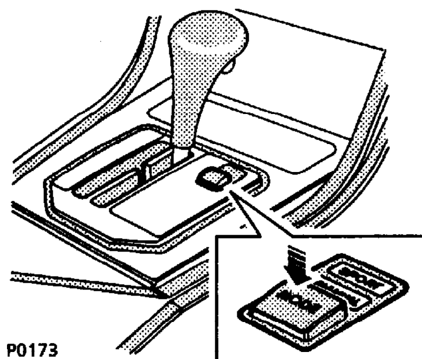
スイッチをもう一度押すと、ギアボックスは通常の作動に戻ります。

スポーツ モード

「スポーツ」モードでは、ギア チェンジのタイミングを遅らせ、エンジンに最大限のパワーを出させます。また、急加速が必要な場合、または長い坂道やワインディング ロードを走行する場合にこのモードを使用してください。

 知識

- スポーツ モードの使用は燃料を多く消費します。



P0173

スポーツ モードを選択するには、ハイ レンジに入っている時にモード スイッチを一度押します。（メッセージ センターには「S」と表示された後に選択されたギアが表示されます。例：「S3」）

マニュアル モード

ロー レンジが選択されている時にモード スイッチを押すと、マニュアル モードが選択されます。これによってトランスミッションをマニュアル ギアボックスのように使用することができ、より車をコントロールでき、強力なエンジンブレーキが使用できます。厳しいオフロードでの走行に適しています。（メッセージ センターには「LM」の後に選択されたギアが表示されます。例：「LM3」）

 知識

- ハイ/ローのレンジ切り替えにより、「スポーツ」と「マニュアル」のモードは自動的に解除されます。

修理のためのけん引

けん引される時は、4輪全てを接地して、トランスファーがニュートラルになっている必要があります（「緊急時のけん引」の項を参照してください）。

ブレーキ

フット ブレーキ

安全措置として、システムには2システム式油圧回路を採用しています。片方のシステムに故障が起きた場合でも、もう一方のシステムが作動を続けますが、ブレーキ ペダルのストロークが増加し、必要なペダルの踏力が大きくなり、制動距離が長くなります。

ブレーキ パッド

ブレーキ パッドにも慣らし（擦り合せ）の期間が必要です。

非常時を除いてはじめの800kmは急ブレーキは行わないようにしてください。

定期点検の際には、ブレーキ パッドの摩耗を点検し、定期的に交換して長期にわたる安全性と性能を維持してください。

 **警告**

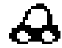
- 運転中にブレーキ ペダルに足を置いたままにしないでください。
  ブレーキが加熱して効率の低下と摩耗の原因になります。
- ブレーキの倍力装置が働いていないため、エンジンが回転していない時は、決して車を動かさないでください。ブレーキは作動していますが、更に圧力が必要となります。
- 走行中にイグニッション スイッチを「OFF」にするとブレーキの補助機能が停止するために危険です。ブレーキは作動していますが、更に圧力が必要です。
- エンジンを切ってけん引される際には特にご注意ください。
- 走行中にブレーキ警告灯が点灯した場合は、すぐに車を安全な場所へ止めてペダルのポンピングを続けないようにし、ランドローバー特約販売店による点検を受けるようにしてください。ブレーキ ペダルのポンピングを続けると、ブレーキの補助余圧が全くなくなってしまいます。

駐車ブレーキ

他の車と異なり、駐車ブレーキは車輪へではなく、後輪へのプロペラ シャフトに対して作用します。そのため、駐車ブレーキを掛けた後でも車がわずかに動くことがあります。

駐車ブレーキは、レバーを引き上げると掛かります。解除するには、少しレバーを引き、リリース ボタンを押しながらレバーを完全に下ろします。

ブレーキ

 アドバイス

- 車のコントロールを失ったり、トランスミッションが破損する可能性があるため、非常時を除き走行中は駐車ブレーキを掛けないようにしてください。
- 泥または水に浸かった場合には、駐車ブレーキの働きが完全でないことがあります（「オフロード走行」の項を参照してください）。

アンチ ロック ブレーキ システム（ABS）

アンチ ロック ブレーキ システム(ABS)は車輪のロックを起こさずに効果的なブレーキングを行うため、ドライバーへの安定性と操縦性を確保します。

⚠ 注意

- アンチロック ブレーキ システムで、路面状況の悪さや運転操作のミスまでは補えません。このシステムは、非常に短い距離で停止するといった限界に挑んだり、高速でコーナリングをしたり、路面の水膜で滑ったりする危険性を克服するためのものではありません。
- ドライバーには、天候や交通事情を十分に考慮しながら、慎重に、そして安全を維持できる枠内で運転する義務があります。
- ドライバーは、常に走行する路面の状態を把握し、ブレーキ ペダルを踏んだ時のペダルの反応がABS非装着車の場合と異なることを念頭の置いておいてください。

ABSには自己診断装置が取り付けられており、全ての電装装置の動作をエンジン始動時から運転中にわたって定期的に監視しています。

計器パネル上の警告灯は、このシステムの一部であり、ドライバーはこのシステムに注意を払い、完全にその機能を理解する必要があります。詳述は、この取扱説明書のセクション2「警告灯」に記載されています。

⚠ 注意

- 駐車ブレーキを解除した後、警告灯が消えるまでは運転を始めないようにしてください。運転中に警告灯が点滅を始めた場合は、システムに故障が発生しているか、リザーバーの液量が低下しています。この場合、ABSは作動しません。できるだけ早く車を安全な位置に止め、運転を続ける前にランドローバー特約販売店による点検を受けてください。

ブレーキ

ABSが作動した場合

通常の運転状況（十分な路面とのグリップが得られ、車が車輪のロックを起こしそうもない状態）では、ABSは作動しません。

しかし、ブレーキの力がタイヤと路面との間の摩擦力を上回った場合、ABSは自動的に作動し、ブレーキ ペダルにキックバックを感じてソレノイド バルブの作動によってABSがブレーキ圧を調整して車輪の回転を確保します。

この場合、ペダル ストロークが長くなる場合がありますが、ABSが制御を行っている間でもブレーキ力を調整することができます。

ブレーキを掛けている間、ブレーキ ペダルに振動を感じることでしょう。これはシステムがブレーキ圧を調整することによるものです。しかし、周期的な振動は車輪の下の荒れた路面状況によるもので、ドライバーに速度の路面に合った状態への調整を促すものです。

ABS の作動が止まると、最初のブレーキ ペダル ストロークが大きくなり、その後ペダルの踏み応えは、ABSの作動していない状態と同じになります。

⚠ 注意

- ブレーキ ペダルのポンピングを行うと、ABSの作動を妨げ制動距離が伸びるため、行わないようにしてください。
- ブレーキ ペダルの下には障害物を置かないようにして、ペダル ストロークを確保するようにしてください。（例：追加したフロア マット等）
- ブレーキ ペダルの反応がABSを装着していない車とは異なります。

追加情報

- 乾燥した路面で強いブレーキを掛けた時にABSが作動した場合、タイヤ ノイズと路面に若干のブラック マークが残ります。何れも故障ではありません。
- 非常に荒れた路面で軽くブレーキを踏んだ場合でもソレノイドの作動音が聞こえる場合かあります。これは通常のABSの動作の一部です。
- ペダル ストロークが伸びた場合でも、フル ブレーキングを行うことができます。踏みごたえを感じるまでペダルを踏みこんでから必要な強さでブレーキを掛けてください。しかし、できるだけ早く安全な場所に車を止め、運転を続ける前に点検を受けるようにしてください。

ブレーキ

- 新雪、砂、砂利の上などの柔らかい路面または荒れた路面では、ABS非装着車よりABS装着車の制動距離は長くなる場合があります。ABS装着車では、ロックしたホイールによって障害物がタイヤの前にたまりブレーキングを助けるためです（しかし、ABSはより良い安定性と操縦性を保ちます）。
- 急坂の摩擦の少ない路面に車を止めた場合、車輪がロックしたまま車が滑り出す場合がありますが、これはABSが車輪の回転信号を検知していないためにおこります。このような場合、一瞬ブレーキを緩め、わずかに車輪を回転させてもう一度ブレーキを掛けるとABS による制御が行われます。低速で坂を降りる必要が有る場合、ローレンジを選択することによって行うことができます（「オフロード走行」のセクションを参照してください）。

知識

- ABSはランドローバー純正部品を使用するように設計されていて、タイヤとホイールのサイズは「テクニカルデータ」の項に記載されています。システムの改造や純正以外の部品を使用した場合の動作についてはローバージャパンは保証致しかねます。常にランドローバー特約販売店にご相談ください。

トラクション コントロール（装着車のみ）

電子制御トラクション コントロール（装着車のみ）

電子制御トラクション コントロールの目的は、後輪がスピンしていても他の車輪がグリップをしている場合、例えば片側の車輪が氷の上にあり、もう片方が舗装路の上にある場合等に駆動力を得るために使用します。この装置は、片側のスピンしている車輪にブレーキを掛け、もう一方の車輪に駆動力を与えます。

知識

- トラクション コントロールは50km/h以下で作動します。

計器パネルにはトラクション コントロール警告灯があり、作動した場合にはトラクション コントロール関連のメッセージがメッセージ センターに表示されます。



警告灯はシステムが作動した時に最低2秒間点灯し、メッセージ センターには「TRACTION ON」のメッセージが表示されます。トラクション コントロールを長時間（1分以上）使用することは望ましくなく、コントロール ユニットは冷却を行うためにシステムを停止し、警告灯を最低10 秒点滅させて、メッセージ センターは「TRACTION OVERHEAT」と表示します。

システムが故障した場合は、警告灯が継続的に点灯し、メッセージ　センターに「TRACTION FAILURE」と表示されます。この場合、できるだけ早くランドローバー特約販売店にご相談ください。

クルーズ コントロール（装着車のみ）

⚠ 注意

- クルーズ コントロールは曲がった道や滑り易い路面、または定速走行が困難な状況では使用しないでください。
- クルーズ コントロール使用中は、アクセルペダルの下に足を置かないでください。足が挟まってしまうことがあります。
- クルーズ コントロールを必要としなくなった場合は、必ずメイン スイッチを切ってください。

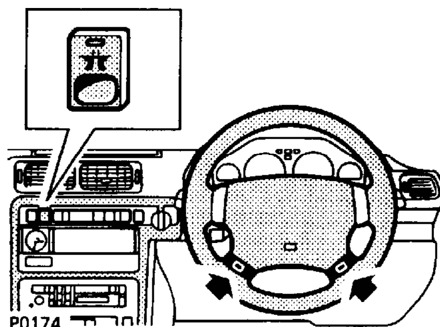

アドバイス

- スポーツ モードが選択されている場合は、周期的に頻繁な加速と変速が行われるため、クルーズ コントロールの使用はお薦めできません。

クルーズ コントロール（装着車のみ）

クルーズ コントロールを使用すると、アクセル ペダルを使用せずに一定の速度で走行することができます。これは、特に高速道路や長距離にわたって一定の速度が維持できる道路で有効です。

クルーズ コントロールには3つのスイッチがあります。フェイシアにあるメイン スイッチと、ステアリング ホイールに取り付けられている「SET+」と「RES」（図参照）です。



操作方法

1. メイン スイッチを押します（警告灯が点灯します）。
2. 希望の速度まで加速します。45km/h以上でなければなりません。
3. 「SET+」スイッチを押してクルーズ コントロールに速度を記憶させます。クルーズ コントロールはアクセルから足を放した場合でもこの速度を維持します。

クルーズ コントロールの作動中でも、一時的に加速が行えます。例えば、追い越し等の場合、通常のアクセル ペダルが使用できます。アクセルを放すと、速度はセットされた速度に復帰します。

クルーズ コントロール（装着車のみ）

巡航速度の変更 - 減速

ブレーキ ペダルを踏んで、希望の速度まで減速し、「SET+」スイッチを押すと新しい巡航速度が設定されます（クルーズ コントロールは45km/h以下では作動しません）。

「RES」スイッチを押すと、一時的にクルーズ コントロールが解除されて、ブレーキ ペダルを使用しなくても車は徐々に減速します。希望の速度になった場合、「SET+」スイッチを押して新しい定速走行速度を設定します。

巡航速度の変更 - 加速

「SET+」スイッチを押し続けると、車は自動的に加速します。希望の速度に達した場合、スイッチを放してください。

また、「SET+」スイッチを軽く押すと設定速度は徐々に上昇します。5回軽く押すと約8km/h上昇します。

クルーズ コントロールの解除

クルーズ コントロールはブレーキ ペダルを踏むか、ギアをニュートラルにすると自動的に解除されます。

「RES」スイッチを軽く押すとクルーズ コントロールを解除し、車は徐々に減速します。必要に応じて「RES」スイッチを押すとクルーズ コントロールは設定された速度に復帰します。

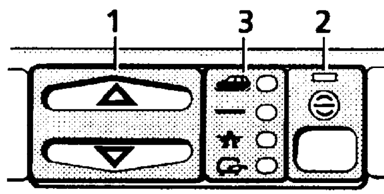
知識

- クルーズ コントロールに記憶された速度はメイン スイッチを切るか、イグニッション スイッチを「OFF」にすると消去されます。
- クルーズ コントロールは速度が設定速度の75パーセント以下に下がった場合は自動的に解除されます（これは登り坂でのけん引時に起こる場合があります）。

電子制御エア サスペンション

レンジ ローバーには電子制御エア サスペンションが装着されていて、これによってアクセス用車高を含めた5種類の車高を選択することができます。これらは全高と最低地上高を運転状況に応じて選択することができます。

電子制御エア サスペンションには自動車高調整が取り付けられています。



電子制御エアサスペンションを操作する前に

以下の場合は、車高調整を選択しても、車高が変化しませんので注意してください。

- テールゲートまたはドアが開いている時。
- ブレーキ ペダルを3分未満継続して踏んでいる間。
- エンジンが回転していない場合(エンジンを切った後40秒以内にアクセス モードを選択した場合を除く)

アクセス モードを使用する場合、駐車ブレーキを掛け、「P」を選択している必要があります。

 アドバイス

- 頻繁に車高を変えるとコンプレッサーのオーバーヒートを招きます。その場合、エア サスペンションの作動は数分待ち、コンプレッサーが冷えてから再度操作を行ってください。

操作方法

車高調整スイッチ(1)

上または下の矢印の記されたスイッチを押すと、車高は上下の設定された位置へ調整されます（警告灯が点灯します）。

抑制スイッチ(2)

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、スイッチ内の表示灯が点灯して電球の点検を行います。

- スイッチを押して抑制モードにしてください(表示灯が点灯します)。これによって標準またはロー モードの車高への調整を抑制します。
- もう一度スイッチを押すと「OFF」になります。

電子制御エア サスペンション

知識

- 抑制モードであっても、車高はアクセス／クロール モードからロー モードへ、エクステンド モードまたはハイ モードからハイまたは標準モードへ自動的に切り替わります。

車高表示パネル(3)

イグニッション スイッチが「II」の位置にされると全ての警告灯が点灯して電球の点検を行い、エンジンが始動されるまで点灯を続けます。

各警告灯は車高のセッティングが行われると点灯します。車高が変更された場合、警告灯は以下の順序で点灯します。

- 車高表示灯が点滅します。
- 選択された車高になると、表示灯は点滅を止めて点灯を続けます（前に選択された表示灯は消灯します）。

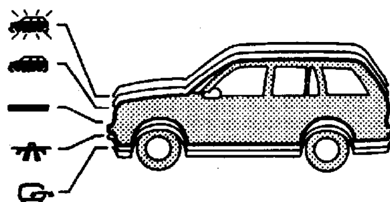
エア サスペンション警告灯



イグニッション スイッチを「ON」にすると、計器パネルの警告灯が点灯して電球の点検を行い、エンジンが始動した後2秒間点灯を続けます。

加えて、走行中に「High」または「Extended」が選択された場合、または故障が起きた時に点灯します。

車高の調整



標準モード



ほとんどの運転状況とけん引に適しています（「電子制御エア サスペンションを使用したけん引」の項を参照してください）。

ハイ モード



標準より約40mm高い車高です。オフロードでの進入角度を大きくする場合や水路走行に適しています。

55km/h以下で手動によって選択できます。この速度を超えると、自動的に標準モードに復帰します。

電子制御エア サスペンション

知識

- 車高が調整されるとエア サスペンション警告灯が点灯します。

注意

- ハイ モードは高速走行時に選択しないでください。

ロー モード



標準モードより25mm低い車高です。速度が80km/hを超える走行が30秒以上続いた場合に自動的に選択されます。

このセッティングは車の重心を下げることによって操縦性を向上します。速度が55km/hを下回る走行が30秒以上続いた場合に自動的に標準モードに復帰します。抑制モードが選択されている場合は、車速に関わらずロー モードを選択することができます。

アクセス／クロール モード

アクセス モード



標準モードより約65mm低い車高で、乗り降りや荷物の積み降ろしを容易にします。アクセス モードはエンジンが掛かっているか、停止後40秒の間に以下の状態の場合に選択することができます。

- 車が停止している時。
- ギアの「P」を選択し、駐車ブレーキを掛けている時。
- ドア、テールゲートが閉じられている時。
- フットブレーキを掛けていない時。

アクセス モードはエンジンが停止する40秒前に事前に選択することができます。しかし、車を止め駐車ブレーキをかけ、シフト レバーを「P(パーク)」位置にしてフット ブレーキのペダルを放すまで、車高は下がりはじめません。40秒以上経過すると、事前設定は自動的に解除されます。

電子制御エア サスペンション

知識

- 車高調整を行っている間にドア、テールゲートを開けるか、フットブレーキを掛けた場合は調整は停止します。

車が停止した時、車高は自動的に標準モードに復帰します（アクセス モードが選択される前であり、抑制モードであればロー モードも選択できます）。

アクセス モードの後に抑制モードを選択した場合クロール モードが選択されます（「クロール モード」の項目を参照してください）。

アドバイス

- 高さ制限のされている場所で荷物を下ろす場合にはご注意ください。
- イグニッション スイッチを「OFF」にして、ドアまたはテールゲートを開閉すると自動的に元の車高に戻ります。
- 荷物を下ろした後は、車高は高くなります。

クロール モード

高さの限られた場所での走行の必要がある場合は、クロール モードを以下の手順で選択することができます。

- アクセス モードを選択します。
- 抑制モードが既に選択されている場合は、抑制スイッチを押して解除します（警告灯は消灯します）。
- 抑制スイッチを押します（警告灯が点灯します）。
- メッセージ センターは警告音を鳴らして「EAS MANUAL」と表示します。

知識

- クロール モードでの走行中は：
  - 車速が16km/hを超えた場合、メッセージ センターは警告音を鳴らして、「SLOW:30KPH MAX」と表示します。
  - 車速が40km/hを超えた場合、車高は自動的にロー モードに切り替わります。
  - 車速が32km/hより低くなった場合は、サスペンションはクロール モードに切り替わります。
  - 車速が8km/hより低くなった場合は、メッセージ センターは警告音を鳴らしてディスプレイに「EAS MANUAL」と表示します。
- クロール モードになっている時にエンジン スイッチが切られた場合、車は再始動時にアクセス モードに復帰します。クロール モードにする場合はもう一度選択してください。

電子制御エア サスペンション

エクステンド モード



標準より約70mm高い車高です。エクステンド モードはシャシーが接地することによって車両が停止した場合に自動的に選択されます。手動による選択はできません(ハイ モードの警告灯が点滅した後、点灯します)。

エクステンド モードは約10分間継続した後、自動的にハイ モードに復帰するか、他の車高が車高調整スイッチによって選択されることによって解除されます。

電子制御エア サスペンションのメッセージ

以下のメッセージがメッセージ センターに表示されることがあります。表示されたメッセージの指示に従ってください。

メッセージ	メッセージの意味	解決方法
「EAS MANUAL」	車高がアクセス モードに固定されています。	警告です。くぼみでの走行が行われていますので、抑制スイッチを押してアクセスモードを解除してください。
「SLOW: 30 KPH MAX」	現在の車高では車速が高すぎます。	30km/h未満に減速してください。
「EAS FAULT」	エア サスペンションの故障です。	ランドローバー特約販売店にご相談ください。
「SLOW: 55 KPH MAX」	エア サスペンションの故障です。	車速を55km/h未満に下げ、メカニックによる点検を受けてください。

電子制御エア サスペンションの機能(抑制スイッチ OFF)

車高を下げる

エクステンド モードからハイ モードへの切り替えは、10分経過するか、車高調整スイッチの下矢印を1回押すと行われます。

エクステンド モードから標準モードへの切り替えは、車速が55km/h以下になるか、下矢印のスイッチを2回押すと行われます。

ハイ モードから標準モードへの切り替えは、車速が55km/h以下になるか、下矢印のスイッチを1回押すと行われます(車速が55km/h以下の場合)。

電子制御エア サスペンション

標準モードからロー モードへの切り替えは、80km/h以上の車速が30秒以上続くと行われます。

標準モードからアクセス モードへの切り替えは、下矢印のスイッチを1回押すと行われます（アクセス モードの説明を参照してください）。

車高を上げる

ロー モードから標準モードへの切り替えは、30秒以上車速が55km/h以下になるか、停車している時に車高調整スイッチの上矢印スイッチを押すと行われます。

アクセス モードから標準モードへの切り替えは、車を発進させるか、停止している時に上矢印スイッチを1回押すか、オートマチック ギア シフト レバーを「P」の位置以外にして、駐車ブレーキを解除した場合に行われます。

標準モードからハイ モードへの切り替えは55km/h以下で上矢印スイッチを1回押すと行われます。

電子制御エア サスペンションの機能（抑制スイッチ ON）

(警告灯が点灯しています)

車高を下げる

エクステンド モードからハイ モードへの切り替えは、10分経過するか、車高調整スイッチの下矢印を1回押すと行われます。

エクステンド モードから標準モードへの切り替えは、車速が55km/h以下になるか、下矢印のスイッチを2回押すと行われます。

ハイ モードから標準モードへの切り替えは、車速が55km/h以下になるか、下矢印のスイッチを1回押すと行われます。

標準モードからアクセス モードへの切り替えは、下矢印スイッチを2回押すと行われます。

標準モードからロー モードへの切り替えは、下矢印スイッチを1回押すと行われます。

ロー モードからアクセス モードへの切り替えは、下矢印スイッチを1回押すと行われます。

車高を上げる

アクセス モードからロー モード(クロール モードでなく)への切り替えは、停車状態から発車するか、上矢印のスイッチを1回押してください。

ロー モードから標準 モードへの切り替えは、上矢印スイッチを1回押すと行われます。

標準モードからハイ モードへの切り替えは55km/h以下で上矢印ボタンを1回押すと行われます。

電子制御エア サスペンション

電子制御エア サスペンションを使用したけん引（他車を引張る）

けん引時は、以下の手順によって車高を標準モードに固定することをお勧めします。

- 抑制スイッチを押します（警告灯が点灯します）。
- 標準モードを選択します（前述）。

故障診断

自己診断装置が小さな故障を発見した場合、標準モードが自動的に選択されます。故障が修理されるまで、車高調整機能を使用することはできません。メッセージ センターは警告音を鳴らし、「EAS FAULT」 と表示します。全てのエア サスペンション警告灯が同時に30秒間点滅し、ハイ モード警告灯が続けて点灯します。

重大な故障が発見された場合、車高はアクセス モードに下がり、メッセージ センターは警告音を鳴らし、「SLOW:55 KPH MAX」と表示します。

他の故障が発生した場合、警告灯は再び点滅します。



アドバイス

- 故障の種類を問わず、できるだけ早くランドローバー特約販売店によって点検を受けてください。ランドローバーの特約販売店だけが正確に故障を修理することができます。



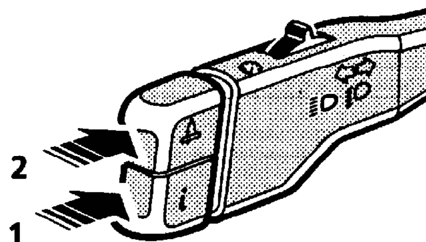
知識

- 小さな故障の場合、一度エンジンを切り、再始動をしてもう一度確認してください。「EAS FAULT」メッセージが表示された場合、エンジンを切り、全てのドアとテールゲートを2分以上閉めて、エンジンを再始動します。
  故障が表示されなくなった場合、通常の動作に復帰しています。しかし、故障の内容はコンピューターに記録され、ランドローバー特約販売店によって調べることができます。

トリップ コンピューターと速度超過警告

トリップ　コンピューターは、ドライバーに燃費や旅行時間と距離などの様々な情報を提供します。

2個の押しボタン（図参照）でトリップ コンピューターと速度超過警告を操作し、トリップ コンピューターと速度超過警告からのメッセージはメッセージ センターに表示されます。



P0192

知識

- メッセージ センターは車両監視システムからのメッセージを再優先に表示します。トリップ コンピューターのメッセージは優先順位が低いため、重要な情報を含む警告メッセージが発生すると、即時に表示が入替わります。
  トリップ コンピューターと速度超過警告のメッセージは他のメッセージが表示されなくなると復帰します。

トリップ コンピューター（装着車のみ）

イグニッション スイッチを「II」の位置にし、スイッチ(1)を押すとトリップ コンピューターの機能が切り替わります。順序は以下の通りです。

- 残燃料による走行可能距離
- 平均燃費
- 平均速度
- 走行距離2
- 走行距離1

知識

- 最初に表示されているのは、走行距離1です。

トリップ コンピューターと速度超過警告

残燃料による走行可能距離

この機能は自動的に残った燃料によって走行できる距離を計算し、表示します。メッセージ センターには「RANGE - - -」と表示されます。

計算された走行可能距離が約80km以内になると、メッセージ センターは「REFUEL, RANGE <80」と表示して、できるだけ早い給油を促します。

知識

- 残燃料による走行可能距離が80km～90kmの間に距離の再計算が行われた場合は、走行距離は表示しますが給油を促すメッセージは表示されません。燃料切れに注意してください。

平均燃費

この機能は最後にトリップ メーターをリセットした位置からの平均燃費を自動的に計算し、表示します（平均燃費は走行した距離を使用した燃料の量で割ることによって計算されます）。

システムが平均燃費を計算している間は、ディスプレイに「COMPUTING L/100K」と表示されます。一度計算が行われると、「AVG. L/100KM」メッセージが表示され、3桁の燃費がリッターで表示されます。

知識

- 表示される燃費は約6秒間で100kmあたり0.1リッター以上の燃料が消費されないと変化しません。100kmあたり0～99.9リッターの範囲で表示されます。

平均速度

この機能は最後にトリップ メーターをリセットした位置からの平均速度を自動的に計算し、表示します（平均速度は走行した距離をイグニションスイッチが「ON」の時に経過した時間で割ることによって計算されます）。

システムが平均速度を計算している間は、ディスプレイに「COMPUTING KM/H」と表示されます。一度計算が行われると、「AVG. SPEED」の表示に続いて平均速度が3桁で表示されます。

知識

- 平均速度の表示は1秒間に1km/h の変化があった場合に変更されます。

トリップ コンピューターと速度超過警告

走行距離 2

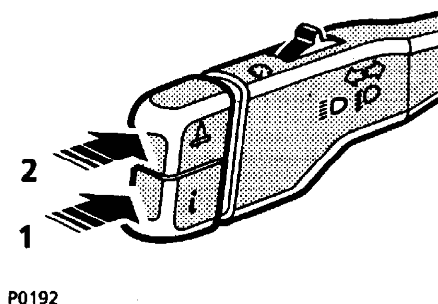
この機能によって記録された距離は、平均燃費と平均速度の計算に使用され、最後にコンピューターがリセットされた位置からの距離を表示します。メッセージ センターには「TRIP2- - -」と表示されます。

走行距離 1

これは通常の車に取り付けられているものと同様に、最後にリセットボタン（計器パネル右側）が押された位置からの距離を表示します。ボタンを押すと、距離は0に戻ります。メッセージ センターに車両監視システムからのメッセージやトリップ コンピューターのメッセージが表示されている場合でも、リセット ボタンにより走行距離の表示に変えることができます。ただし、メッセージ センターには距離のみが表示され、「TRIP1- - -」とは表示されません。

トリップ コンピューターのリセット

イグニッション スイッチを「II」位置にセットし、スイッチ1を2秒以上押し続けてください。



- 「走行可能距離」機能と「平均燃費」機能の両方がリセットされます。この時点から約1km走行する間、ディスプレイには「C O M P U T I N G RANGE」および「COMPUTING L/100K」と表示されます。その後、コンピューターは再び平均燃費の計算可能な状態に戻ります。
- 「平均速度」機能もリセットされます。平均速度が計算可能になる走行距離が1kmに達しないうちは、ディスプレイには「COMPUTING KM/H」と表示されます。その後、平均速度が表示されます。
- 走行距離2機能はゼロにリセットされます。

知識

- トリップ コンピューターをリセットしても、走行距離1機能には影響しません。

トリップ コンピューターと速度超過警告

速度超過警告

速度超過警告機能は、制限速度を守っていただくための機能です。この機能を選択するには、スイッチ2（ベル記号）を押してください。制限速度を設定するには、スイッチを1〜2回押してディスプレイに「SPEED LIMIT- - -」と表示させ、ディスプレイの速度表示が目的の値になるまでスイッチを押し続けます（速度表示は、20km/h〜140km/hの範囲で5kmごとに増加します）。

知識

- ディスプレイの表示値は、前回システム メモリーに記憶されていた値からスタートします。ディスプレイに目的の速度が表示されたら、スイッチを放してください。その時の速度がシステム メモリーに記憶されます。

走行中、設定速度を超過した時は、メッセージ センターに「SPEED LIMIT - - -」と表示され、警報が鳴ります。

設定した速度をキャンセルする場合は、スイッチ2 を再度押してください(「SPEED LIMIT OFF」とメッセージが表示されます)。

緊急時の始動

バッテリー上がり時のエンジン始動

バッテリー上がり時にエンジンをかける唯一の方法は、次のとおりです。

- 代わりのバッテリーと交換して始動する。
- ブースター ケーブルを使用して、救援車のバッテリーと故障車のバッテリーとを接続する。

 アドバイス

- オートマチック車の場合、後ろから押したり、けん引することによってエンジンを始動させることはできません。

ブースター ケーブルの使用

 警告

- バッテリーからは可燃性水素ガスが発生しますので、火花や火気をエンジン ルームに近づけないでください。
- バッテリー液が凍結していると思われる場合は、ブースター ケーブルを使っての始動は行なわないでください。
- 双方のバッテリーの電圧が同じ（12V）こと、およびブースター ケーブルが絶縁クランプ付きで、しかも12Vバッテリー専用であることを確認してください（太目のケーブルが望ましい）。
- 放電したバッテリーの接続を外さないでください。
- プラス端子(+)とマイナス端子(-)を絶対に直結しないでください。ブースター ケーブルがエンジン ルーム内の可動部品から離れていることを確認してください。
- エンジンの回転部品の近くでの作業には、十分ご注意ください。

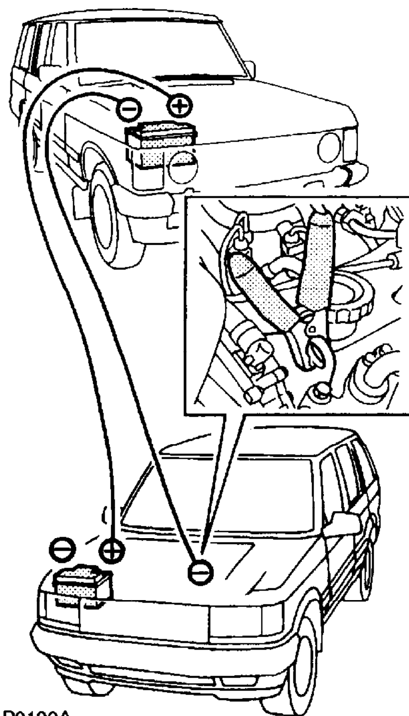
緊急時の始動

救援車のバッテリーを利用する場合には、バッテリー同士が互いに接近するように双方の車を停車してください。

双方の車が接触しないようにしてください。

双方の車の駐車ブレーキをかけ、ギアを駐車ポジションの「P」位置に入れます。

双方の車のイグニッション スイッチとすべての電装品の電源スイッチをオフにします。



P0190A

ブースター ケーブルの使用時は、次の手順に従ってください。

赤いブースター ケーブルの一方のクリップを放電したバッテリーのプラス端子(＋)につなぎ、反対側のクリップを救援車のバッテリーのプラス端子(＋)につなぎます。

救援車のバッテリーのマイナス(－)端子から適当なアース ポイント(例えば、エンジン マウントまたは塗装していない面)に黒いブースター ケーブルを接続してください。なお、この時バッテリーからアースまでは最低0.5メートルの間隔があり、ブースター ケーブルがバッテリー上がりを起こした車の燃料またはブレーキ システムのホース類(図示エンジン リフト リング)に近づかないように注意してください。

⚠ 注意

- 安全上の理由により、このケーブルを放電したバッテリーのマイナス端子(－)につながないでください。

2本のブースター ケーブルが双方の車のエンジン ルーム内の可動部品から離れていることを確認してから、救援車のエンジンを始動し、数分間アイドリングしてください。

故障車のエンジンを始動してください。

両方のエンジンが正常に始動したら、2分間アリドリングした後、救援車のエンジンを切ってください。ブースター ケーブルを完全に取り外すまでは、バッテリー上がりを起こした車のいかなる電装品の電源スイッチも入れないでください。

ブースター ケーブルを取り外す順序は、接続した時の逆の手順を正確に行ってください。まずバッテリー上がりを起こした車のアース ポイントから黒いケーブルの接続を外してください。

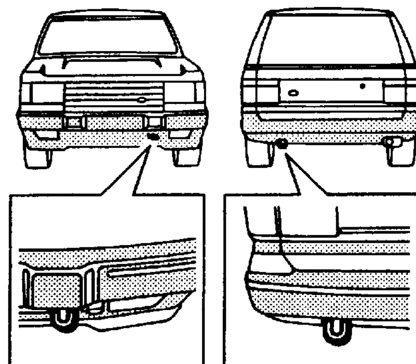
緊急時のけん引

フロント ロープ取り付け部（トーイング アイ）

4 輪を接地してけん引してもらう場合に使用します（「4輪を接地してけん引される時」の項を参照してください）。

リア ロープ取り付け部（リア トーイング アイ）

他の車をけん引する場合に使用します。



P0132

4輪を接地してけん引される時

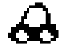
4 輪を接地してけん引される場合には、次の手順でトランスファーのニュートラルを選択してください。

- イグニッション キーを抜いた状態で、右側座席のヒューズ ボックスのポジション11の中にヒューズ（5アンペア以上）を入れます。キーを差し込み、イグニッション スイッチをオンにします。トランスファーは自動的にニュートラルになります（メッセージ センターに「TRANSFER NEUTRAL」が表示されるまでお待ちください）。メッセージが表示されたら、イグニッション スイッチをオフにします。
- イグニッション スイッチを「I」位置にセットして、ステアリング ロックを解除します。車がけん引されている間はこの位置にしておきます。
- けん引後にハイまたはロー レンジに再度入れる場合は、イグニッション スイッチを切って、ポジション11からヒューズを取り外した後に、イグニッション スイッチをオンにして、トランスファー ボックスはハイまたはロー レンジに入ります。

⚠ 注意

- 事故または電気的な故障によってはイグニッション スイッチを回すことが危険な場合がありますので、必ずバッテリーの接続を外してください。

緊急時のけん引



アドバイス

- イグニッション スイッチが「I」位置にセットされ、ステアリング ロックが解除されている時以外は、車をけん引しないでください。
- 車の移動中は、イグニッション キーを抜いたり、イグニッション スイッチを「0」位置にセットしたりしないでください。



知識

- エンジンが止まっている時は、パワー ステアリングとブレーキ倍力装置は作動しません。この時、ブレーキ ペダルとステアリング ホイールは大変重くなりますので、十分注意して車をコントロールしてください。

2輪を接地してけん引される時（2輪を浮かせてけん引される時）

2輪を接地してけん引される場合には、次の手順を守ってください。

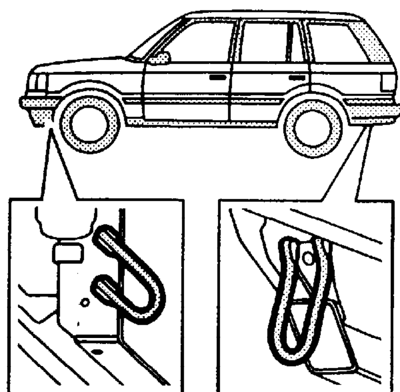
接地する側の軸からプロペラ シャフトを取り外します。

プロペラ シャフト フランジとシャフトを取り外す前に、印を付けてください（後で元の位置へ正しく取り付けられるよう）。損傷を防ぐために、つり上げたプロペラ シャフトをしっかりと固定してください。



アドバイス

- 後軸を上げてけん引される時は、ステアリング ホイールまたはリンケージは、直進状態で固定してください（ただし、このためにステアリング ロックを使用しないでください）。これを確認してから、車をけん引トラックに連結してください。



P0133

トランスポーター（運搬車、列車等）またはトレーラーによる回送

トランスポータやトレーラーに載せて車を運ぶ時は、前もって電子制御エア サスペンションを「ACCESS」位置にセットしてください（「電子制御エア サスペンション」をご覧ください)。フロントとリアのシャシー部にあるラッシング アイ（ロープ取り付け部）を使用して車両を固定してください（図示)。車の他の部分には、固定するためのフックやトレーラーの装備をつながないでください。

エア サスペンションを「ACCESS」位置にセットできない時は、上記のようにラッシング アイ（ロープ取り付け部）を使って車両を固定することはできません。その場合は各ホイールを固定して車両を動かないようにしてください。

第４章　車のメンテナンス

目　次　ページ

車の安全性、信頼性、性能をいつまでも維持するためには、如何に良いメンテナンスを行うかがたいへん重要です。

メンテナンスはドライバーご自身の責任において行なってください。ランドローバー特約販売店で規定の定期点検整備、調整を受けることが大切です。メンテナンスについては、メンテナンス ノートに記載されています。メンテナンス ノートには専用の整備記録簿が添付されています。この用紙には、整備のたびにランドローバーのサービス工場によって整備内容が記入されます。

この章では、安心して信頼できる車に乗っていただくために必要な毎日、毎週、毎月の点検について説明します。

車のメンテナンス

お客様自身で行うメンテナンス

メンテナンス ノートに記載された、ランドローバー特約販売店で行なう規定の定期点検整備、調整の他に、下記のような簡単な点検はお客様自身で日常的に行なってください。以下、点検内容を詳しく説明します。

毎日の点検

- ランプ、ホーン、方向指示器、ワイパー、ウォッシャー、警告灯の作動
- シート ベルトおよびブレーキの作動
- ガレージの床に液、オイル漏れがないかどうかの点検

毎週の点検

少なくとも400km毎に実施してください。

- エンジン オイルのレベル
- エンジン冷却水のレベル
- ウィンドウ ウォッシャー液のレベル
- タイヤの状態と空気圧

毎月の点検

- バッテリー液のレベル
- パワー ステアリング液のレベル
- オートマチック ギアボックス液のレベル


アドバイス

- 液のレベルが著しくまたは突然低下したり、またはタイヤの摩耗が均等でない場合は、すぐにランドローバー特約販売店または指定サービス工場にご連絡ください。


知識

- 液、オイルの仕様および容量は、「テクニカルデータ」に記載されています。

車のメンテナンス

知識

特殊な状況下（シビア コンディション）での走行

● 埃っぽい所、湿気が多い所、泥炭地等の過酷な条件下で車を使用している場合は、整備が必要かどうか、より頻繁に注意していなければなりません。
例えば、深い川等水の中に入った場合は、安全で信頼のおける状態を持続するため、毎日でも整備が必要になる場合があります。ランドローバー特約販売店にご相談ください。

定期点検整備

定められた点検は、車の信頼性と性能を維持するために重要です。定期点検整備の詳細は、メンテナンス ノートに記載されています。工場で行うべき専門的な点検整備では、専門の知識や設備が必要となりますので、ランドローバー特約販売店にお任せください。

排出ガス規制

この車には、日本の規制を満足するために設計された、各種の排出ガス浄化装置を装備しています。

ドライバーご自身または修理工場によって許可なく本装置を非純正部品と交換したり、改造したりすることは非合法であり、法的な罰則の対象となります。

さらに、エンジンの設定は変更しないでください。この車のエンジンの設定は、主要な排出ガス規制に適合するように調整済みです。エンジンの設定が正しくないと、排気ガス、エンジン性能、燃料消費に悪影響を与えます。またエンジンの温度が上がり、触媒コンバーターと車の故障の原因となります。

ダイナモメーター上での走行試験（ローリング テスト）

アドバイス

● お客様の車は、アンチロック ブレーキとフルタイム4WDを装備しておりますのでランドローバー特約販売店において、ダイナモメーターの安全なテスト方法に詳しい整備士にのみダイナモメーター テストを行ってもらうことが必要です。詳細は、ランドローバー特約販売店にお問い合わせください。

車のメンテナンス

ステアリング

ステアリング コラムをステアリング ボックスに接続するインターミディエイト ステアリング シャフトは、衝突時に外れるように設計されています。これは危険時に安全を確保するための機能です。このシャフトの整備、交換、修理は、ランドローバーの認定部品のみを用いてランドローバー特約販売店だけが行なうことができます。

インターミディエイト シャフトの点検は、整備スケジュールの中の重要項目です。40,000kmごとまたは2年ごとに点検してください。ただし車の前面を衝突させた場合には、より詳細な点検整備を実施しなければなりません。

オイル、グリース、潤滑油は、どんな場合でもステアリング コラムのどの場所にも付着しないように注意してください。異音または不具合を感じた時は、ランドローバー特約販売店にご連絡ください。



ガレージ内での安全

車のメンテナンスを行なう時は、常に次の注意事項を守ってください。

- 手、工具、衣類などはドライブ ベルトやプーリーに近づけないように常に注意してください。
- 完全に冷えるまでは、排気/冷却システムの部品には触れないでください。冷却ファンはエンジンを切った後も作動し続ける場合があります。また、エンジンが熱い時は、エンジンを切った後でも冷却ファンが回りだしたり、最大10分間は回り続ける場合があります。エンジン ルーム内での作業をする際はファンに近づかないようにしてください。
- イグニッション スイッチがオンになっている時は、ケーブルや電気部品に触れないでください。
- 換気の悪い場所でエンジンを回転させたまま絶対に放置しないでください。一酸化炭素を含む排気ガスは有毒であり大変危険です。
- 車載工具のジャッキだけで車を持ち上げた状態で、車の下にもぐっての作業は絶対にしないでください。
- 安全のために、バッテリーの近くで作業をする場合は金属製のリスト バンドや貴金属類はあらかじめ取り外し、バッテリー端子やバッテリー ケーブルが車の金属部や工具に接触することは絶対に無いようにしてください。
- 火花や裸電球をエンジン ルームに近づけないようにしてください。

有毒な液体

自動車に使われている液体のほとんどは、有毒であり、飲んだり傷口に触れたりさせないでください(例えば、バッテリー液、不凍液、ブレーキ液、パワー ステアリング液、ガソリン、ディーゼル、オイルそしてウィンドウ ウォッシャー添加剤)。ラベルや容器に印刷されたすべての指示に従ってください。

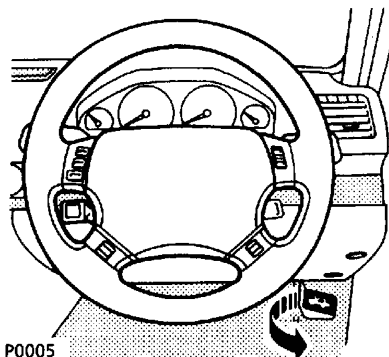
使用済みエンジン オイル

エンジン オイルが皮膚に長時間付着していると、皮膚炎や皮膚癌などの重い皮膚病の原因となります。オイルに触れた後は念入りに洗い流してください。

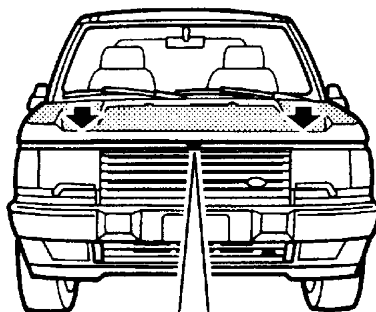
環境を守りましょう！

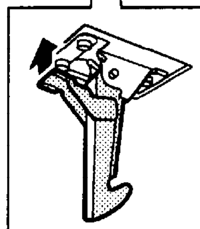
下水、用水路および土壌を汚染することは違法行為です。使用済みオイル、有毒化合物を処分する施設を持った認定廃棄物処理場または業者に委託してください。不明な点については、管轄の自治体にお問い合せください。

ボンネットの開閉

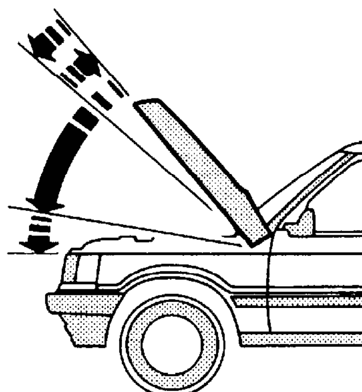


P0005





P0008



P0009

ボンネットの開け方

 アドバイス

- ワイパーのスイッチが切れ、元の位置に戻ったことを確認してから、ボンネットを開けてください。
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

ボンネット リリース レバーを引いてください。次に図のように、ボンネット セーフティ キャッチを押し上げて、ボンネットを上げてください。

ボンネットの開閉

ボンネットの閉め方

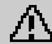
ボンネットが止る位置まで、少しだけそっと下ろします。

次にボンネットを持ち上げ、（ストラットのロックが外れたら）さらにボンネットを引き下げます。

閉まった位置から約30cm上のところまで下ろしたら、ラジエーター グリルの両端（左ページ下図参照）の位置のボンネットの上（前端）に両手の平を乗せて、静かに押し下げてください。ボンネットが閉まります。次に、その前端を持ち上げてみて、ボンネットが完全にロックされていることを確認してください。完全に閉まっていれば、ボンネットはどの方向にも動きません。

 アドバイス

- 最初の引き下げ時に強く一度で下げようとすると、ストラット ロックにより妨げられるため、ボンネットまたはストラット ロック自体を損傷させます。ゆっくり、そっと引き下げてください。

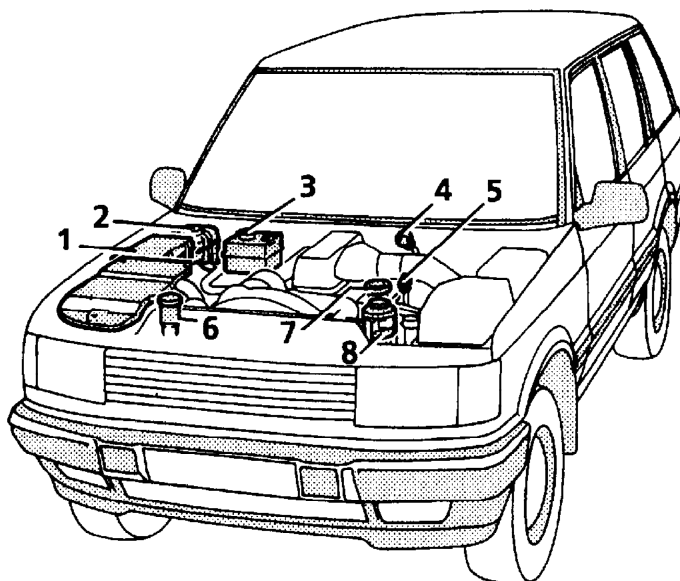
 注意

- 車両の走行中にボンネット リリース レバーを引いたり、ボンネットのラッチをかけずに、セーフティキャッチだけで運転しないでください。
- ボンネットを閉める時は、手等をはさまないように注意してください。

 知識

- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

エンジン ルーム



エンジン

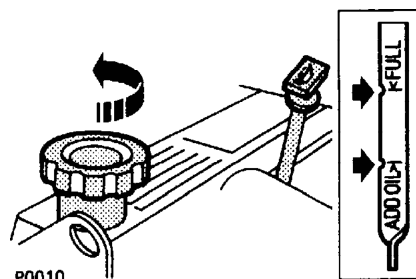
1. ヒューズ ボックス ー エンジン ルーム
2. 冷却水リザーバー
3. ブレーキ液リザーバー
4. オートマチック ギアボックス液レベル ゲージ
5. エンジン オイル レベル ゲージ
6. ウォッシャー液リザーバー
7. エンジン オイル注入キャップ
8. パワー ステアリング液リザーバー

⚠ 警告

● エンジン ルーム内の整備やメンテナンス点検を行う前には、必ず本書のお客様自身で行うメンテナンスの項の冒頭にある「ガレージ内での安全」に列記してある安全上の注意事項を守ってください。

エンジン オイルの点検と補充

エンジン オイルのレベルは、少なくとも400km走行に1回は、次の手順で点検してください。点検は水平な場所に停車した状態で、エンジンが暖まっている間に行ないます。



エンジンを切り、少なくとも5分間そのまま放置して、エンジン オイルがオイル サンプに戻るのを待ちます。オイル レベル ゲージを引き抜いて先端をきれいに拭いてから、奥まで差し込んでください。もう一度引き抜いて、オイル レベルを点検します。オイル レベルは、常にゲージの下限マーク「ADD OIL」よりも上になければなりません。

オイルを補充するには、注入キャップを取り外してオイルを注入してください。オイルのレベルは、いつも上限マーク「FULL」と下限マーク「ADD OIL」の間にくるようにしてください。

オイルを入れすぎないように注意してください。

エンジン オイルの補充量は、次のようにして判断します。

- オイル レベルが「ADD OIL」マークよりも「FULL」マークに近い時は、オイルを補充する必要はありません。
- オイル レベルが「FULL」マークよりも「ADD OIL」マークに近い時は、オイルを0.5リットルだけ補充します。
- オイル レベルが「ADD OIL」マークよりも下にある時は、オイルを1リットル補充します。5分後、オイル レベルを再点検します。

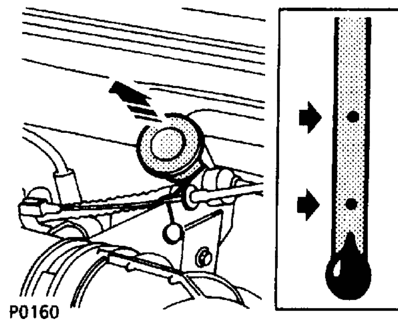
知識

- エンジンが冷えている時に、オイルレベルを点検しなければならない場合は、エンジンをスタートさせないでください。上記の手順に従った後、エンジンをスタートさせ、通常の運転温度に達し次第、すぐにレベルを再点検してください。

エンジン ルーム

オイルの仕様

車を運転する際、気候条件に適したオイルを使用することが大切です。オイルの仕様詳細は、「テクニカルデータ」に記載されています。不明な点については、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場にお問い合せください。



オートマチック ギアボックス液の点検と補充

液レベルの点検は、必ずエンジンとギアボックスが冷えた状態の時に行なってください(下記のアドバイスを参照してください)。車が水平な場所に停止していることを確認して、シフト レバーを「P」位置(駐車)に入れて、エンジンをかけます。

エンジンをアイドリング状態にして、フットブレーキと駐車ブレーキの両方をかけ、シフト レバーを「1」位置に入れて、すぐに「P」位置に戻します。エンジンが回転している状態の時に、注入チューブからレベル ゲージを抜き取り、ブレードをきれいに拭き取ってください。レベル ゲージを奥まで差し込んで、もう一度引き抜いて、オイルレベルを点検します。必要ならオイルを補充してください。オイルのレベルは、いつも上限マークと下限マークの間にくるようにしてください。オイルは、「テクニカル データ」に記載されている仕様に適合するものを使用してください。

 アドバイス

- 外気温が極端に高いまたは低い場合は、レベル ゲージの液レベルが変化します。液レベルを正確に読み取るためには、外気温が20℃の時に点検するようにしてください。

オイルを入れすぎないように注意してください。

 知識

- オイル レベルを下限マークから上限マークまで上げるには、およそ0.25リットルの液が必要です。

冷却システムの点検と補充



警告

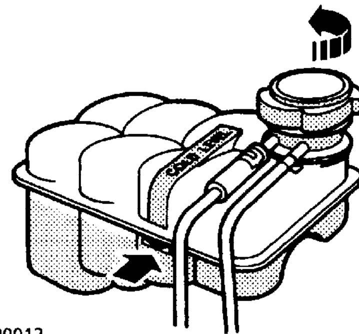
- エンジンが熱い間は、決して注入キャップを取り外さないようにしてください。漏れた蒸気や熱湯でヤケドを負う可能性があります。
- エキスパンション タンクのクーラント（冷却液）レベルは、少なくとも週1回（長距離走行時や過酷な条件下で使用している場合はもっと頻繁に）点検するようにしてください。必ず、システムが冷えている時にレベルを点検してください。
- 注入キャップをゆっくりねじって外し、完全に外す前に圧力が逃げるようにしてください。
- 冷却水の入っていない状態でエンジンを回さないでください。

不凍液50%と水50%の混合液を補充し、冷却水の表面がタンク内のインジケーターのトップと等しくなるようにしてください。補充終了後、キャップが十分に締まっていることを確認してください。



アドバイス

- レベルが著しく下がっている時は、液漏れまたはオーバーヒートの恐れがあります。ランドローバー特約販売店に点検を依頼してください。



P0012

冷却水を入れすぎないように注意してください。

不凍液

不凍液は、重要な腐食抑制剤を含んでいます。一年中（寒い時以外も）不凍液50%と水50%の溶液が維持され、補充されるよう注意してください。これを怠ると、ラジエーターやエンジン構成部品が腐食を起こす可能性があります。アルミニウム エンジンには、非リン酸塩腐食抑制剤で、エチレングリコールベースの不凍液（メタノール非含有）を使用してください。20℃で濃度50%の不凍液の比重は1.075で、－36℃まで凍結を防ぐことができます。

⚠ 注意

- 不凍液が、目や皮膚に触れないようご注意ください。万一触れてしまった場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。

アドバイス

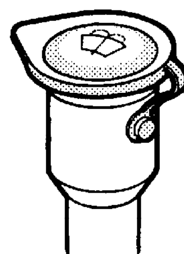
- 不凍液は、塗装面を傷めます。
- 塩水は、決して補充しないでください。水道水に塩分が含まれる土地を旅行する時も、補充用にいつも真水（雨水か蒸留水）を携帯するように心掛けてください。

前面ガラス ウォッシャー液の点検と補充

前面ガラス ウォッシャー液リザーバー内の液は、後面ガラスおよび前照灯のウォッシャー ジェットへも供給するようになっています。

タンクの液レベルが低い時は、ウォッシャーの作動中にメッセージ センターに「LOW SCREEN WASH」というメッセージが表示されます。

メッセージ センターをリセットするには、イグニッション スイッチが切れている時に液を補充してください。



P0015

水と指定されたウォッシャー剤との混合液を補充してください。気温が低い時は、凍結を防ぐために下表に示す量のウォッシャー剤を補充してください。これにより液の凍結を防ぎます。

リザーバーの容量6.0リットル			
-3℃ 600 ml	-6℃ 1200 ml	-12℃ 2400 ml	-18℃ 3000 ml

アドバイス

- ウォッシャー液リザーバーには、不凍液を使用しないでください。不凍液は塗装面を傷めます。

ブレーキ液の点検と補充



- ブレーキ ペダルのストロークが異常に長くなったり、ブレーキ液レベルが著しく低下した場合は、すぐにランドローバー特約販売店に連絡してください。

ブレーキ液のレベルは、ブレーキ パッドの摩耗により低下していきます。しかし「MIN」マークよりも低くならないようにしてください。ブレーキ液が目立って減った時は、ブレーキ システムの液漏れが考えられます。その場合には、車の運転を止め、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。

水平な場所に停車し、少なくとも週1回（長距離走行時や過酷な条件下で使用している場合は、もっと頻繁に）、液のレベルを点検してください。注入キャップを取らずに透明容器の側面からレベルを見て点検してください。

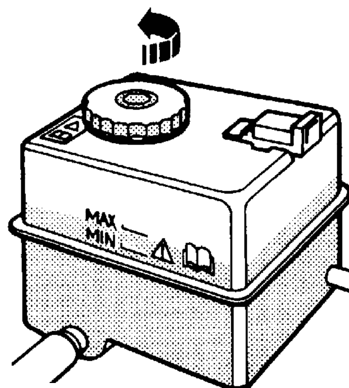
1. イグニッション スイッチを「II」位置にセットし、油圧ポンプを作動させます（ブレーキ警告灯が点灯します）。
2. 油圧ポンプの作動音が聞こえない時は、ブレーキ ペダルを数回踏んでください。
3. 油圧ポンプの作動が止ってブレーキ警告灯が消灯したら、ブレーキ液の点検を行なってください。


アドバイス

- 液のレベルが「MIN」マークを下回っている時は、車を運転しないでください。
- ブレーキ液は塗装面を傷めます。こぼれたらすぐに吸湿性の良い布で拭き取り、カー シャンプーと水を混ぜた溶液で洗い流してください。
- ブレーキ液が目や皮膚に触れた場合は、大量の水で直ちに洗い流してください。

ブレーキ液の補充

リザーバーに汚れが入り込まないように、注入キャップを外す前に周囲の汚れを拭き取ってください。指定されたブレーキ液を、「MAX」マークまで補充してください（「テクニカルデータ」の項をご覧ください）。密閉容器に入った新品のブレーキ液だけを使用してください。



P0013

 アドバイス

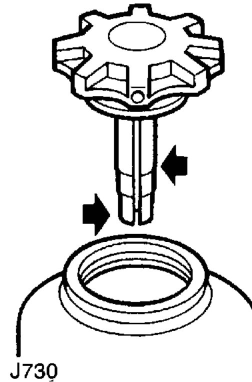
● 一度開封した容器のブレーキ液またはブレーキ システムから抜き取ったブレーキ液は使用しないでください。

液を入れすぎないように注意してください。

 アドバイス

● ブレーキ液は少なくとも60,000kmまたは、36カ月ごとに完全に交換する必要があります。少なくとも120,000kmまたは、6年ごとに、全てのブレーキ液、シールそしてフレキシブル ホースの交換が必要です。キャリパー シリンダーの作動面全てを点検し、必要に応じて、部品を交換してください。過酷な条件下で使用している場合は、点検間隔をもっと短くしてください。詳しくはランドローバー特約販売店にご相談ください。

パワー ステアリング液の点検と補充



パワー ステアリング液のレベルは、エンジンを切って、パワー ステアリング システムを冷やした後で点検します。エンジンを切った後は、ステアリング ホイールを回さないでください。

リザーバーにゴミが入り込まないように、注入キャップを外す前に周囲の汚れを拭き取ってください。

注入キャップを外して、レベル ゲージを引き抜きます。糸くずの付いていない布でレベル ゲージの先端をきれいに拭きます。注入キャップを完全に締め直して、もう一度外します。液レベルを点検してください。液レベルがレベル ゲージの上限マークと先端の間にくるように、リザーバーに液を補充してください（推奨液については、「テクニカル データ」の項をご覧ください）。

● マークの間にレベルがくるように補充してください。

 **アドバイス**

● 液のレベルがレベルゲージの先端を下回った時は、運転しないでください。ステアリング ポンプを破損することがあります。

タイヤ

⚠ 注意

- タイヤの摩耗がひどかったり、切れたり破損している場合、または空気圧が不適当な場合は、決して車を運転しないでください。
- 圧力が不適当なタイヤは摩耗が激しく、車の安全性とハンドリング特性に重大な影響を及ぼします。

タイヤの点検

運転の際には常にタイヤの状態に注意してください。また、トレッド（溝）やサイドウォール（側壁）に歪みや損傷（特に、はがれ、切れ、ふくらみ等）がないかどうかをこまめに点検してください。

タイヤの空気圧

通常の道路を運転している時は、タイヤの空気圧は少なくとも週1回は点検してください。オフロードを走行をしている時は、毎日点検してください。

空気圧の点検は、スペア タイヤを含めて、タイヤが冷えてから行なってください（走行直後は、タイヤが暖まって空気圧が高くなっています）。適正な空気圧については、「テクニカルデータ」の項をご覧ください。



アドバイス

- 直射日光や高温の場所に駐車していた場合は、タイヤの空気圧を下げずに車を日陰に移動し、タイヤが冷えるのを待って点検を行うようにしてください。

タイヤの摩耗

タイヤには、トレッド パターンに摩耗インジケーターが埋め込まれているものもあります。タイヤの溝が1.6mmまでに減ると、タイヤの表面にインジケーターが現れ、タイヤの幅に対して横に走る帯状の印となります。インジケーターが見えたらすぐにタイヤを交換してください。タイヤの溝は、定期的に点検してください。溝が深さ1.6㎜に達した時は、必ずタイヤの交換をしてください。摩耗したタイヤで運転しないでください。車および同乗者の安全を脅かすことになります。

タイヤ



アドバイス

- タイヤに偏摩耗が見られる場合、ホイール アライメントの狂いが考えられます。ランドローバー特約販売店で調整してください。
- オフロードで使用した後は、タイヤのこぶ、切り傷または膨らみ、タイヤ内部の繊維層の露出がないか必ず確認してください。

バルブ キャップ（空気入れ口のキャップ）

汚れがバルブ内に入り込まないように、バルブ キャップは常にしっかりと締めてください。

タイヤの交換

ホイールのリムとタイヤは、車の操縦性に適合しています。安全のために、スペア タイヤがメーカー純正仕様に適合していること、およびサイド ウォールに記された荷重規格が純正タイヤの規格と同じであることを常に点検してください。詳しくは、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。

⚠ 警告

- ランドローバーの純正部品以外のホイールと交換しないでください。ホイールとタイヤは、オフロードおよびオンロード双方での使用を考えて設計されています。
- サスペンション システムの動作と車の操縦性にきわめて大きく影響しますので、純正仕様に適合しない代替ホイールは取り付けないでください。



知識

- タイヤのサイズと空気圧は「テクニカルデータ」を参照してください。

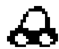
タイヤ

スノー チェーン

チェーンは雪の多い時のオンロード走行用に設計されています。オフロード走行には使用できません。必ずランドローバーが指定したチェーンを使用し、次の注意を守ってください。

- 前輪に取り付けることのできるのは、ランドローバー社の認定チェーンだけです。
- チェーンは必ず両輪に取り付けてください。
- チェーンの装着手順およびさまざまな道路状況に応じた推奨制限速度を守ってください。50 km/hを決して越えないでください。
- 道路の雪がなくなったら、すぐにチェーンを外してください。付けたまま走行すると、タイヤを傷めます。
- 認定外のチェーンしかなければ、必ず後輪に取り付けてください。

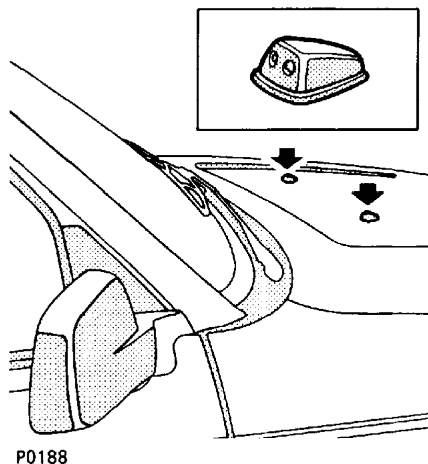
詳しくは、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。



アドバイス

- 前輪には認定外のチェーンを装着しないでください。ブレーキ部品を傷める場合があります。
- 4輪すべてにチェーンを装着する場合は、ランドローバー特約販売店に相談してください。

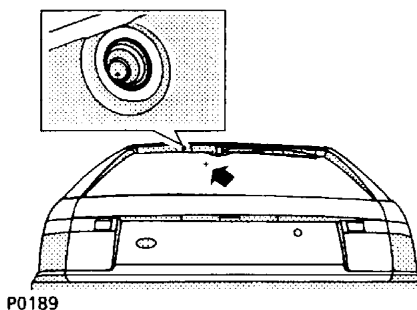
ウォッシャー ジェットとワイパー ブレード


P0188

ウォッシャー ジェット

前面ガラス ウォッシャー液の噴射方向を調整するには、それぞれの噴射口に針を差し込んで動かします。噴射液がガラスの上下の中間部の2点にかかるように噴射口の向きを調整してください。

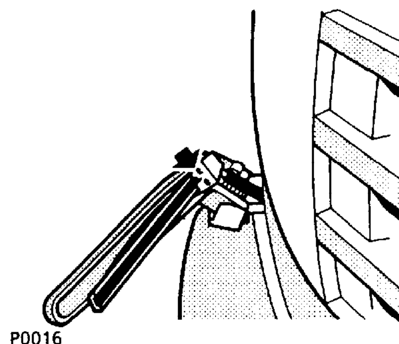
後面ガラス ウォッシャー液の噴射方向を調整するには、それぞれの噴射口に針のような細いものを差し込んで動かします。噴射液がガラスの十印にかかるように噴射口の向きを調整してください。


P0189

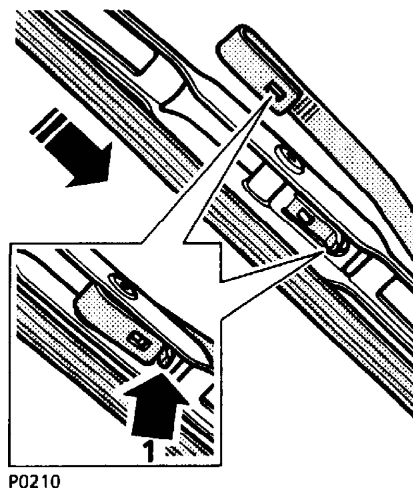
前照灯ワイパー

それぞれの前照灯ワイパー アームには、噴射口が2つ付いています（図参照）。このワイパーにより、前照灯レンズに付着した汚れを直接洗い流します。これらの噴射口は出荷時に調整済みですので、触らないでください。

噴射口が詰った時は、針またはワイヤを差し込んでゴミを取り除いてください。


P0016

ウォッシャー ジェットとワイパー ブレード



フロント ワイパーのブレード交換

ワイパー アームを持ち上げてください。固定クリップ(1)を押して、ワイパー ブレードをアームに沿って滑らせて取り外してください。

次に新品のブレードをアームに取り付けます。ブレードを押して、クリップにはめ込んで固定してください。

純正仕様と同じ仕様のワイパー ブレードを取り付けてください。

リア ワイパーのブレード交換

リア ワイパー アームが定位置（テールゲートの上端カバーの下）にある時は触ることが（外すことが）できません。ブレードを交換するには、次の手順に従ってワイパーアームを途中で止めてください。

リア ワイパーを作動させ、ワイパーがほぼ垂直の位置に来た時、上部テールゲートを開けてください。テールゲートを開けると、すぐにワイパーが停止します。

イグニッション スイッチを「0」位置にセットして、ワイパーが作動しないようにしておきます。上部テールゲートを下げて、ワイパーのブレードを交換してください（交換手順は、上述の「フロント ワイパーのブレード交換」と同じです）。イグニッション スイッチを「I」位置に戻すとすぐにワイパーが作動します。

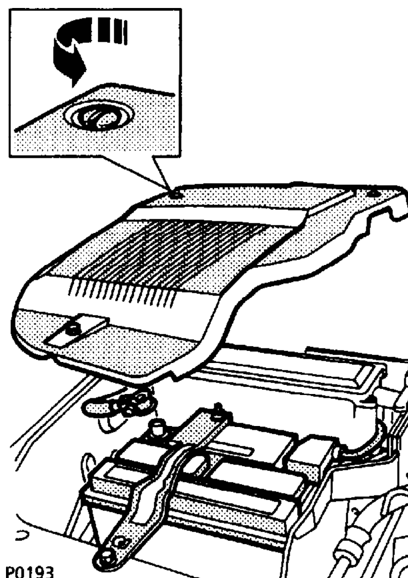
バッテリー

⚠ 警告

- バッテリーは、硫酸を含んでいます。酸が目または皮膚に触れた場合は、直ちに冷水で洗い医師のアドバイスを受けてください。
- 通常の操作において、バッテリーは爆発物である水素ガスを発します。エンジン ルームに火花および裸電球がないか確認してください。
- ショートする危険を避けるため、エンジン ルームでの作業を行う前に、金属製のリストバンドや宝石類は全て外してください。
  またバッテリー端子や車へのリード線に工具や車の金属部品を接触させないでください。
- バッテリーの接続を外す前に、必ずイグニッション キーを抜いておいてください。これを怠ると、SRSエアバッグが誤作動することがあります。

バッテリーのメンテナンス

温暖な地域では、バッテリーはメンテナンス フリーで、バッテリー液の補充の必要はありません。暑い地域では、定期的にバッテリー液を点検して、必要に応じて蒸留水を補充してください。定期的にバッテリー ケースを拭いて、汚れを落してください。また腐食を防ぐために両端子に石油ゼリー（グリース）を塗ってください。



バッテリー液レベルの点検

通気カバーをゆっくり外し（通気用栓が取り付けられている場合には、ねじを緩めて）、各セルのバッテリー液レベルを点検します。プレートの上から1mm以上あれば正常です。1mm未満の場合は、必要に応じて、プレートの上から最大3mmの位置まで蒸留水を補充してください。

⚠ 注意

- 車のバッテリーを取り外す際は、その前に次ページの「バッテリーの取り外しと交換」の項を読んでおいてください。

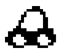
バッテリー

バッテリーの取り外しと交換

バッテリーを取り外す前に、イグニッション スイッチを「0」位置にセットし、全ての電装品の電源を切って、キーを抜いてください。

3つのターンバックルを反時計方向に回して、バッテリー カバーを外します。

バッテリー端子は、必ずマイナス側から外してください。（バッテリーを取り付ける時は、プラス側から接続します。）



アドバイス

- 車の電装品を損傷させる可能性がありますので、バッテリーを再度搭載する際は、極性が正しいことを確認してください。
- バッテリーはオリジナルと同じタイプおよび仕様の交換用バッテリーのみが使えます。他のバッテリーは、サイズが様々で端子の位置も異なり、端子またはリード線がバッテリー クランプ アッセンブリーと接触した際に、火災を起こす可能性があります。
- スターターの補助装置として高速バッテリー チャージャーを使わないでください。
- バッテリーを接続していない状態でエンジンを回転させないでください。
- バッテリー端子やリード線が車の金属部品や工具に接触することのないようにしてください。

寒冷地でのバッテリー交換

外気温が常に氷点下になるような所では、車を使用しない時はヒーターを使ってバッテリーを暖めてください。詳しくは、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。

バッテリー

バッテリーの充電

バッテリーは腐食性酸を含み、可燃性のガスを発生します。また、重度のヤケドを引き起こすほどの大きな電流を供給しています。充電をする前に、バッテリー液のレベルが適正であることを確認してから、車からバッテリーを取り外してください。バッテリーの充電を行なっている間は、必ず以下の注意事項を守ってください。

- 車から取り外して充電してください。
- バッテリー端子にリード線を接続する時は、バッテリー充電器の電源が切れていること確認してください。
- 充電器の電源を入れる前に、クリップがしっかりと端子に接続されていることを確認してください。また充電中はクリップを動かさないでください。
- 目を保護し、バッテリーの上にかがみ込まないでください。
- バッテリー上部および周辺の通気をよくしてください。
- バッテリーに火気を近づけないでください（充電中および充電後、バッテリーは可燃性水素ガスを放出します）。
- 充電が終ったら、はじめにバッテリー充電器の電源を切り、次にリード線を外してください。バッテリーを1時間放置した後、車に搭載してください。

バッテリーを取り外した時の影響

バッテリーを取り外したり、接続したりした後は、車の電子制御装置や電装品が正常に作動しなくなります。

それぞれの装置について、その時の症状と復旧方法を説明します。対策については、この取扱説明書の該当箇所もご覧ください。

ラジオ／カセットおよび CDプレーヤー

作動しません。復旧に際しては別添「オーディオシステム取扱説明書」をご参照ください。

ウィンドウとサンルーフ

ウィンドウとサンルーフの作動については、対応メッセージがメッセージ センター上に、ワンタッチ機能とアンチトラップ機能がセットされていないことを表示します。（「電動ウィンドウ」と「サンルーフ」の項をご覧ください。）

バッテリー

トリップ コンピューター

すべてのデータは消去されます。リセット方法は、「トリップ コンピューター」の項をご覧ください。

トリップ メーター（走行距離 1）

ゼロにリセットされます。

ハンドセット

両方のハンドセットを車側と再同調させる必要があります（「ロック」の項をご覧ください）。



アドバイス

- エンジン回転中は絶対にバッテリーの接続を外さないでください。
- スターターの補助装置として高速バッテリー チャージャーを使わないでください。

タイヤ交換

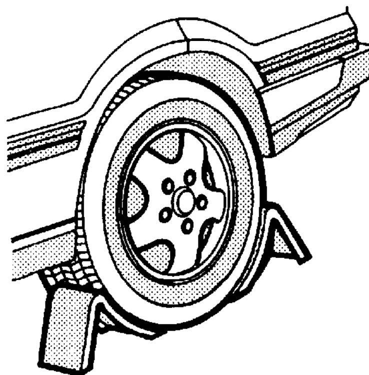
> ⚠ **注意**
>
> ● ジャッキアップ作業の前に電子制御エア サスペンションを固定（機能停止、作動できないように）してください。作業中にエア サスペンションの車高調整が自動的に作動し、けがをするのを防ぐためです。

エア サスペンションの固定（機能停止）

1. サスペンションを固定する前に、「標準モード」または「ハイモード」になっていることを確認してからイグニッション スイッチをオフにし、キーを抜いてください。これにより、車と地面との間にジャッキ作業のための十分な空間ができます。
2. テールゲートを開けてください。
3. 非常点滅表示灯を点滅してください。

ホイール交換作業の間は、非常点滅表示灯は点滅させたままに、テールゲートは開けたままにしてください。

輪止めの使い方



> ⚠ **注意**
>
> ● ジャッキアップ作業の前に、車輪のどれかを必ず輪止めで固定してください。駐車ブレーキは、トランスミッションに作用するので後輪には作用しません。そのため、車を持ち上げた時に、車が動くことがあります。

タイヤ交換

交換するホイールの対角にある車輪の前後に輪止めを固定してください。

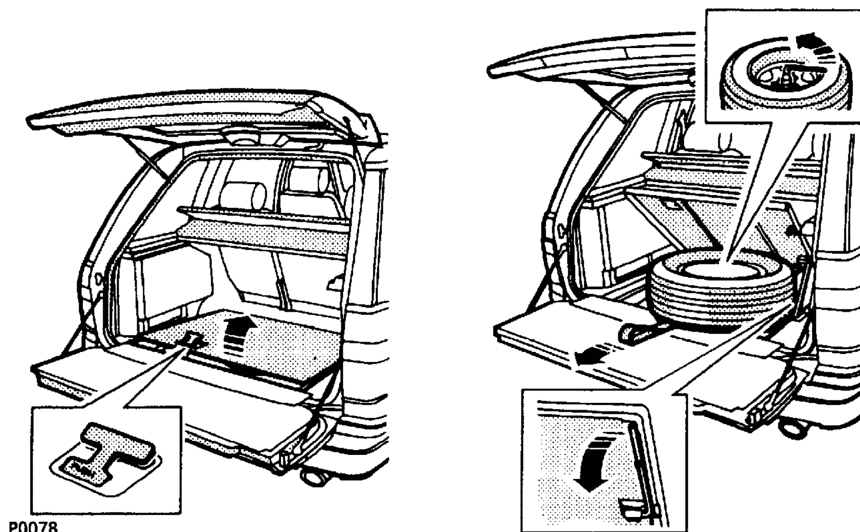
輪止めは、ジャッキ、ジャッキ レバー、レンチ、スペア タイヤ等と一緒に、荷室の床下に収納されています。

⚠ 注意

ジャッキアップ作業の前に、次の注意を守ってください。

- 作業する場所として、表通りを避け人通りの少ない場所を選んでください。また、他の人が車に近寄らないようにしてください。
- 駐車ブレーキをかけ、オートマチック ギア ボックスのシフトを「P」位置に入れてください。
- 電子制御エア サスペンションを固定し、キーを抜いてください。
- 人を車内に乗せたまま、またはキャラバンやトレーラを連結したままの状態で車を持ち上げないでください。
- 備え付けジャッキだけで車を持ち上げた状態では、車の下にもぐって作業しないでください。備え付けのジャッキは、ホイール交換のためにだけ使用することができます。

タイヤ交換



スペア タイヤの取り外し

テールゲートをいっぱいまで開け、荷室カバーを前方に押し上げます。

荷室のフロア パネルのラッチを外して持ち上げ、持ち上げた位置でステーを下げてパネルを固定します（上図参照）。

レンチを使って、スペア タイヤの取り付けナットを取り外してください。帯ひもの輪の部分を後ろに引っぱるとホイールがリア テールゲートまで持ち上がります。

⚠ 注意

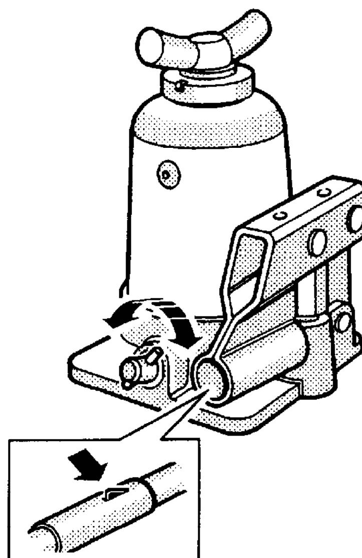
- ホイールはたいへん重いものです。持ち上げる、特に荷室からスペア ホイールを取り外す際には十分注意してください。

タイヤ交換

油圧ジャッキの使い方

ジャッキ レバーの一方をもう一方に差し込んで操作レバーを組み立てます。この時、スプリング クリップが噛み合わせ穴から飛び出していることを確認してください。油圧リリース バルブを時計方向にいっぱいまで回してバルブを閉めてください。次に、右図のようにレバーをソケットに差し込んでください。レバーを上下に動かすとジャッキが持ち上がります。

ジャッキを下げるには、ソケットからレバーを抜き取り、レバー先端のノッチ（切り欠き部）を油圧リリース バルブの突起部にはめ込みます。ゆっくりとバルブを反時計方向に回してください。車の重みによってジャッキが下がります。



P0080

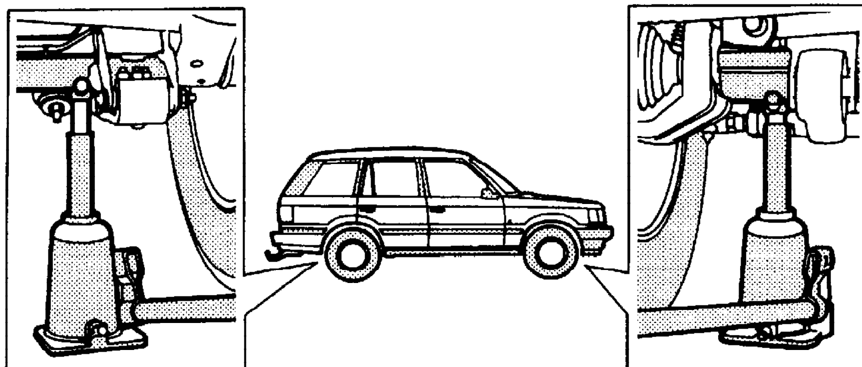
⚠ 注意

- 決して急激にバルブを緩めないでください。急に車を下げることは大変危険です。

⚠ 警告

- ジャッキは固くて平らな地面に置いてください。
- ジャッキを使用する前に、このページの「ジャッキの位置決め」をよく読んで、ジャッキの使い方を理解してください。よくわからないことがあれば、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。
- ジャッキを使って車を上げ下ろしする間、誤って床下の部品に触れないように注意してください。特に排気システムは高温になっているため、触れるとヤケドを負います。
- 車を下げる際には、車の下と周囲にじゃまになる物が置かれていないことを確認してください。

タイヤ交換



P0082

ジャッキの位置決め

ジャッキの位置を決める前に、電子制御エア サスペンションが固定されていることを確認してください（キーをイグニッション スイッチから抜き取り、非常点滅表示灯を点滅させ、テールゲートを開けてください）。車高が「ローモード」（または「アクセスモード」）にセットされている時は、エンジンをかけ、車高を「標準モード」または「ハイモード」の位置まで上げてからエンジンを止め、キーを抜き取ってください。車の下にできるだけスペースを確保するためです。ジャッキ ポイントのすぐ前または後からジャッキを車の下に置いてください。

⚠ 注意

- 車の横からジャッキを操作しないでください。
- 高温の排気システムに触れることがないように、操作レバーは常に完全な形（2つをつないだ形）で使用してください。
- ジャッキは常に指定されたジャッキ ポイントに据え付けて使用してください。そうしないと車に損傷を与えます。

リア ジャッキ ポイント

泥よけが付いている時は、タイヤの上に押し上げて、作業のじゃまにならないようにします。持ち上げた時にジャッキがエア スプリング真下の後軸ケースにかかり、しかもショック アブソーバーの取り付け部にできるだけ近い状態に置いてください（上図参照）。

タイヤ交換

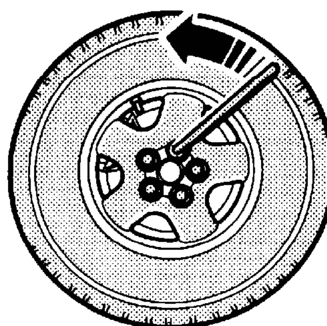
フロント ジャッキ ポイント

持ち上げた時にジャッキがエア スプリング真下の前軸ケースにかかるように位置決めをします（前ページ図参照）。軸の端からラジアス ロッドの取り付け箇所までの間に、ジャッキの受け台をあててください（前ページ図参照）。

タイヤ交換

ジャッキアップ作業の前に、本章の冒頭で述べた注意事項が守られていることを確認してください。

タイヤに輪止めが正しく固定されていること、および電子制御エア サスペンションの車高調整が「標準モード」または「ハイモード」に固定されていることを確認してください。



P0142

 警告

- エア サスペンションの車高調整が自動的に作動しないようにするために、ホイール交換の作業中は、電子制御エア サスペンション システムはオフにしてください（キーをイグニッション スイッチから抜き取り、テールゲートは開けたままにし、非常点滅表示灯は点滅させておきます）。

- レンチを使って、ホイール ナットを（反時計方向に）半回転ほど回して緩めます
- タイヤが地面から離れるまで車を持ち上げたら、ホイール ナットとホイールを取り外してください（ジャッキの上げ過ぎは危険です。ホイールの取り外し、取り付けが可能な最低限の高さ以上は上げないでください。また、ホイールの表側を下にして地面に置かないでください。アロイ ホイールの表面が傷つきます）。
- ホイール交換作業を容易に行なうために、オイルまたはグリースをホイール スタッドに軽く塗ってください。この際、オイルやグリースがブレーキ部品に付着しないように十分注意してください。

タイヤ交換

- タイヤと固定金具との固着や錆び付きを防ぐために、(指定の焼き付き防止剤を使用した）オイルまたはグリースを固定金具に軽く塗ってください。この際、オイルやグリースがブレーキ部品に付着しないように十分注意してください。スペア タイヤを取り付けるのは、車を整備工場またはガレージに運ぶための一時しのぎの手立てにすぎません。取り外したタイヤ、ホイールはできるだけ早く適切な処置をほどこして、元の位置に戻して使用してください。
- スペア タイヤを取り付け、ホイール ナットを軽く締めます。この際、ナットがまっすぐに入っていることを確認してください。タイヤが地面から浮いているうちは、ナットを固く締めないでください。

⚠ 注意

- タイヤを装着する場合は、ハブとホイールとの接触面に錆等がなくきれいな状態であることを確認してください。錆や泥が堆積するとホイール ナットが緩む原因となり事故につながります。

- 車を下ろして、ジャッキと輪止めを外します。
- ホイール ナットをいっぱいまで締め付けてください。レンチにエクステンション バーを掛けたり、足で踏み込んだりして締め過ぎないようにしてください。早い時期にホイール ナットの締め付けトルクを点検してください。(「テクニカル データ」の項を参照してください。)
- 車を動かす前に、シフト レバーを 「ハイレンジ」 に入れてください。
- 最後にタイヤの空気圧を点検してください。(「テクニカル データ」 の項を参照してください。)

ジャッキのお手入れ

ジャッキは時々検査してください。可動部品（特に伸縮部）は掃除してグリースを塗って腐食を防いでください。

周囲を汚さないために、ジャッキは完全に下がった状態で収納してください。

タイヤ交換

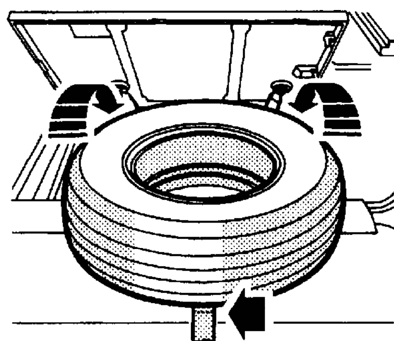
スペア タイヤの交換

スペア タイヤは掃除して乾かしてから車に収納してください。

テールゲートの床に帯ひもを平らに置き､ホイールの表側を下にしてタイヤを置きます。この時、タイヤの後端を帯ひも上の印に合わせてください。

帯ひもの輪部を握って、一度タイヤをテールゲートから持ち上げてから押し下げます。次に、ホイール取り付けナットを差し込んで締めてください。

⚠ 注意
● タイヤを交換した後は、必ず、工具、輪止め、ジャッキおよびスペア タイヤを正しい場所に格納しておいてください。

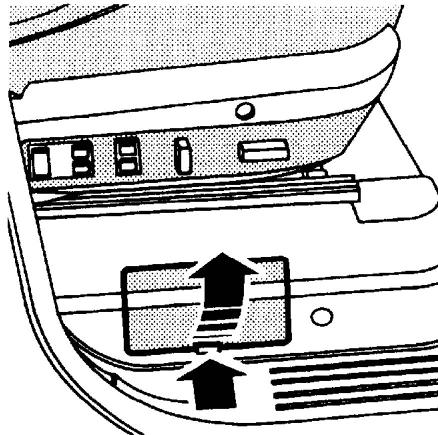


ヒューズ

ヒューズは単純な回路遮断器としてはたらき、電気部品を過電流から保護します。

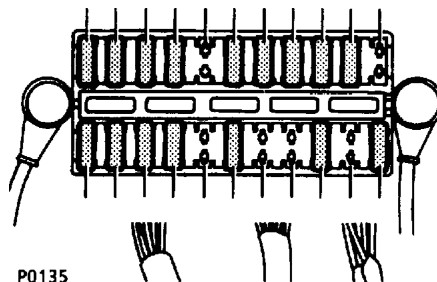
ヒューズを取り外す前には、イグニッション スイッチからキーを抜き取り、関連する電気回路をオフにしてください。

ヒューズ取り外しピンセット（エンジン ルームのヒューズ ボックス内にあります）でヒューズの頭を押してから引き上げ、取り外します。



 アドバイス

- ヒューズは必ず同じ種類（容量）のものと交換してください。
- ヒューズを交換する前には、ヒューズが切れた原因を取り除いてください。必要に応じて、ランドローバー特約販売店に依頼してください。



 知識

- 交換したヒューズがすぐに切れる場合には、ランドローバー特約販売店または指定サービス工場で点検してください。

ヒューズ

ヒューズは、容量（アンペア数）によって次のように色分けされています。

紫	3 A
褐色	5 A
茶	7.5 A
赤	10 A
青	15 A
黄	20 A
白	25 A
緑	30 A

運転席のヒューズ ボックス

ヒューズ2～22が関係する故障内容は、メッセージ センターに通知されます。

ヒューズ1～22は、運転席シート横のカバーの裏にあります。

爪（矢印）を持ち上げ、カバーを開けます。カバーの裏側のラベルにヒューズの番号と規格が記されています。ヒューズの一覧表は次ページの通りです。

 知識

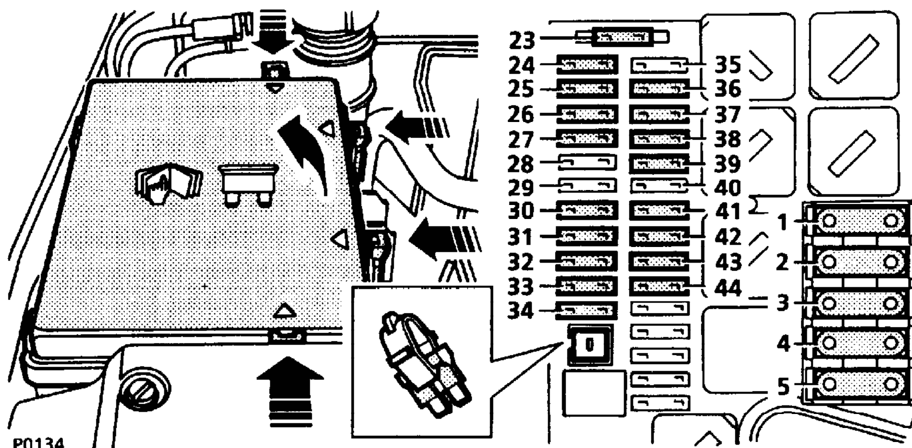
● ヒューズの規格は、車種および装備によって異なります。

ヒューズ

ヒューズ No.	容量（アンペア）	作動しないユニット
1	10A	計器パネル、時計、ラジオ、センター コンソール
2	30A	右リア ウィンドウ、シート ヒーター
3	5A	オートマチック ギアボックス ECU
4	30A	トランスファー ボックス ECU
5	ー	不使用
6	10A	ルーム ミラー角度調整、オートマチック ギアボックスECU、バニティ ミラー灯、トランスファー ボックス ECU
7	10A	SRSエアバッグ
8	30A	自動車電話、アンテナ、シガー ライター、ラジオ、ヒーター、換気装置とエアコン
9	20A	フロント オーディオ システム、フロント ドア
10	30A	右シート
11	ー	不使用（トランスファー ボックスのニュートラルを選択するために、容量5A以上のヒューズを入れてください。）
12	30A	リア デフロスター、左リア ウィンドウ
13	20A	シフト ロック コイル、キー ロック コイル、サンルーフ
14	20A	後部センター ドアのロック、燃料注入口フラップ コイル、トレーラー ソケット、テールゲートのセンター ドア ロック
15	20A	車内灯、ハンドセット レシーバー、荷室灯、リア ワイパー、サブウーファー、リア オーディオ システム
16	ー	不使用
17	10A	ブレーキ スイッチ、ヒーター、換気装置とエアコン、電子制御エア サスペンション スイッチ
18	ー	不使用
19	ー	不使用
20	30A	不使用
21	ー	不使用
22	30A	左／右フロント ドア（ウィンドウのみ）

このヒューズ ボックスには、予備ヒューズが5本(5A x1, 10A x1, 20A x1, 30A x2)入っています。

ヒューズ



エンジン ルームのヒューズ ボックス

⚠ 警告
● バッテリーは可燃性水素ガスを発生します。エンジン ルームには、火花や火気を近づけないでください。

ヒューズ23〜44（次ページのリスト参照）は、エンジン ルームのヒューズ ボックス内にあります。

カバーを取り外すには、ヒューズ ボックスの4つ全てのラッチ（カバーに一体成型されている）を矢印の方向に押してカバーを開け、3つのサイド ポストを外します。

カバーの裏にあるラベルに、ヒューズの規格が記されています。ヒューズの一覧表は次ページの通りです。

ヒューズの取り外し用の（赤い）ピンセットが備え付けられています。ヒューズを取り外すには、ヒューズの頭をピンセットで押して引き上げます。

カバーを取り付けるには、3つのサイド ポストをヒューズ ボックス内のスロットにはめこみます。カバーを閉めて、4 つのラッチを押しながら、カチッと音がするまでカバーを押し込んでください。

ヒューズ

ヒューズ No.	容量（アンペア）	作動しないユニット
23	10A	SRSエアバッグ
24	5A	アンチロック ブレーキ システム(ABS)と電子制御エア サスペンション
25	20A	フロント ワイパー
26	20A	エンジン マネージメント システム(EMS)
27	30A	アンチロック ブレーキ システム(ABS)
28	10A	不使用
29	20A	不使用
30	30A	フロント デフロスター
31	30A	エアコン
32	30A	フロント デフロスター
33	5A	診断機能
34	25A	ヒーター ブロワ
35	5A	不使用
36	30A	エアコン
37	20A	エンジン マネージメント システム(EMS)
38	10A	前照灯ウォッシャー
39	10A	燃料ポンプ
40	30A	不使用
41	20A	ホーン
42	10A	ヒーターと換気装置
43	25A	ヒーター ブロワ
44	10A	電子制御エア サスペンション

ヒューズ

予備ヒューズ(5A、10A、20A、25A、30A)

ヒューズ No.	容量（アンペア）	作動しないユニット
Maxi 1	60A	*
Maxi 2	30A	電子制御エア サスペンション
Maxi 3	40A	アンチロック ブレーキ システム(ABS)の油圧ポンプ
Maxi 4	60A	*
Maxi 5	60A	*

上記のどれかのヒューズがとぶと、すぐメッセージ センターにメッセージが表示されます。*印のヒューズはご自分で交換しないでください。ランドローバー特約販売店にお問い合せください。



アドバイス

- 同じ規格・タイプのヒューズと交換してください。
- ヒューズを交換する前には、ヒューズが切れた原因を取り除いてください。必要に応じて、ランドローバー特約販売店に依頼してください。

電球の交換

電球の交換	ワット数
前照灯ユニット 　前部車幅灯 　フロント方向指示灯 　内側前照灯 　前照灯	 5 21 55 60/55
フロント フォグ ランプ	55
リア クラスター（ランプユニット） 　方向指示灯 　尾灯 　制動灯	 21 5 21
テールゲート クラスター（ランプユニット） 　リア フォグ ランプ 　後退灯	 21 21
側面方向指示灯	5
足元灯	3
ナンバー プレート ライト	5
荷室灯	10
前部室内灯・読書灯 　室内灯 　読書灯	 10 5
後部室内灯・読書灯 　室内灯 　読書灯	 5 4
後部足元室内灯	5
バニティ ミラー灯	1.2
グローブボックス灯	5

知識

● どの電球も12ボルト用をお使いください。

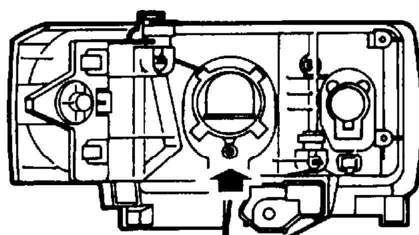
電球の交換

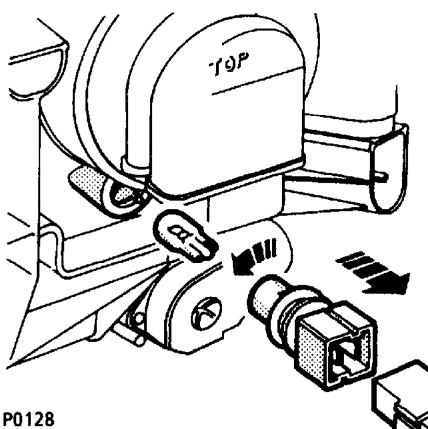
 アドバイス

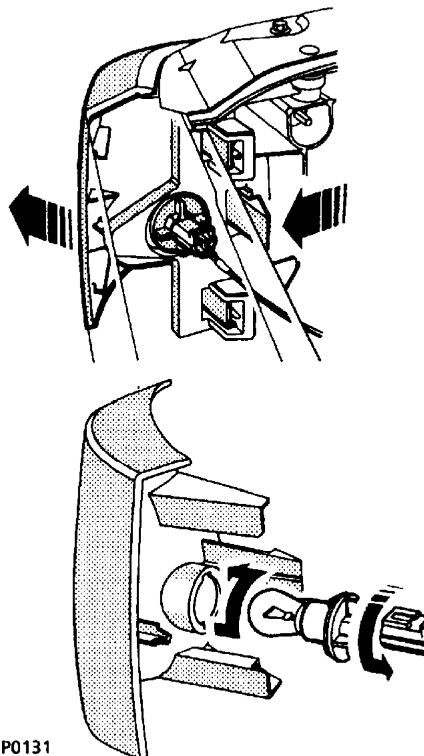
- 電球を交換する際には、ショートを起こす恐れがありますので、イグニッション スイッチとそれぞれに該当するライト スイッチは必ず切ってください。新しい電球を取り付ける際は、必ず、同種・同仕様の電球と交換してください。
- ハロゲン電球は前照灯、補助走行灯、フロント フォグ ランプに使用されています。この電球には指を触れないでください。扱う時は必ず布を使ってください。指紋を取りたい時は、メチル アルコールを使って電球を拭いてください。

車幅灯

電球の後部からプラグを引き抜きます。ホルダーを矢印の方向に回して緩め、電球を引き出してください。







フロント方向指示灯

右方向指示灯のバッテリ カバーを取ります。

両方の方向指示灯プラスチック レバー（一番上の図矢印）を押して、車の前部からライト ユニットを外します。ライト ユニットを持ち、電球ホルダーを回して引き抜きます（図下）。電球を押し回して外してください。

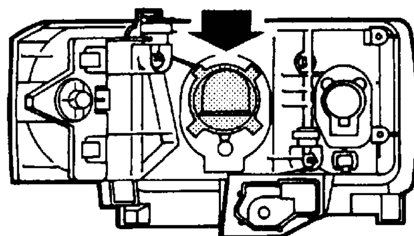
レンズの取り付けは、上記の逆の手順をたどります。運転の前に、ライト ユニットがフロント ボディ内に正しく取り付けられているか、プラスチック レバーがしっかりとロックされていることを確認してください。

電球の交換

前照灯（上向きおよび下向きビーム）

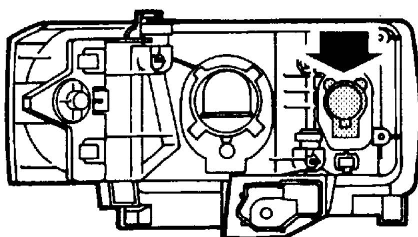
右側の前照灯を交換するためには、はじめにバッテリー カバーを外してください。

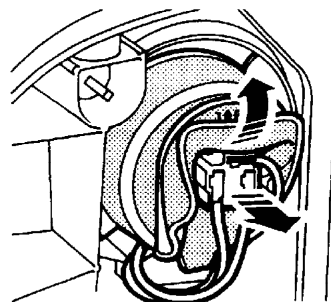
マルチプラグを引き抜いて、ゴム カバーを取り外してください（ゴム カバーには、交換のためのタブが4つ付いています）。スプリング クリップを図の矢印に沿って外し、電球を取り外してください。電球（上部の3つのタブ）とスプリング クリップを交換します。ゴム カバーを取り付けます。この際、3つのコネクターをカバーのスロットに通してください。次に、マルチプラグを差し込みます。

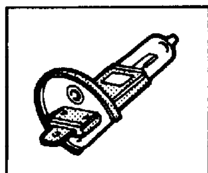


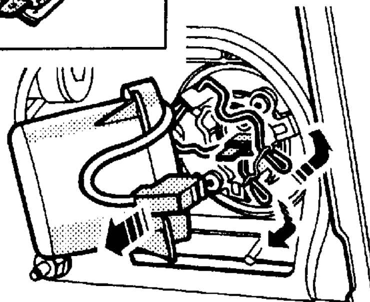
内側前照灯

ユニットの後方からプラスチック カバーを外し、スプリング クリップを図の矢印に沿って外します。そして、電球とコネクターを引き出します。電球を引き抜いてください。

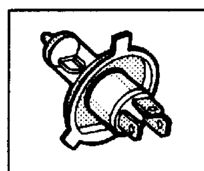


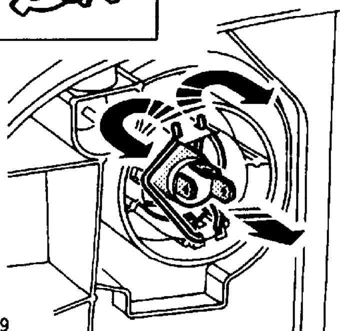






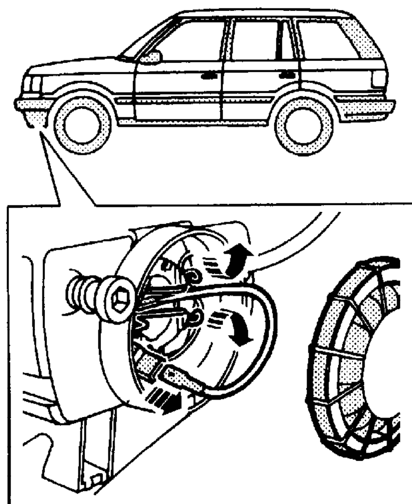
P0130





P0129

電球の交換



フロント フォグ ランプ（装着車のみ）

ライト ユニットの後部にあるプラスチック キャップを回します。スプリング クリップをつまんで、電球ホルダーを取り外してください。電球ホルダーのリード線コネクターを引き抜いてください。

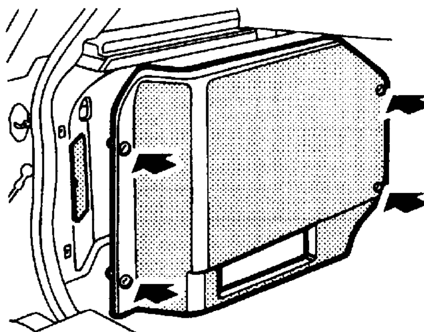
電球とホルダーを1つの部品として交換してください。

電球の交換

制動灯、方向指示灯、尾灯

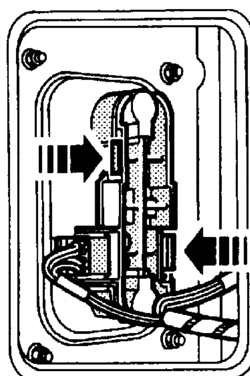

アドバイス

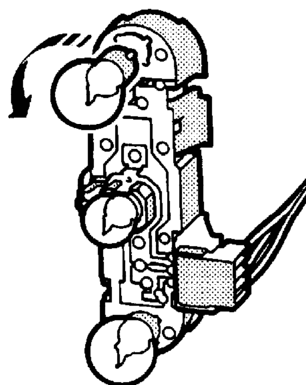
- CDオートチェンジャー装着車の場合、左側のクラスターにアクセスするために、4つのねじを緩めてリア トリム パネルを外してください。



ラッチを押してアクセス パネルを外します。次に、2つのクリップ（ライト ユニットの左右に1つずつあります）をつまんで、隙間からユニットを取り外してください。電球を押し回して外してください。

上：方向指示灯
中：尾灯
下：制動灯





P0138

電球の交換

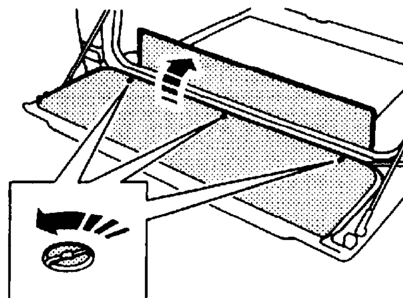
後退灯とリア フォグ ランプ

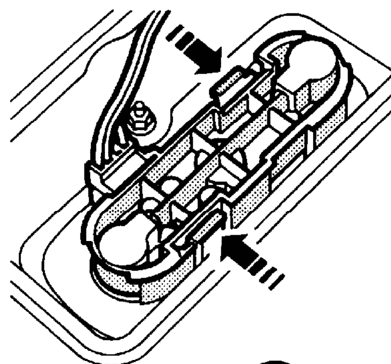
テールゲートを開け、プラスチック ヒンジ カバーを持ち上げます。3つのねじが見えます。ねじを1/4回転ほど回して緩め、テールゲート トリム パネルを外します。

左右に1つずつあるレバーを図の矢印の方向につまんで、どちらかのライト ユニットを外します。電球を押し回して外してください。

上：後退灯

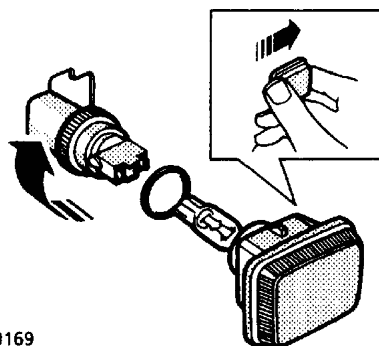
下：リア フォグ ランプ

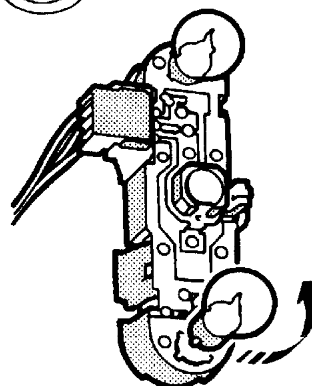




側面方向指示灯

レンズを右側にスライドさせ、ボディからライト ユニットを外します。電球ホルダーを回して緩め、電球を引き抜いてください。


P0169

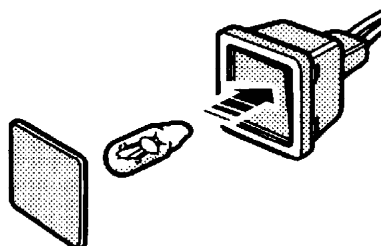

P0137

電球の交換

足元灯

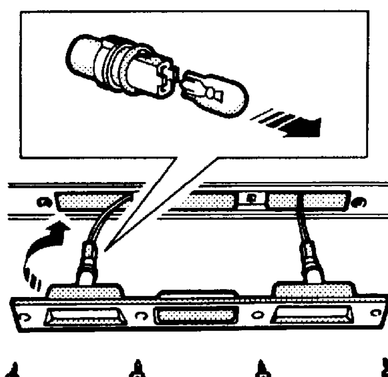
プラスチック工具を使用して、ドアからライト ユニットをこじり出します（リード線の限度寸前までユニットを外に出してください）。ライト ユニットからレンズを取り出します。電球をホルダーから引き抜きます。

レンズをライト ユニットに取り付け、ドアに戻します。


P0139

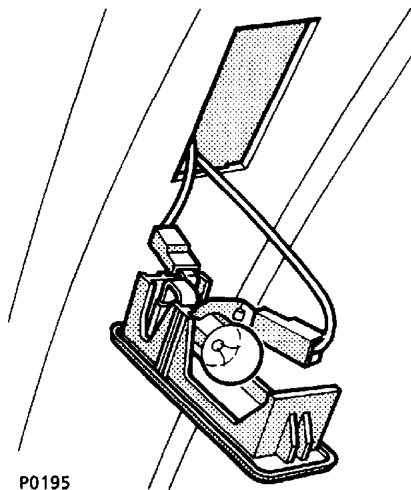
ナンバー プレート ライト

上部テールゲートを開きます。ねじを外して、ライト ユニットを取り外します。電球ホルダーを回して緩め、電球を引き抜いてください。


P0164

荷室灯

ライト アッセンブリーをどちらかの方向に押して、上部テールゲートから取り外してください。電球を押し回して外してください。

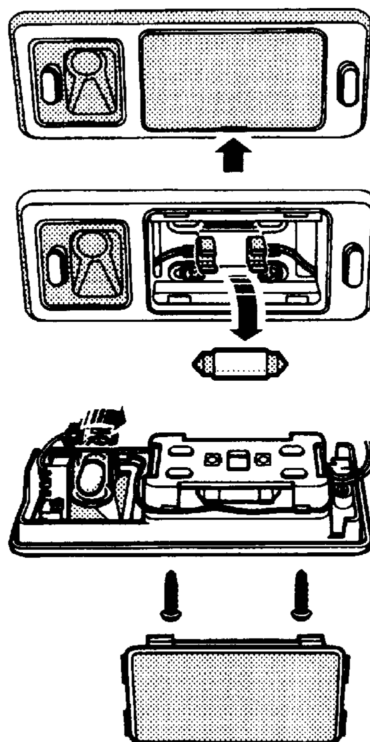

P0195

電球の交換

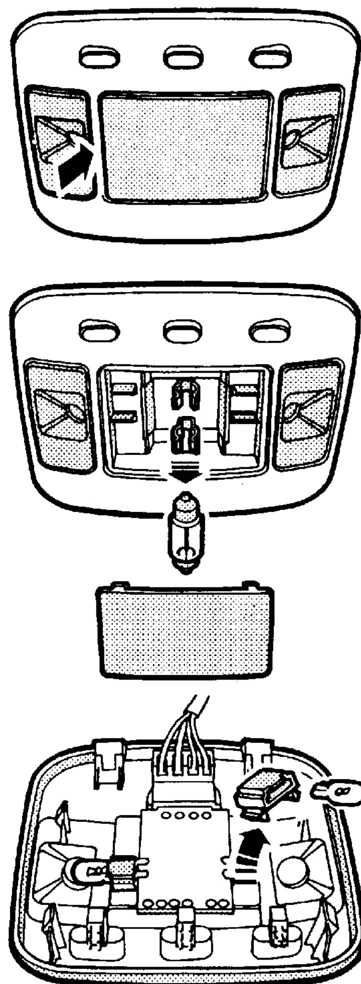
前部室内灯・読書灯（図 P0140）

室内灯の電球：てこ作用でライト ユニットからセンター　レンズを取り外し、クリップから電球を引き出してください。

読書灯の電球：てこ作用で天井内張から室内灯ユニットを取り外し、電球を引き出してください。



P0141



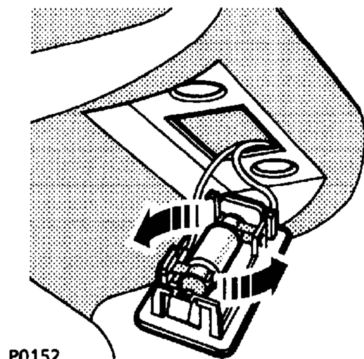
P0140

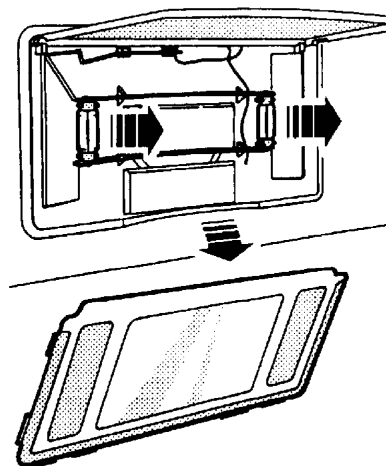
後部室内灯・読書灯（図 P0141）

後部室内灯の電球室内灯ユニットからレンズを取り出し、電球を引き出します。

後部読書灯の電球室内灯ユニットからレンズを取り出します。2つの取り付けねじを緩め、ユニットを天井から取り外します。電球はユニットの後方から取り外します。

電球の交換





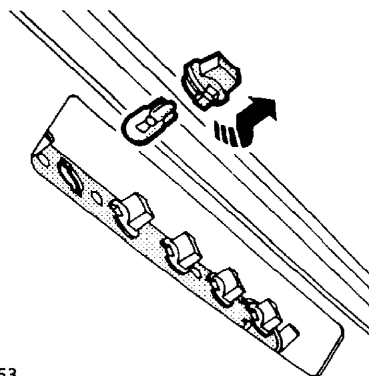
リア足元灯

センター コンソールの後方からレンズとホルダーのアッセンブリーを取り出し、クリップから電球を外します。

電球を交換して、アッセンブリーをセンター コンソールに取り付けてください。

ハイ マウント制動灯

アッパー テールゲートの内側からライト カバーを外してください。電球ホルダーを回して外し、電球を引っ張って取り外してください。

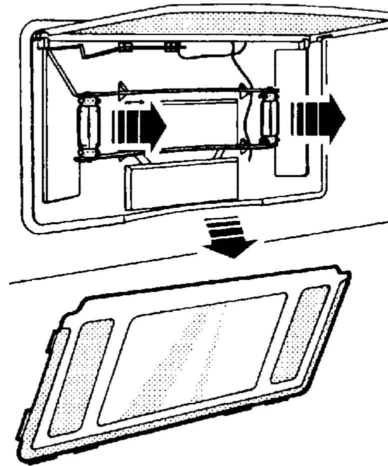


電球の交換

バニティ ミラー灯

小型のマイナス ドライバー(左右の角 … 蝶つがいのすぐ下）をてこにして、ライト ユニットからレンズとミラー パネルを取り外します。コネクターから電球を取り外してください。

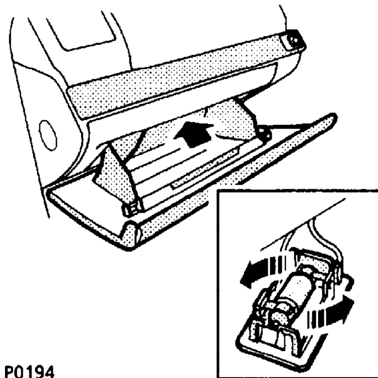
電球を交換し、レンズとミラー パネルをサン バイザーに取り付けます。


P0191

グローブボックス灯

グローブボックスの上端の下側からアッセンブリーを取り出し、ホルダーから電球を取り外してください。

電球を交換し、アッセンブリーを取り付けてください。


P0194

知識

● グローブ ボックス灯は、車幅灯が点灯している時だけ点灯します。

車の清掃とお手入れ

洗車

大量の冷水または温水にカーシャンプーを入れ、スポンジを使って洗車してください。洗車後は洗剤を洗い流し、セーム革で拭いてください。

- 熱湯は使用しないでください。
- 中性洗剤や家庭用洗剤は使用しないでください。

冬に塩が散布された道路を走行した後は、ホースを使って車の下まわりを洗ってください。特にホイールアーチとパネル シーム（つなぎ目）には注意してください。また、泥はよく落としてください。

オフロード走行またはぬかるみや海水の中を走行した後も、同様に下まわりの部品や車の外から見える部分をホースを使って洗ってください。

ホースを使用する時は、ヒーターの空気取り入れ口に水を直接かけないでください。また、ホイール トリムの開口部からブレーキ部品に水がかからないように注意してください。シールから水が入ることもありますので、ドア、ウィンドウ、サンルーフの開閉部にも水をかけないでください。

注意

- 排気管の先端は鋭利になっており、触るとケガをする可能性がありますので十分注意してください。
- ヒーターの空気取入口、ボディとサンルーフのシール、および損傷しやすい部品には決して直接水をかけないでください。



アドバイス

- ガソリン スタンド等で使用されている洗車機によっては、非常に高圧のウォーター ジェットを使っているものもあります。このウォーター ジェットは、ドアまたはウィンドウ シールに入り込むほど強力で、モール類やロック機構に損傷を与えることもあります。ウォーター ジェットを直接壊れやすい部品に向けないように注意してください。

タール汚れの除去

塗装面のタール汚れや頑固なグリース汚れ等は、揮発油を使って拭き取ってください。

汚れを落とした後は、すぐに水で揮発油を洗い流してください。

車体の保護

洗車後は、塗装面に傷がないか点検してください。傷がある場合には、タッチアップ塗料で補修して、錆を防いでください。必要に応じて、ワックスを塗って塗装面を保護してください。

車の清掃とお手入れ



アドバイス

- バンパーにはワックスを塗らないでください。ワックスが仕上面にしみつくことがあります。

ガラスとミラー

熱線を損傷させないために、後面ガラスは柔らかな布で拭いてください。ガラス面を擦ったり、研磨剤入りの洗剤を使ったりしないでください。

ミラーは特に傷つきやすいので、研磨剤入りの洗剤を使ったり、金属製のへらで擦ったりしないでください。

内装のお手入れ

プラスチックや布で覆われた部分の汚れは、薄めた内張用クリーナーで拭いてください。

レザーシート、ステアリング ホイール、トリムは、薄めた内張用クリーナーを布に浸して拭いてください。

清掃後は5分ほど放置して、きれいな布と水でもう一度清掃してください。ただし、水をつけすぎないように注意してください。レザーは乾かして、糸くずの付いていない布で拭きます。

ガソリン、洗剤、家具用クリームやポリッシャーは使用しないでください。

計器パネル、時計、ラジオ

乾いた布で拭いてください。洗剤やスプレーは使用しないでください。

シート ベルト

ベルトを伸ばし、温水と中性洗剤を使用して汚れを落とします。自然乾燥させて、完全に乾くまでは収納しないでください。

SRSエアバッグ

エアバッグの損傷を防ぐために、ステアリング ホイールのセンター パッドと助手席のエアバッグを含むフェイシアは、内張用クリーナーを少量だけ浸した布で拭いてください。この部分には液を付けすぎないようにしてください。ガソリン、洗剤、家具用のクリーナーやポリッシャーは使用しないでください。

第 5 章　テクニカル データとサービス データ

目　次　　ページ

テクニカル データ

推奨オイル、潤滑油、液

すべての天候と運転状況に推奨されるもの

部品/サービス分類 仕様	SAE	周囲の温度（˚C） -30 -20 -10 0 10 20 30 40 50
エンジン オイル パン		
オイルの条件	5W/30	
RES22.OL.G4 または、	5W/40、5W/50	
ACEA A2：96 または、	10W/30	
APIサービス レベル SG	10W/40	
または SH	10W/50	
	10W/60	
オートマチック ギアボックス		
ATF Dexron IID		
トランスファー ギアボックス		
ATF Dexron IID		
ファイナル ドライブ ユニット		
MIL-L-2105 または	90W EP	
MIL-L-2105B、C または D	80W EP	
パワー ステアリング		
ATF Dexron IID または Texmatic 9226		

ブレーキ液

ユニバーサル ブレーキ オイルまたは最低沸騰点が260℃の FMVSS 116 DOT 4 に適合するブレーキ オイル

ウィンドウ ウォッシャー

ウィンドウ ウォッシャー液

エンジン冷却システム

アルミ製エンジンに適した非リン酸腐食防止剤の入ったエチレン グリコール系クーラント（メタノールを含まない）。混合比1:1 の混合液の比重は、1.075(温度20℃)です。また-36℃までは凍結しないもの。

慣性リール シート ベルト

注油しないでください。製造工程で処理済みです。

バッテリー端子

石油ゼリー。シリコン グリースは使用しないでください。

ドア ロック

通常のサービス周期で FUCHS RENOCAL FN745 を使用してください。

テクニカル データ

容量

次の容量はあくまでも目安です。オイル レベルは、レベル ゲージまたはレベル プラグを使って点検してください。

燃料タンク ....100 リットル

エンジン オイルパン（オイルフィルターを含む）.............. 6.6 リットル

オートマチック ギアボックス

V8i 4.0リッター ガソリン モデル .... 9.7 リットル

V8i 4.6リッター ガソリン モデル .... 11 リットル

トランスファー ギアボックス .... 2.3 リットル

フロント デファレンシャル .... 1.7 リットル

リア デファレンシャル... 1.7 リットル

冷却システム... 12.2 リットル

ウィンドウ ウォッシャー液のリザーバー ....6 リットル

テクニカル データ

エンジン

4.0リッター ガソリン車

ボア.. 94.0 mm

ストローク ....71.1 mm

シリンダ数 8

圧縮比

ハイ コンプレッション 9.35:1

シリンダ容量..3947 cc

スパーク プラグのタイプ...Champion RN11YCC

スパーク プラグのギャップ ....0.90 ～1.00 mm

タペット .... 油圧式（自動調整式）

回転数リミッタ（燃料供給停止点）..............................5,500回転/分

4.6リッター ガソリン車

ボア...94.0 mm

ストローク ....82.0 mm

シリンダ数 8

圧縮比

ハイ コンプレッション...9.35:1

シリンダ容量..4552 cc

スパーク プラグのタイプ...Champion RN11YCC

スパーク プラグのギャップ ....0.90 ～1.00 mm

タペット .... 油圧式（自動調整式）

回転数リミッタ（燃料供給停止点）..............................5,500回転/分

テクニカル データ

ステアリング（ロック ツー ロック）

ステアリング ホイールの回転

（ロック ツー ロック）.. 3.2回転

キャンパー角（空車状態）................................ 0°

キャスター角（空車状態）................................ 4°

スイベル ピン傾斜角.. 8°

フロント ホイール トーイン............................ 0.60 mm～1.80 mm

最小回転直径... 11.89 m

電気システム

タイプ...マイナス アース

電圧.. 12V

バッテリ .... type 072 (72 A/時)

充電装置 .... オルタネーター

イグニション システム...................................... 電子制御式　EMS（エレクトロニカリ プログラムド　マネージメント システム）

寸法

全長（バンパーからバンパーまで）................ 4715 mm

全長（トーバー含む）.. 4804 mm

全幅（ドア ミラーを除く）.............................. 1890 mm

全高（車高「STANDARD」）............................ 1810 mm

ホイールベース.. 2740 mm

トレッド　ーフロント.. 1540 mm

　　　　　ーリア .... 1530 mm

アプローチ、デパーチャー、ブレイクオーバー　各アングル

注：235/70 x 16または255/65 x 16タイヤ装着時（EEC装備重量）の車高の値。

アプローチ アングル (前オーバー ハング角)

	CRAWL & ACCESS (クロールおよびアクセス)	LOW（低）	STANDARD（標準）	HIGH（高）
フロント スポイラー*	24 °	28 °	31 °	34 °
バンパー	28 °	32 °	34 °	38 °

* 苛酷なオフロード走行の際には、フロント スポイラーを取り外すことをお勧めします。

デパーチャー アングル（後オーバー ハング角）

	CRAWL & ACCESS (クロールおよびアクセス)	LOW（低）	STANDARD（標準）	HIGH（高）
クロスメンバー	24 °	27 °	29 °	32 °

ブレークオーバー アングル

	CRAWL & ACCESS (クロールおよびアクセス)	LOW（低）	STANDARD（標準）	HIGH（高）
	160 °	156 °	154 °	151 °

テクニカル データ

重量（空車）

	4.0リッター ガソリン車	4.6リッターガソリン車
前軸重量	1130kg	1180kg
後軸重量	940kg	970kg
車両重量	2070kg	2150kg

燃料

ガソリン（最低要件）
95RON無鉛

ホイール

ホイール ナット締付トルク .... 108Nm　80ft.lb
ホイール サイズ .... 7J x16(235/70タイヤ)
8J x16(235/65タイヤ)
8J x18(255/55タイヤ)

ホイールとタイヤ

	前輪	後輪
235/70 x 16 ラジアル		
あらゆる道路状況で	2.0 kgf/cm²	2.7 kgf/cm²
255/55 x 16 ラジアル		
あらゆる道路状況で	2.0 kgf/cm²	2.7 kgf/cm²



アドバイス

- 運転による温度の上昇で、タイヤの空気圧は約0.2kgf/cm²ほど高くなりますので、タイヤ空気圧を調べる場合は、タイヤが冷えてから実施してください。直射日光や高温の場所に駐車していた場合は、タイヤ空気圧を下げずに、車を日陰に移動し、タイヤが冷えるのを待って点検を行うようにしてください。

サービス データ

型式

4.0リッター ガソリン車.. E-LP42D
4.6リッター ガソリン車.. E-LP46D

かじ取り装置

ステアリング

遊び

遊びは直進状態にてホイール外周で .... 20〜30mm

ホイール アライメント

トーイン ....0.60〜1.80mm
キャンバー ....0°00±1°
キャスター .... 4°00±0.5°

制動装置

ブレーキペダル

遊び.. 1〜5mm
床板とのすき間

踏力40kgで踏込時床板とのすき間.................................. 80mm以上

ブレーキのきき具合

左右和..検査時軸重の10%以上（後軸）
左右差.. 検査軸重の8%以下
総和.. 検査時車両重量の50%以上

駐車ブレーキ レバー

引きしろ

操作力20kgの時　引きしろ.. 3ノッチ

駐車ブレーキのきき具合

制動力.. 検査時車両重量の20%以上

リザーバー タンク

液量.................................... 液面レベル：「MAX」と「MIN」の間にあること

ライニングの摩耗

使用限度 20mm

ドラムの摩耗

使用限度 254mm

サービス データ

走行装置

タイヤサイズ 235/70R16, 255/65R16, 255/55R18

タイヤの空気圧

前輪..2.0kg/cm^2

後輪..2.7kg/cm^2

タイヤ溝の深さ.. 残溝　1.6mm

ホイール

ホイール ナットの締付トルク ....12.4〜13.1kgm

フロント ホイール ベアリングのがた ....0〜0.1mm

リア ホイール ベアリングのがた......................................0〜0.1mm

動力伝達装置

トランスミッション

油量............................. レベルゲージの「MAX」と「MIN」の間にあること

デファレンシャル

油量....................................フィラー ボルト穴下面と同一レベルにあること

電気装置

点火装置

プラグ ギャップ ....0.90〜1.00mm

点火時期 ....自動調整

バッテリー

液量.. 上限〜下限間にあること

比重.. 液温20℃の時比重　1.270〜1.290

原動機

潤滑装置

油量................................レベル ゲージ「MAX」と「MIN」の間にあること

冷却装置

水量..................... リザーバー タンクの「MAX」と「MIN」の間にあること

第 6 章　パーツとアクセサリー

目　次　ページ

パーツとアクセサリー

パーツとアクセサリー

この車はどんな苛酷な運転状況にも対応するように設計・製造されています。したがって、その信頼性、安全性、性能を維持するためには、同一の厳格な基準に基づいて開発・試験されたパーツとアクセサリーを使用することが大切です。

レンジローバーの能力を最大限に発揮させるために、多種多様なスペア パーツとアクセサリーが用意されています。これらのパーツとアクセサリーを使用すれば、さまざまな状況下で車の性能アップや保護が可能となります。

ランドローバーの純正部品はどれも基本仕様に基づいて設計・製造され、厳しい品質テストに合格したものです。走行距離に関係なく、12か月間の保証を受けることができます。

パーツとアクセサリーのリストについては、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。パーツとアクセサリーを取り付ける際には、承認、適合性、取り付け、使用法について事前にランドローバー特約販売店にお問い合せください。

⚠ 注意

- 認定品以外のパーツやアクセサリーを取り付けたり、ローバーの認めていない変更や改造を行われると、車両、あるいは同乗者の安全性に影響する場合があります。このような場合は、車両保証の対象外となります。

電装品

⚠ 注意

- パーツやアクセサリーの取り付けにおいて、電気システムまたは燃料システムの分解や取り付け作業はたいへん危険です。
- SRSエアバッグ装着車の場合、アクセサリーを取り付ける前に必ずランドローバー特約販売店にお問い合せください。
- 品質の劣るパーツやアクセサリーを取り付けると、危険なばかりでなく、保証を受けられないことがあります。

パーツとアクセサリー

アフターサービス

ランドローバーは販売だけでなく、アフターサービスも大切な業務の一つと考えております。全国の全てのランドローバー特約販売店はコンピュータにより接続され、パーツとアクセサリーのご注文に迅速に対応します。

さらに、ランドローバーは100か国以上に代理店を設置しております。世界中どこでもランドローバーのサービスを受けることができます。ランドローバー特約販売店の一覧は、「セールス サービス ネットワーク」を参照してください。ランドローバーの厳格な安全性、耐久性、性能の基準を満たすパーツとアクセサリーを提供できるのは、ランドローバー特約販売店だけです。

海外での運転

国によっては、メーカ仕様に適合しないパーツを取り付けると違法になります。

海外での使用中に取り付けたパーツやアクセサリーが、日本に持ち帰った時に違法にならないことを確認してからお持ち帰りください。

第 7 章　オフロード走行

目　次　ページ

この章では、レンジローバーのオフロード走行性能について説明します。オフロード走行に入る前に、経験の浅いドライバーは特にトランスファー ギアボックスについて熟知してください。また、この後のオフロード走行テクニックの説明をよくお読みください。

オフロード走行



● オフロード走行は危険を伴うものです。

● 不要な危険を冒さないようにしましょう。

● 常に緊急事態に備えましょう。

● お客様自身に対する危険、お客様の車に対する危険、そして同乗者に対する危険を最小限にするために、ここでお勧めするドライブ テクニックに慣れ親しんでください。

● 激しいオフロード走行または水路走行をする時は、CDオート チェンジャーを装備している車は故障の原因となるので取り外してください。

● 常にシートベルトを装着してください。

● 燃料が少ない時に、起伏の激しいところや、険しい坂道等を走行しないでください。エンジンへの燃料が不足し、触媒コンバーターが損傷する原因となります。

基本的なオフロード走行テクニック

ここで説明する基本テクニックは、オフロード走行の基礎となるものです。ただし、ひとつひとつのオフロード走行テクニックについては説明しません。

ひんぱんにオフロード走行をする場合には、できるだけ多くの知識を蓄え、実地の運転経験を積んでください。

ギアの選択

シフト レバーを「D」に入れておけば、現在のギア レンジ（「HIGH」または「LOW」）に合った適正ギアが自動的に選択されます。「1」に入れると1速に保たれ、エンジン ブレーキがもっともよくききます。

できるだけ「HIGH」レンジを使うことをお勧めします。路面の状況が悪い時だけ「LOW」レンジに切り替えてください。

各々のホイールのコントロールされないスピン（空転）は、センター デファレンシャルに接続されたビスカス カップリング装置によって、制限されます。

ブレーキ

車の速度は、できるだけ適切なギア選択により調整してください。

ブレーキ ペダルはなるべく踏まなようにしてください。濡れた路面、泥道、ゆるんだ路面での急ブレーキは、非常に危険です。

オフロード走行

知識

● ギアの選択が正しければ、たいていの場合ブレーキをかける必要はありません。

エンジン ブレーキの使い方

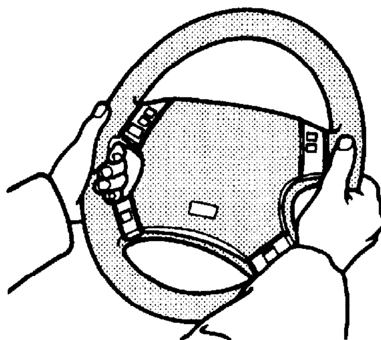
急な坂を降りる時、坂の始まる手前（少なくとも車の長さ分だけ手前）に止め、シフト レバーを「N」に入れ、シフト レバーのキャッチをもう一段強く握り、「Hゲート」の「LOW」レンジに入れます。傾斜によってシフト レバーを「 」または「2」に入れます。

ゆっくり坂に接近し、坂を降り始めたら、降りる速度に合わせてエンジン ブレーキがかかりますので、ブレーキ ペダルは踏まないでください。

加速

アクセル ペダルを踏む時は注意してください。急加速すると、ホイールが空転して車のコントロールが効かなくなります。

ステアリング



P0168

注意

● 親指をホイールの輪の中に入れてステアリング ホイールを握らないでください。轍や石の上を通り抜ける時、急激にホイールが跳ね返り親指を負傷させることがあります。でこぼこな地面を横切る場合はホイールの外側を握ってください（図参照）。

オフロード走行

走行前の路面状況の点検

悪路走行の際には、事前に歩いて路面を点検することをお勧めします。これにより、予期できない事故を未然に防ぐことができます。

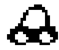
ロード クリアランス

フロント スポイラー装着車の場合、苛酷なオフロード走行を行なう前に、フロント バンパーからフロント スポイラーを取り外してください。

シャシーの下、およびフロント バンパーとリア バンパーの下の隙間を必ず確認してください。デファレンシャル ギアがシャシーの下にあり、車の中心よりも少しだけ左によっていることを確認してください。この他にも地面と接する部品がありますので、車の腹部を地面にこすらないように注意してください。

急な坂の下、深いわだち、傾斜が急に変わる所では、地面との隙間に特に注意してください。

柔らかい路面を走行する時は、路面状態が特に悪くない限り、通常はデファレンシャルが地面に触れることはありません。しかし、凍結した路面、石の多い場所、固い路面では、シャシーが地面に触れて車が止った場合に車高が自動的に「エクステンド モード」まで上がります（詳しくは、「電子制御エア サスペンション」の項をご覧ください）。

 アドバイス

● シャシーやデファレンシャルに触れる可能性のある障害物は避けてください。

トラクションを失った時（ホイールの空転）

トラクションを失い（ホイールの空転によって）車が動かなくなった場合には、次の注意点を守ってください。

- 長時間ホイールを空転させないでください。事態は悪くなる一方です。電子制御トランクション コントロール システム(ETC)により、後輪の空転を止め、空転している一方のホイールへの駆動力が他方のホイールに伝わり、難しい運転状況をクリアするために必要なトラクションが得られます。
- 障害物がある場合、その上を無理に越えようとせず、できれば取り除いてください。
- タイヤの溝に入り込んだ石やゴミは取り除いてください。
- できるだけ後退してから加速すると、車の慣性を利用して障害物を乗り越えられることがあります。
- 木の枝や麻袋などをタイヤの前に置くと、タイヤのグリップが良くなります。

オフロード走行



オフロード走行後の点検

公道に戻る前、または40 km/hを超える速度で走る前には、次の注意を守ってください。

- ホイールとタイヤに付いた泥はよく落として、異常がないか点検してください。タイヤに脹らみや剥がれがないか、層（プライ）またはコード構造が露出していないかどうかを確認してください。
- ブレーキ ディスクとキャリパーを点検して、ブレーキ性能に影響する石や砂は取り除いてください。

点検の必要性

- 苛酷な条件下（特にほこりっぽい場所、泥の中、濡れた路面）を走行した時、またはたびたび水路走行を行なった場合には、点検の回数を増やしてください。「メンテナンス」の項を参照してください。詳しくは、ランドローバー特約販売店にお問い合せください。
- 塩水に浸ったり、砂浜を走行した後は車両の下まわりや露出しているボディ パネルを真水を使ってすみずみまで洗い流してください。これによって外装を保護することができます。

オフロード走行

柔らかい地面や乾いた砂地での走行

柔らかい地面や乾いた砂地の運転では、常に車を動かし続けることが大切です。このような地面ではホイールに思いのほか大きな抵抗が加わっているので、わずかなきっかけで車が止ってしまいます。ギアシフトチェンジは行なわないでください。

地面が柔らかいうちは、できるだけ高いギアを選んで走行してください。通常は、「LOW」レンジを使用することをお勧めします。その理由は、「LOW」レンジでは悪条件でも車を加速することができ、再発進できなくなる危険性を少なくするからです。

柔らかい地面、砂地、傾斜地での車の止め方

車を止めたら、次の点に注意してください。傾斜地（上り坂）、柔らかい地面、砂地からの発進はほとんど不可能です。車を止める際には、固くて平らな場所を選ぶか、前を谷側に向けてください。

ホイールの空転を避けるために、2速または3速を選択し、車が止らない程度に、できるだけアクセルペダルを踏み込みを最小限にしてください。ギアは「D」（または「LOW」レンジで「4」）を選んでください。「LOW」レンジでは、MANUALモードを選んでください（詳しくは、「オートマチック ギアボックス」の項をご覧ください）。

車が前進しなくなった場合には、アクセルを踏みすぎないようにしてください。踏みすぎますと、ホイールが空転して砂に埋まってしまいます。タイヤの砂を落として、シャシーや車軸が砂に載っていないこと（触れていないこと）を確かめてから動かしてください。

ホイールが砂に埋まった場合には、エアー バッグ リフト装置またはハイ リフト ジャックを使って車を持ち上げ、車が水平になるまでタイヤの下に砂を入れてください。車を発進できない場合には、砂袋または梯子をタイヤの下に置いてください。

滑りやすい路面での走行（氷、雪、泥、湿った草）

できるだけ高いギアを選んでください。「HIGH」レンジでは「D」（「LOW」レンジでは「4」）を選んでください。「LOW」レンジでは、MANUALモードを選んでください（詳しくは、「オートマチック ギアボックス」の項をご覧ください）。

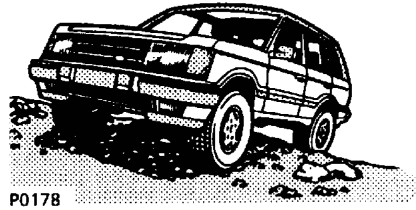
アクセルの踏み込みは、できるだけ最小限で走行し、常に低速で運転してください。ブレーキはなるべく使わず、急なステアリング操作も避けてください。

荒れた路面の走行

荒れた路面では、「LOW」レンジに切り替えます。ブレーキ ペダルを頻繁に踏まないようにして、低速を保ってください。

オフロード走行

急坂の登り方



必ずまっすぐに登ってください。斜めに登ると車が横滑りすることがあります。

通常は「LOW」レンジに切り替えてください。地面が柔らかい時や滑りやすい時は、できるだけ高いギアで十分に加速し、慣性を利用して一気に登ってください。ただし、でこぼこの坂を登る時に速度を上げすぎると、タイヤが地面から離れ、トラクションを失い車が止ってしまうことがあります。このような場合には、速度を下げてもう一度やり直してください。車輪がトラクションを失う直前にアクセルをゆるめると、トラクションが回復します。

坂を登りきれない時、坂の途中で方向転換しないでください。次の手順に従って、坂の下までバックしてください。

1. フット ブレーキと駐車ブレーキの両方を使って車を停止させます。
2. 必要ならエンジンをかけ直します。
3. 「LOW」レンジで「R」ギアに入れます。
4. 駐車ブレーキを解除します。フット ブレーキをゆるめると同時に、エンジン ブレーキを使いながら、ゆっくりと後退します。
5. 障害物を避けるために止る場合は別ですが、坂を下っている途中でブレーキ ペダルを踏まないでください。
6. 車が滑りだしたら、少しだけ加速してタイヤのグリップを回復してください。

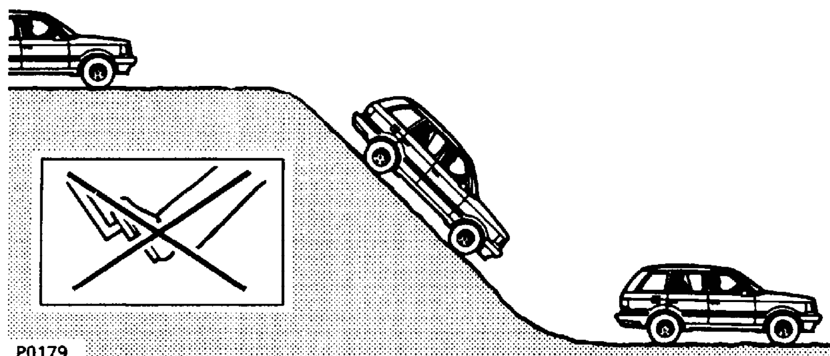
坂の下の平地まで下りるか、トラクションが回復した場合には、先ほどよりも速い速度でもう一度やり直せば、坂を登り切ることができます。ただし、坂が非常に急な時は必要以上の危険をおかさないようにしてください。その場合は、迂回ルートを探してください。



- 坂をバックで下る前に、必ずエンジンが回転している状態にしてください。エンジンが止っていると、エンジン ブレーキがかかりません。

オフロード走行

急坂の降り方



A. 坂の始まる手前（少なくとも車の長さ分だけ手前）で車を止め、「LOW」レンジの「」に切り替えます。

B. 障害物を避けるために止る場合は別ですが、坂を下っている途中でブレーキ ペダルを踏まないでください。速度の調整には、エンジン ブレーキを使ってください。前輪が回転している限り、車を完全にコントロールすることができます。車が滑りだしたら、少しだけ加速して方向安定性を保ってください。ブレーキを使ったり、ギアチェンジをしたりしないでください。

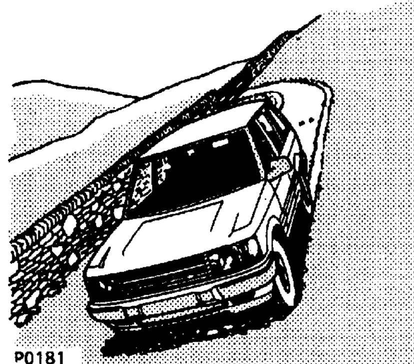
C. 平地まで下ったら、次の段階に適したギアに切り替えてください。

⚠ 警告
● 上記の注意が守られなかった場合、車が転倒する可能性があります。

オフロード走行

坂を横切る

坂を横切る場合には、次の注意を守ってください。



- 地面がしっかりしていることと、滑らないことを確認します。
- 谷側の車輪がくぼみに落ちないように注意してください。また、山側の車輪が石や木の根などを踏んで、車が急に傾きを増したりししないように注意してください。
- 同乗者の体重が均等に配分されていること、ルーフ ラックに荷物が積まれていないこと、全ての荷物ができるだけ低い位置に固定・収納されていることを確認してください。荷重が急に動くと、車が転倒することがあります。
- 後席シートの同乗者はできるだけ山側に座らせてください。必要ならば、坂を安全に下り終わるまで車から降りてもらってください。

V 字形の路面の走行

車輪を片方の壁側に上げて走行すると、反対側の壁に車の側面がぶつかることがありますので注意してください。

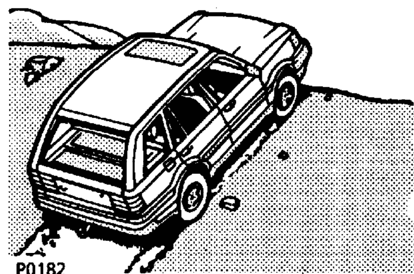
わだちのある路面の走行

できるだけわだちに沿って走行するようにしてください。ただし、ステアリング ホイールはしっかりと握って、勝手に回転しないようにしてください。

特に濡れた路面では、車はわだちに沿って直進しているようにみえても、ステアリング ホイールが勝手に回転すると、（路面が濡れているためにトラクションがなくなり）溝に引き込まれることがあります。また、平坦な路面に戻った時、またはタイヤが乾いた路面にのった時に、トラクションが回復して急にわきにそれることがあります。

オフロード走行

尾根を横切る



尾根に対して直角に入り、左右の前輪が同時に稜線を越えるように運転します。もし尾根に対して斜めに入ると、どちらかの前輪が稜線を越えた時に、その対角にある後輪が浮いてトラクションを失います。

溝を横切る

1つの車輪が溝に入っても、残りの3つの車輪が溝の外にあるような角度で進入してください（溝に対して直角に入ると、左右の前輪が同時に溝にはまり、シャシーやフロント バンパーが溝の壁に当って身動きがとれなくなります）。

水路走行

 アドバイス

- 走行可能な水深は50 cmまでです。
  ドアの敷居（ステップ）より上まで浸水したままでいると、電気システムの重大な故障の原因となります。

水路走行の前に、電子制御エア サスペンションが「STANDARD」または「HIGH」にセットされていることを確認してください。

走行中に水深が50 cmを超える場合には、次の注意点を守ってください。

- エンジンの浸水やラジエーターへの泥詰りを防ぐために、ラジエーター グリルの前にビニール シートを取り付けます。
- 水中の沈泥状況が頑丈で、車重を支え、十分なトラクションが得られることを事前に確認します。
- 車高は「HIGH」を選びます。
- エンジンの空気取り入れ口が水面よりも上にあることを確認します。
- 1速に入れて、エンジンが止らないように十分にアクセルを踏みます。排気管が水中にある時は特に重要です。
- ゆっくりと進入し、船首波が立つ程度の速度まで上げ、その速度を保ちます。

ドアは常に完全に閉めておいてください。

オフロード走行

水路走行の後にすること

短時間走行し、フット ブレーキが完全に作動することを確かめてください。

駐車する際、ブレーキが完全に乾くまでは、駐車ブレーキだけに頼らず、輪止めを固定するか、ギアを入れたままにしてください。

ラジエーター グリルから保護シートを取り外してください。

特に泥が多い場合には、ラジエーターとオイルクーラー（左側のスポイラー後ろ）に詰った泥や木の葉を取り除いてください。そのままにしておきますと、オーバーヒートを起こす可能性があります。

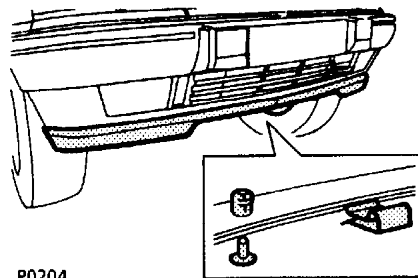
日常的に深い水路を走行する場合には、ギアボックスのオイルに水が混入していないかどうかを点検してください。オイルに水が混入すると乳濁色になります。さらに、エアフィルターのエレメントに水が入っていないか点検します。濡れている時は交換してください。

水路走行が頻繁な場合と深い水路を走行した場合には、点検の回数を増やしてください。点検については、「メンテナンス」の項をご覧ください。また、詳しくはランドローバー特約販売店にお問い合せください。

頻繁に塩水に浸る場合は車両下まわりの部品と露出しているボディ パネルを真水で洗い流してください。

フロント スポイラー

フロント スポイラーをフロント バンパーに取り付けると、通常走行での空気の流れを改善することができます。苛酷なオフロード走行を計画している場合には、あらかじめフロント スポイラーは取り外してください。



フロント スポイラーは、2個の部品から構成され、6個のスプリング クリップと8個のプラスチック リベットを使用して、フロント バンパーの下に取り付けることができます。

取り外し方

ドライバーを使って、内側の固定ピンをスタッドから取り外し、続いてスタッドを取り外します。

フロント スポイラーに沿ってスプリング クリップを滑らせ、スポイラーを2つに分離します。全ての部品を適切な容器に入れてください。

取り付け方

フロント スポイラーの片側半分をフロント バンパーの下に置き、4つのスタッドと固定ピンを取り付け、3つのスプリング クリップを取り付けます。

フロント スポイラーの反対側半分を噛み合わせ、残りのスタッドとスプリング クリップを取り付けます。固定ピンがスタッドにはまっていることを確認してください。

チェーン

オフロード走行には、チェーンの使用はお勧めできません。詳しくは、「タイヤ」の項をご覧ください。

索　引

ア行

カ行

索　引

サ行

索　引

タ行

索　引

ナ行

ハ行

索　引

索　引

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行